

想いを、まちへ。



# MINATO BANK 2009

みなと銀行ディスクロージャー誌

# おかげさまで10周年。 これからもずっと、 このまちとともに。

わたしたち「みなと銀行」は、  
おかげさまで、4月1日、発足10周年を迎えることができました。


これもひとえに、  
お客さま、地域の皆さま、株主の皆さまの  
あたたかいご支援、ご愛顧の賜物と  
役職員一同深く感謝しております。

これからも変わることなく、  
お客さまに合った、より良い商品やサービス、  
暮らしや事業に役立つ情報などのご提供を通じて  
地域の皆さまに喜んでいただくことを目指しながら  
さらに前進してまいります。

今後とも変わらぬご愛顧を賜りますよう  
何卒よろしくお願い申し上げます。

株式会社みなと銀行  
取締役 篠本 信裕

## 想いを、まちへ。

 **みなと銀行**

## ごあいさつ

皆さまには、平素よりみなと銀行をお引き立ていただきまして、誠にありがとうございます。

このたび、当行に対する皆さまのご理解をさらに深めていただきますようディスクロージャー誌「MINATO BANK 2009」を作成いたしました。本誌では、当行の経営方針や業務内容、平成20年度の業績等について、分かりやすくご紹介することを心がけました。ぜひ、ご一読いただければ幸いに存じます。

さて、当行は本年4月、発足10周年を迎えることができました。これもひとえに、お客さま、地域の皆さま、株主の皆さまのご支援、ご愛顧の賜物と改めて感謝申し上げます。

今後とも、皆さまの幅広いニーズにお応えするため、金融サービスの拡充に努めますとともに、三井住友銀行グループの地域金融機関として、金融・情報サービスの提供を通じて、地域に貢献してまいります。より一層のご支援、お引き立てを賜りますようお願い申し上げます。

平成21年7月



取締役頭取

新本信裕

## CONTENTS

ごあいさつ	1
トップメッセージ	2
業績ダイジェスト	4
当行の取組	8
地域貢献活動について	17
地域の皆さまの利便性向上	22
TOPICS[トピックス]	23
10周年記念の取組	24
<b>■営業のご案内</b>	
融資業務	26
預金業務	28
国際業務	30
証券業務	31
保険代理店業務	33
各種サービス	34
主要手数料	35
<b>■みなと銀行の概要</b>	
沿革	36
株式の状況	37
役員一覧	38
組織図	39
店舗一覧	40
住宅ローンプラザ・店舗外自動サービスコーナー	43
店舗配置図	44

### ■資料編

連結情報	
事業の内容	46
主要な経営指標等の推移	47
連結財務諸表	48
連結自己資本比率の状況	56
単体情報	
主要な経営指標等の推移	57
財務諸表	58
損益の状況	65
預金業務	69
貸出業務	70
内国為替・国際業務・証券業務	73
有価証券	75
デリバティブ取引情報・オフ・バランス取引情報	77
ALM	79
単体自己資本比率の状況	80
諸比率	81
従業員の状況	82
<b>■バーゼルⅡ 追加開示事項</b>	83
法定開示項目	95

## みなと銀行概要

(平成21年3月31日現在)

名称：株式会社 みなと銀行  
本店所在地：〒651-0193  
神戸市中央区三宮町2丁目1番1号  
電話番号：078(331)8141(代表)  
店舗数：108カ店（兵庫県 103カ店）  
（大阪府 4カ店）  
（東京都 1カ店）  
資本金：274億円  
発行済株式総数：410,940千株

株主数：10,236人  
従業員数(除出向者)：2,020人  
預金：2兆6,214億円  
貸出金：2兆2,498億円  
自己資本比率：連結 9.37%  
(国内基準) 単体 9.40%  
格付け：長期優先債務格付け「A-」  
(株式会社日本格付研究所)  
長期預金格付け「Aa2」  
(ムーティーズ・インバスターズ・サービス)

# おかげさまで10周年。 これからもずっと、このまちとともに。



頭取 藪本 信裕

## おかげさまで10周年

平成21年4月1日、みなと銀行は発足10周年を迎えることが出来ました。

これもひとえに、お客さま、地域・株主の皆さまをはじめとする多くの方々のご愛顧、ご支援の賜物と厚く御礼申し上げます。

さて、平成20年度は、欧米発の金融危機の影響が我が国経済にも波及し、年度後半には景気は急角度で減速していきました。そのような環境下、当行は住宅ローンを中心とする貸出金や預金の順調な増加を背景に、コア業務純益200億円台を維持することが出来ました。お取引先の業況悪化による与信関係費用の増加を主因に、88億円の当期純損失を計上することになりました。

この結果を踏まえ、当行は既に着手済みの審査体制の強化、経費の更なる見直しに加え、法人新規開拓・ソリューション営業体制の強化やローン・個人預り資産の商品拡充などの諸施策を推進しております。これらの施策により早期の業績回復を果たすとともに、収益基盤、財務基盤の一層の充実を図り、皆さまのご期待にお応えできるよう努めてまいります。

## 新たな10年へ ～Next Stageに向けて～

当行は、平成20年度にスタートした中期経営計画「MINATO 10(テン)」において、計画期間の3年間を「お客さま・地域・株主・従業員から、真に『信頼される地域のコアバンク』を具現化するための礎を築く期間」として位置付けております。

当面、厳しい経営環境が続くと予想されますが、こういった厳しい時期こそお客さまとの一層の信頼関係を築く良い機会であるとの認識の下、当行の経営理念「地域のみなさまとともに歩みます～金融・情報サービスの提供を通じて、地域に貢献します～」に立ち返り、中期経営計画に掲げた「10の公約(主要施策)」を地道に遂行してまいります。

そして、「みなと銀行は“地域になくてはならない銀行だ”」と一人でも多くのお客さまに言っていただける存在を目指して、グループ会社を含め役職員一同、新たな10年に向けて全力で取組んでまいります。

## 中期経営計画「MINATO 10(テン)」

スローガン

「MINATO 10(テン)」～Next Stageに向けて～

計画期間

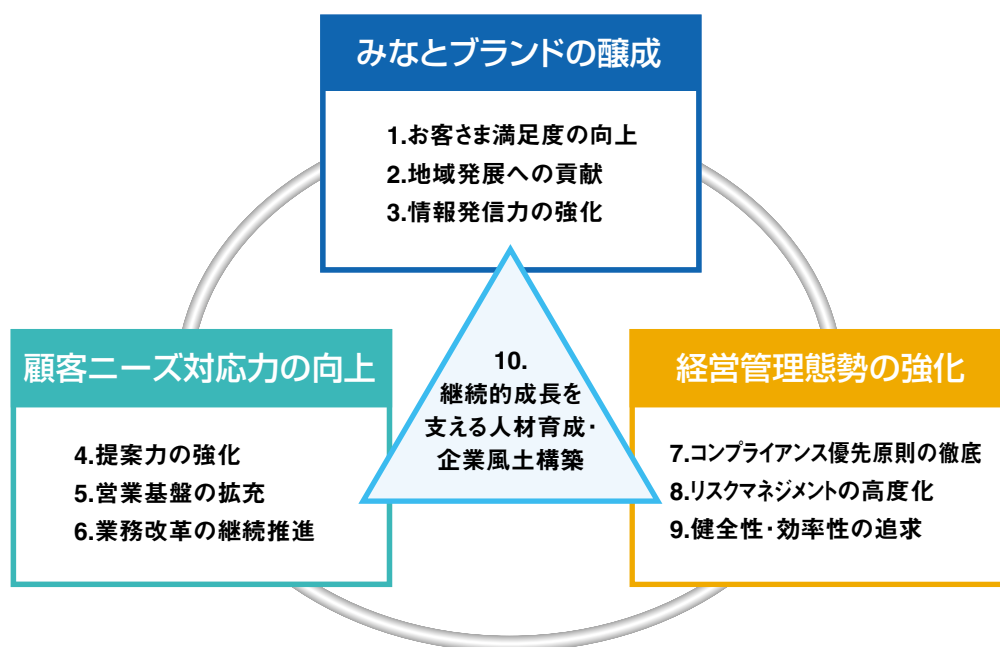
平成20年4月1日～平成23年3月31日

位置付け

お客さま・地域・株主・従業員から、真に『信頼される地域のコアバンク』を具現化するための礎を築く3年間

基本方針

「3つの基本方針」とその遂行に向けた「10の公約(主要施策)」



主要計数計画  
〔単体〕

項目	平成21年3月期実績	平成23年3月期計画
コア業務純益	204億円	240億円
当期純利益	△88億円	80億円
OHR (注1)	61.4%	60% 未満
自己資本比率(連結) (注2)	9.37%	10% 程度

(注1) 経費÷コア業務粗利益(業務粗利益から債券関係損益を除く)

(注2) 自己資本比率には資本政策等は考慮しておりません

本資料には、将来の業績に関する記述が含まれております。こうした記述は将来の業績を保証するものではなく、リスクと不確実性を内包するものであります。将来の業績は、経営環境の変化に伴い、目標対比変化しうることにご留意下さい。



# 業績ダイジェスト [単体]

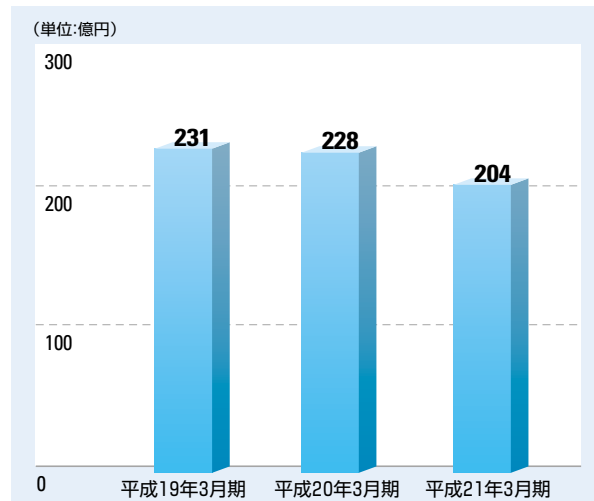
## 収益の状況

市況低迷に伴う投資信託の販売減少等により役務取引等収益が減少したことなどから、コア業務純益は前期比24億円減少の204億円となりました。

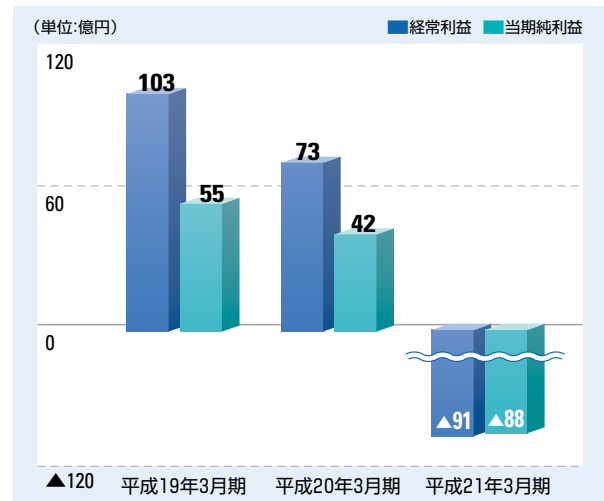
また、昨年来の急速な景気悪化に伴う取引先の倒産、業況悪化に加え、今期以降の着実な業績回復を図るべく、今後

の企業業績悪化に備え引当金を積み増したことにより貸倒引当金繰入額が大幅に増加した結果、経常利益は前期比164億円減少し△91億円、当期純利益は前期比130億円減少し△88億円となりました。

### コア業務純益



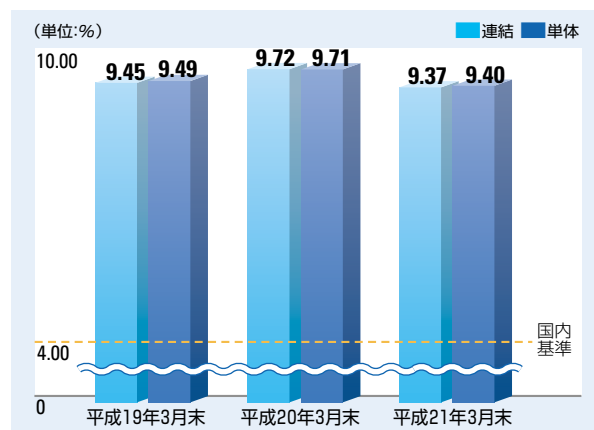
### 経常利益、当期純利益



### 自己資本比率 (国内基準)

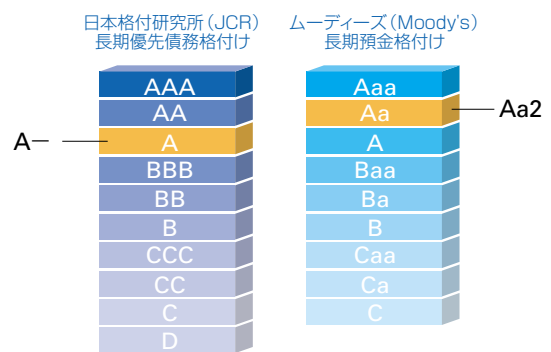
平成21年3月末の自己資本比率は、連結:9.37% (前年同月末比△0.35%)、単体:9.40% (同△0.31%)となりました。

国内基準で必要とされる4%を大幅に上回る水準を確保しております。



### 格付機関による当行の評価

当行では、株式会社日本格付研究所 (JCR) から、長期優先債務格付け「A-」、ムーディーズ・インベスターズ・サービス (Moody's) から、長期預金格付け「Aa2」を取得いたしております。



### 用語解説

#### 格付け

企業が発行する債券や預金等の元利金が約束どおり支払われる確実性の度合いを、中立的な第三者である格付機関が簡潔な記号で表したものです。

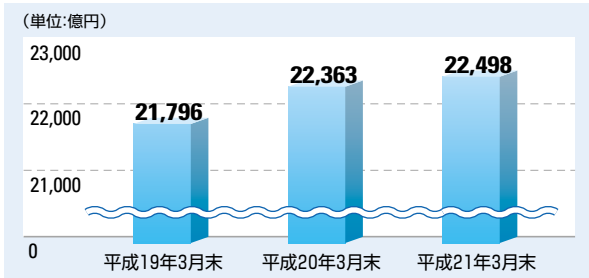
	平成19年3月期	平成20年3月期	平成21年3月期
経常収益	67,698	73,587	69,349
コア業務純益	23,190	22,832	20,430
業務純益	23,138	19,540	17,596
経常利益	10,368	7,342	△9,182
当期純利益	5,577	4,229	△8,850
1株当たり配当額	4円	4円	—
1株当たり当期純利益	14円25銭	10円30銭	△21円55銭
ROA (コア業務純益ベース)	0.87%	0.83%	0.72%
ROE (当期純利益ベース)	5.96%	4.30%	—

(単位: 百万円)

## 資産等の状況

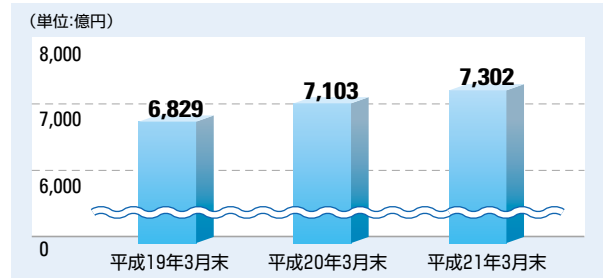
### 貸出金残高

貸出金残高は、住宅ローンの推進に注力するとともに、地元企業の資金ニーズへの対応や法人新規開拓に努めた結果、前期末比135億円増加し、2兆2,498億円となりました。



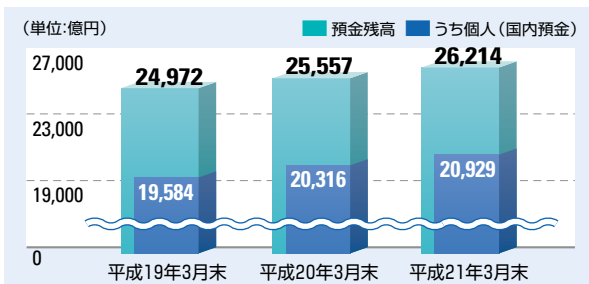
### 住宅ローン残高

住宅ローン残高は、前期末比199億円増加し、7,302億円となりました。



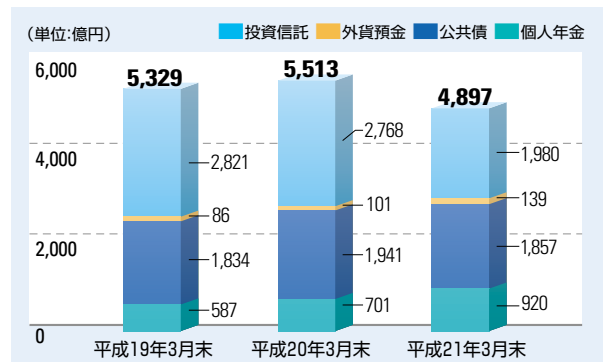
### 預金残高

個人のお客さまの多様な資産運用ニーズにお応えするため、預金をはじめ投資信託、外貨預金、個人年金保険などの資産運用のご相談に積極的に対応いたしました。その結果、預金残高は、前期末比657億円増加し、2兆6,214億円となり、とりわけ個人預金の残高は、前期末比613億円増加し、2兆929億円となりました。



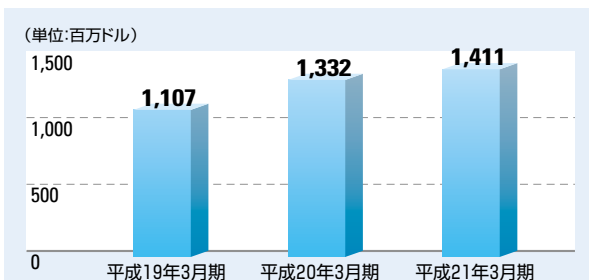
### 個人預り資産残高

個人預り資産残高は、個人年金保険については順調に増加したものの、市況低迷の影響等により投資信託の販売が減少したため、前期比616億円減少の4,897億円となりました。



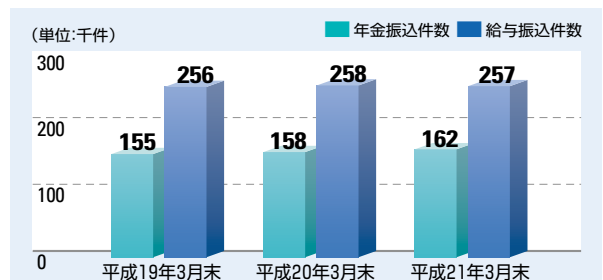
### 貿易為替取扱高

貿易為替取扱高は、お取引先企業の貿易取引などのニーズに積極的にお応えした結果、前期比79百万ドル増加し、1,411百万ドルとなりました。



### 総合取引

地域の皆さまとの取引基盤となる年金・給与振込件数は、以下のとおりとなりました。



(単位：百万円)

	平成19年3月期	平成20年3月期	平成21年3月期
総資産額	2,734,648	2,794,620	2,859,400
純資産額	99,071	97,625	87,200
1株当たり純資産額	241円31銭	237円80銭	212円42銭
預金残高	2,497,261	2,555,795	2,621,453
貸出金残高	2,179,688	2,236,307	2,249,888
自己資本比率(単体)	9.49%	9.71%	9.40%
従業員数	1,795名	1,879名	2,020名
店舗数	108ヵ店	109ヵ店	108ヵ店
OHR(経費÷コア業務粗利益)	58.35%	58.84%	61.44%

## 不良債権への対応について

不良債権の開示については、「金融機能の再生のための緊急措置に関する法律」（金融再生法）に基づく開示基準と銀行法に基づくリスク管理債権があります。

金融再生法に基づく開示基準では、自己査定 of 債務者区分が破綻先・実質破綻先の総与信を「破産更生債権及びこれらに準ずる債権」として、また破綻懸念

先の総与信を「危険債権」として開示するほか、要留意先のうち3ヵ月以上延滞債権及び貸出条件緩和債権に該当する貸出金を「要管理債権」として開示しております。

当行では、今後とも地域金融機関の使命として地域企業の再建支援を基本スタンスとし、債権の健全化を図ってまいります。

## 貸出金等の状況 (平成21年3月末)

自己査定、開示債権及び償却・引当との関係【単体】

(単位:億円)

自己査定 of 債務者区分	金融再生法に基づく開示債権	自己査定における分類額				引当金残高	引当率
		非分類	Ⅱ	Ⅲ	Ⅳ		
破綻先	<破産更生債権及びこれらに準ずる債権> 破綻先 169 実質破綻先 184 ①合計 353 (構成比) 1.54%	担保・保証による保全部分 271		全額引当 81		81	100%
実質破綻先							
破綻懸念先	<危険債権> ② 475 (構成比) 2.07%	担保・保証による保全部分 315		必要額を引当 160		122	76.27%
要注意先	<要管理債権> ③ 45 (構成比) 0.20%	要管理債権中の 保全部分 23 未保全部分 22				8	37.71%
正常先	<正常債権> 22,092 (構成比) 96.18%	要管理債権以外の要注意債権				140	平均 0.61%
総合計	総合計 22,967 (構成比) 100%					E 353	

<b>A=金融再生法開示債権</b> (①+②+③) 875 3.81%	<b>B=担保・保証による保全部分</b> 609	<b>C=未保全部分</b> 265	<b>D=うち①+②+③に対する引当金</b> 213	<b>保全率</b> (B+D)/A 94.03%
---	------------------------------	-----------------------	--------------------------------	---------------------------------

<b>開示債権引当率</b> E/A 40.41%
---------------------------------

<b>担保・保証控除後債権に対する引当率</b> D/C 80.30%
---

(注1) 金額は、億円未満を切り捨てて表示しています。

(注2) 破綻先・実質破綻先に対して部分直接償却337億円を実施しています。

(注3) 引当率は、各区分に対する各引当額によるカバー率を示していますが、「破産更生債権及びこれらに準ずる債権」「危険債権」「要管理債権」については開示額から担保により保全されている金額を除いた残額に対するカバー率を、「正常債権」は債権額全体に対するカバー率を示しております。



## 金融再生法に基づく開示債権【単体】

(単位：百万円)

	平成20年3月末	平成21年3月末	前期末比増減
破産更生債権及びこれらに準ずる債権	20,720	35,366	14,646
危険債権	26,268	47,577	21,309
要管理債権	17,368	4,585	△12,783
合計	64,357	87,529	23,172
総与信残高に占める割合	2.80%	3.81%	1.01%

## 金融再生法に基づく開示債権の保全状況

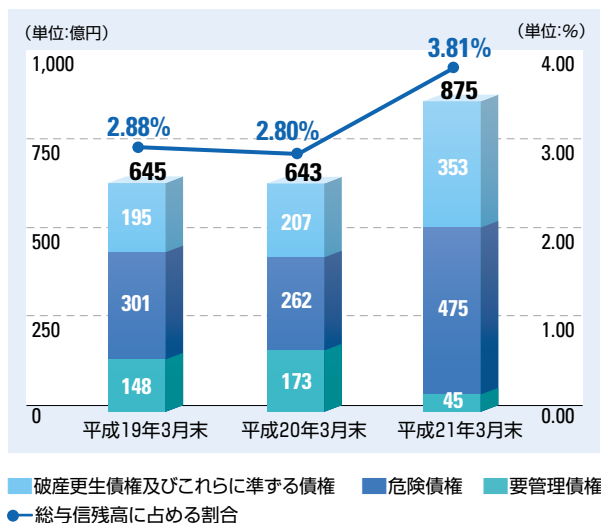
(単位：百万円)

平成21年3月末	破産更生債権及びこれらに準ずる債権	危険債権	要管理債権	合計
与信残高(A)	35,366	47,577	4,585	87,529
担保保証等(B)	27,176	31,504	2,317	60,999
貸倒引当金(C)	8,189	12,260	855	21,305
保全率(B+C)/(A)	100.00%	91.98%	69.19%	94.03%

資産内容の健全性向上を図るため、不良債権処理を進める一方で、お取引先の経営改善支援にも積極的に取り組みました。しかしながら、景気が低迷する中、不動産市況の悪化等の影響を受け、一部お取引先の倒産や業況悪化により、金融再生法に基づく開示債権額は、前期末比23,172百万円増加し、87,529百万円となりました。

これにより、開示債権比率（総与信に占める開示債権額の比率）は前期末比1.01%上昇し3.81%となりました。なお、開示債権については94.03%が担保・保証等及び引当金により保全されております。

## 金融再生法に基づく開示債権額の推移



## リスク管理債権【単体】

(単位：百万円)

	平成20年3月末	平成21年3月末	前期末比増減
破綻先債権	6,549	16,609	10,060
延滞債権	39,453	64,680	25,227
3ヵ月以上延滞債権	300	498	198
貸出条件緩和債権	17,067	4,087	△12,980
合計	63,370	85,875	22,505
貸出金に占める割合	2.83%	3.81%	0.98%

## リスク管理債権【連結】

(単位：百万円)

	平成20年3月末	平成21年3月末	前期末比増減
破綻先債権	6,411	16,682	10,271
延滞債権	39,851	64,876	25,025
3ヵ月以上延滞債権	300	498	198
貸出条件緩和債権	17,067	4,087	△12,980
合計	63,630	86,144	22,514
貸出金に占める割合	2.85%	3.83%	0.98%

リスク管理債権額（単体）と金融再生法開示債権額（単体）に差額が発生する理由は、リスク管理債権額の開示対象が貸出金であるのに対し、金融再生法開示債権は貸出金の他に貸付有価証券、外国為替、未収利息、仮払金、支払承諾見返、私募債を開示対象としているためです。

## 用語解説

## ■金融再生法に基づく開示債権

## 破産更生債権及びこれらに準ずる債権

破産手続開始、更生手続開始、再生手続開始の申立て等の事由により経営破綻に陥っている債務者に対する債権及びこれらに準ずる債権です。

## 危険債権

経営破綻の状態には至っていないが、財政状態及び経営成績が悪化し、契約に従った債権の元本の回収及び利息の受取りができない可能性の高い債権です。

## 要管理債権

3ヵ月以上延滞債権と貸出条件緩和債権です。  
(但し、破産更生債権及びこれらに準ずる債権・危険債権は除く)

## ■リスク管理債権

## 破綻先債権

元本又は利息の支払の遅延が相当期間継続していることその他の事由により、元本又は利息の取立て又は弁済の見込みがないものとして未収利息を計上しなかった貸出金のうち、会社更生法・破産法などの法的な整理手続きの開始申立があった債務者及び手形交換所の取引停止処分を受けた債務者に対する貸出金です。

## 延滞債権

元本又は利息の支払の遅延が相当期間継続していることその他の事由により、元本又は利息の取立て又は弁済の見込みがない貸出金のうち、破綻先債権及び債務者の経営再建又は支援を図ることを目的として利息の支払を猶予した貸出金以外の貸出金です。

## 3ヵ月以上延滞債権

元本又は利息の支払が約定支払日の翌日から3ヵ月以上遅延している貸出金で、破綻先債権及び延滞債権に該当しない貸出金です。

## 貸出条件緩和債権

債務者の経営再建又は支援を図ることを目的として、金利の減免、利息の支払猶予、元本の返済猶予、債権放棄その他の債務者に有利となる取決めを行った貸出金で、破綻先債権、延滞債権及び3ヵ月以上延滞債権に該当しない貸出金です。

## コーポレート・ガバナンスについて

### コーポレート・ガバナンスに関する基本的な考え方

当行及びグループ各社では、コーポレート・ガバナンスの強化・充実を経営上の最重要課題の一つとして位置付けており、以下の「経営理念」及び「行動原理」

の遵守を通じて、健全経営の堅持、地域社会の健全な発展への貢献等の実現に努めております。

#### 経営理念

### 地域のみなさまとともに歩みます

金融・情報サービスの提供を通じて、地域に貢献します

#### 行動原理 (企業倫理)

### 銀行の公共性・社会的責任の自覚

銀行はその公共的役割を自覚し、自己責任原則に基づく健全経営に徹し、その社会的使命を全うすることをもって、地域の経済・社会の安定的発展に寄与します。

### 顧客志向に徹する

お客さまあつての銀行であることを常に心がけ、お客さまに誠心誠意・親切の心で接し、真摯な姿勢でニーズに耳を傾けるとともに、正確・迅速そして顧客満足度の高い金融サービスを提供します。

### 誠実・公正な行動

法令及びその精神を遵守し、社会的規範に悖ることのないよう常に誠実かつ公正な行動を行います。

### 地域社会への貢献と調和

当行は「地域に貢献する」という経営理念を実現するために、地元と共に歩み地域社会に貢献するという考え方を大きな方針の一つとしています。また、当行は、地元貢献するだけにとどまらず、「良き企業市民」としての理想像に近づくため、事業活動においても反社会的行為や倫理に悖る行為を排除することを行動原理とし、社会とのコミュニケーションを密にして、企業行動が社会の常識と期待に沿うよう努めます。

### 人間性尊重

ゆとりと心の豊かさを大切に、バイタリティ溢れる、働き甲斐のある企業風土を築きあげます。

## コーポレート・ガバナンスの体制

当行では、取締役や職員、監査役等がそれぞれの業務について、適正かつ効率的な対応が図れるよう、内部統制システムに関する基本方針を定めるとともに、コーポレート・ガバナンスの強化・充実のため、以下の体制を敷いております。

### 取締役会

取締役会は、原則毎月1回開催し、当行の経営に関する重要な意思決定を行うとともに、取締役の業務執行を監督しております。

### 監査役会

当行は監査役制度を採用し、監査役会は、原則毎月1回開催し、各監査役は、監査役会で策定した監査方針および監査計画に基づき、取締役会をはじめとする重要な会議への出席や、業務および財産の状況調査などを通じて、監査業務を適正に実施しております。

また、監査役の監査業務の遂行を補佐するために、監査役室を設置しております。

### 経営会議

経営会議は、原則毎週1回開催し、取締役会の意思決定や経営会議規程に基づき、業務執行に関する重要事項の決定などを行っております。

なお、リスク管理に関する重要事項につきましては、経営会議の一部を構成する総合リスク会議で決定などを行っております。

### 各種委員会

#### ■コンプライアンス委員会

コンプライアンス委員会は、コンプライアンス重視の企業倫理確立のための諸施策をはじめ、コンプライアンス・プログラムの進捗状況の確認や不祥事故等防止対策の審議・検討を目的として、原則3カ月に1回開催しております。

#### ■信用リスク委員会

信用リスク委員会は、信用リスクの状況の把握・検証・報告、対応方針・対応策や与信ポートフォリオ管理および大口集中リスク管理、運営方針の審議・検討を目的とし、原則3カ月に1回開催しております。

### ■ALM委員会

ALM委員会は、資産・負債に内含する市場リスク(金利リスク・為替リスク・株価リスク等)・流動性リスク(資金繰りリスク・市場流動性リスク等)の一元管理を通じ、バランスシートの健全性および収益性の維持・向上と適切な運用・調達戦略等の審議・検討を目的とし、原則毎月1回開催しております。

### ■オペレーショナルリスク委員会

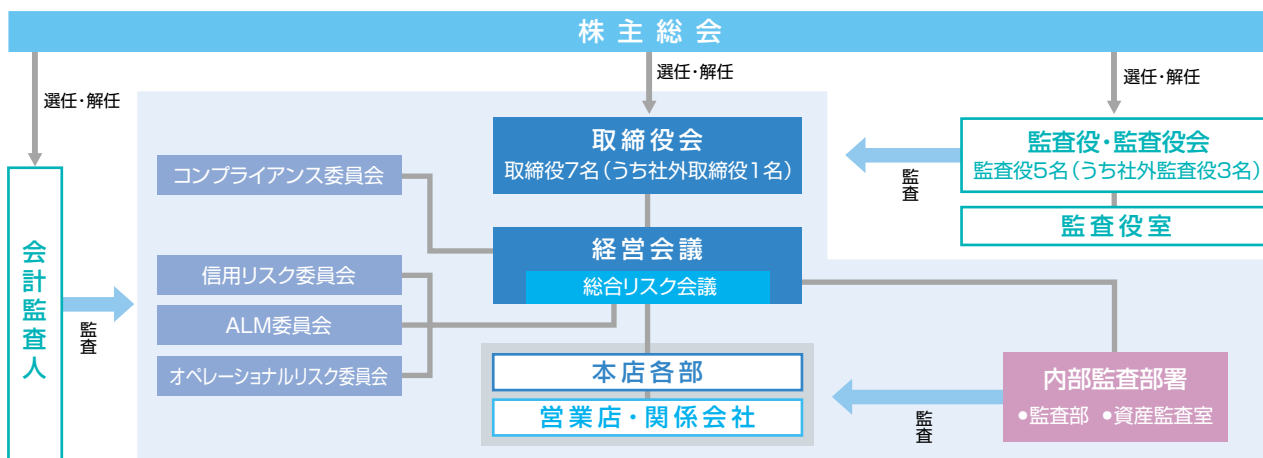
オペレーショナルリスク委員会は、オペレーショナルリスク(内部プロセス・人・システムが不適切であることもしくは機能しないこと、または外生的事象が生起することから生じる損失に係るリスク)に関する情報の分析・報告およびオペレーショナルリスク削減のための必要な諸施策等の審議・検討やオペレーショナルリスクの顕在化事象の原因分析、再発防止策、顕在リスクの未然防止策等の審議・検討を目的とし、原則毎月1回開催しております。

### 内部監査

当行では、他の部門から独立した内部監査組織として監査部を設置し、本部・営業店・関係会社の業務運営状況、リスク管理状況を検証しており、改善策等の指示や提言を行うとともに、検証結果は取締役会および監査役に報告しております。

また、監査部と監査役、会計監査人はそれぞれ情報交換等を通じて、相互に連携する体制をとっております。

### 体制図



## CSR (企業の社会的責任) について

### CSR (企業の社会的責任) に対する取組について

#### CSRの基本方針

当行は、「金融・情報サービスの提供を通じ地域に貢献」することを経営理念に掲げ、地域社会の発展に貢献できるよう、金融・情報サービスの提供に努めてまいりました。

当行グループでは、CSRの定義を、「事業を遂行する中で、①お客さま、②株主・市場、③社会・環境、④従業員に、より高い価値を提供することを通じて、地域社会の持続的な発展に貢献していくこと」と定めるとともに、「銀行の公共性・社会的責任の自覚」「顧客志向に徹する」「誠実・公正な行動」「地域社会への貢献と調和」「人間性尊重」の5項目からなる『当行の行動原理』を当行グループのCSRにおける共通理念と位置付けております。

#### CSRへの取組のポイント

コーポレートガバナンス体制、内部監査体制、コンプライアンス体制、リスク管理体制などを整備して、磐石な経営体制を構築します。

次に、各ステークホルダーの期待を的確に把握し、より高い価値を提供していきます。

- お客さまにより高い価値のある商品・サービスを提供し、お客さまとともに発展していきます。
- 適切な情報開示を行うとともに、内部統制の整備を通じて、健全な経営を堅持し、株主価値の増大に努めます。
- 社会貢献活動・環境活動に継続的かつ積極的に取り組み、地域社会への貢献、地球環境の保全等に努めます。
- 人を尊重し、従業員がその能力を遺憾なく発揮できる企業風土を醸成します。

このような活動を通じ、地域社会の持続的な発展に寄与していきます。

## リスク管理体制について

業務範囲の拡大や金融技術の革新等により、銀行の直面するリスクが多様化・複雑化する中、経営の健全性の維持・向上のためには、リスクを正確に把握し、適切にコントロールしていくことが、極めて重要であります。

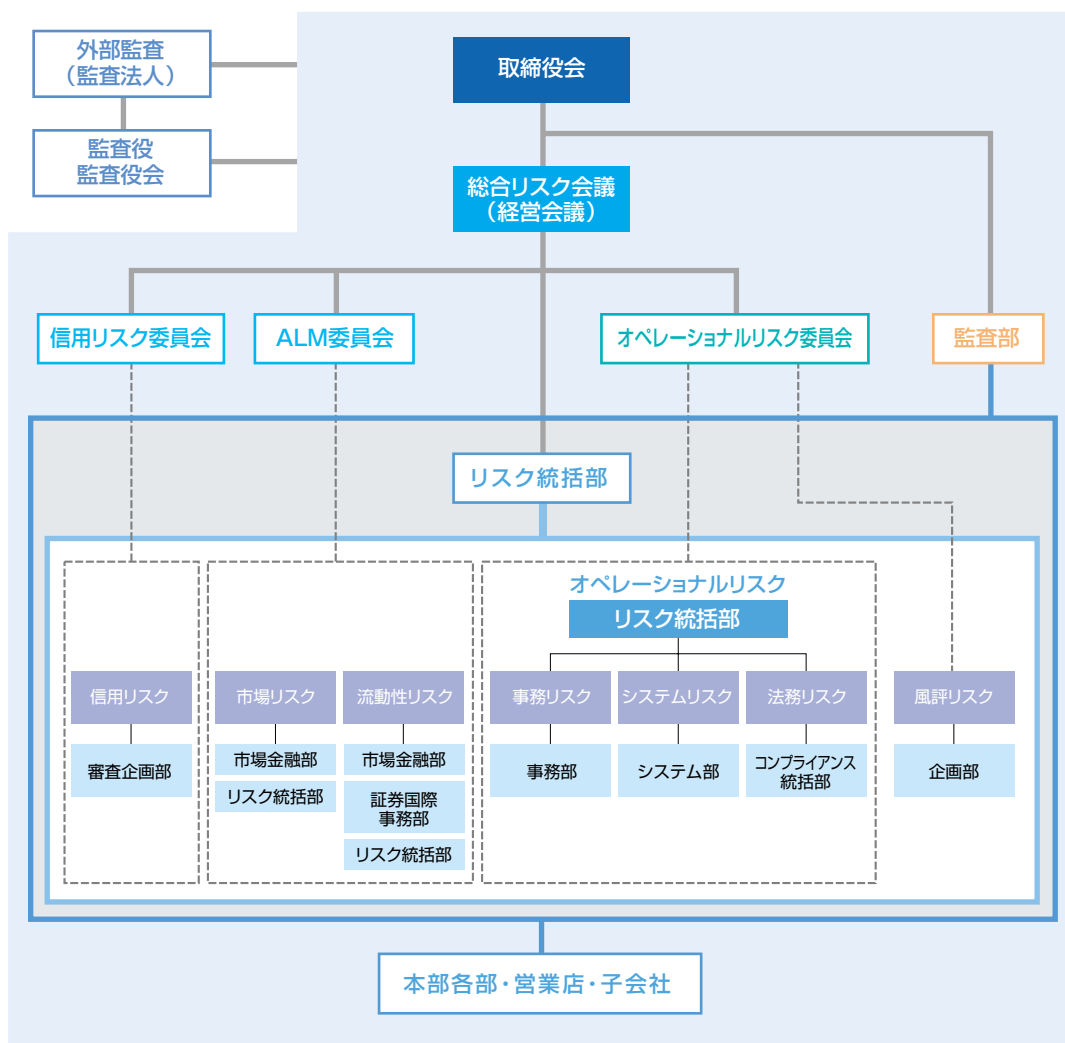
当行では、リスク管理体制の構築を経営の最重要課題のひとつとして位置づけ、リスクの種類毎にリスク管理所管部署を定め、各種リスクを的確に把握するとともに、それら各種リスクを一元的に把握・管理する部署としてリスク統括部を設置し、各種リスクを総合的に管理・コントロールする体制の強化に努めております。

リスク管理に係る審議・決定等の機関として、「総合

リスク会議」と「信用リスク委員会」「ALM委員会」「オペレーショナルリスク委員会」の3つの委員会を設置しております。「総合リスク会議」は銀行全体のリスク状況の把握・検証、対応方針・対応策等の審議・決定を行い、各委員会は組織横断的・統一的な各リスク状況の把握・検証、対応方針・対応策の審議・検討等を行っております。

また、「監査部」が他の部門から独立した内部監査組織として本部・営業店・子会社の業務運営状況、リスク管理状況をチェックするとともに、監査法人による外部監査体制を敷いております。

## ■リスク管理体制





## 1 信用リスク管理

信用リスクとは、財務内容の悪化等、お取引先の信用状況の変化により、貸出金等の資産の価値が減少ないし滅失し、損失を被るリスクをいいます。

当行では、融資業務の規範を明文化した「クレジットポリシー」を遵守し、健全で適切な業務運営を行うとともに、信用リスク管理に関する基本方針を定めた「信用リスク管理規程」に基づき、信用リスクの適切な管理と、信用リスクの程度に応じた効率的な与信運営により、資産の健全性、収益性の維持向上を図っております。

その管理の基盤の一つとして信用格付制度を導入しております。信用格付は、ご融資先を債務履行の確実性の程度に応じて区分したもので、ご融資先の信用リスクの程度を示す客観的な指標であります。ご融資先をそのリスクの程度に応じて区分することで、効率的な与信運営が可能となります。

具体的には、信用格付別の貸出案件の採上基準や貸出承認権限基準等の設定により、リスクの程度に応じた重点(効率)審査を行っていくと共に、信用状況の恒常的なモニタリングを通じて、問題発生兆候を逸早く捉え問題の程度に応じた重点(効率)管理を行っております。

また、資産の健全性確保や、資産内容を適正に反映した財務諸表の作成及び適切な償却・引当の実施のために、資産の自己査定を行っております。自己査定は、当行が保有する資産を回収の危険性又は価値の毀損の危険性の度合いに従って区分するもので、信用リスクを管理する手段として重要な役割を果たしております。自己査定結果に基づき、貸倒等の実態を踏まえ債権等

の将来の予想損失額等を適時・適切に見積り、その程度に応じて償却・引当を行うことで、資産の健全性を確保しております。

こうした「信用格付」や「自己査定」により信用リスクを定量的に把握・管理し、与信ポートフォリオ全体の信用リスクの程度や、特定業種・大口個社等へのリスクの集中度合いの把握を行い、その状況を経営陣へ報告すると共に必要に応じて、適切なリスク制御・リスク分散、問題与信の圧縮等、与信ポートフォリオの改善策を策定・実施することとしております。

具体的な取組として、審査部門内に特定の業種や特定の大口与信先、また問題債権等を所管する専任部署を設け、審査体制の強化に努めております。

一方、審査部門から独立した監査部門内に「与信監査室」を設置し、「信用格付」や「自己査定」の正確性、与信運営状況等のチェックを行う体制を敷き、資産内容の健全性確保を図っております。

なお、当行では、融資を取組むにあたっては、ご融資先の経営状況、資金使途、回収可能性等を総合的に判断しておりますが、信用リスクを軽減するために担保・保証を差し入れて頂くことがあります。担保や保証については、担保の種類や保証人の保証能力等による区分を始め、その管理方法や評価方法を定めた「担保・保証取扱規則」や「事務取扱手続」等の行内規定に基づき適切な取扱いを行っております。特に担保の大宗を占める不動産担保については適時・適切かつ厳正な担保評価を行うべく詳細な規定を定めております。

## 2 オペレーショナルリスク管理

オペレーショナルリスクとは「内部プロセス・人・システムが不適切であること、若しくは機能しないこと、または外生的事象が生起することから生じる損失にかかるリスク」をいいます。

当行では、オペレーショナルリスクの管理を行うに際しての基本的事項を定めた「オペレーショナルリスク管理規程」を制定し、業務とリスクの特性に応じて識別、評価、コントロール、モニタリングするための効果的なフレームワークを整備することを基本方針としております。事務リスク、システムリスク、法務リスクに分類して個別

に管理するとともに、オペレーショナルリスク管理全般を統括・一元管理する部署を設置し、リスク管理の実効性を高めるため、各部署にオペレーショナルリスク・オフィサーを配置して管理統括部署と連携させ、個々のオペレーショナルリスクを共通の枠組のもとで統合的に管理しております。更に、行内の横断的組織である「オペレーショナルリスク委員会」を設置し、全行的な観点からリスクの状況を把握・検証し、対応方針や対応策の審議・検討等を定期的に行う実効性の高い体制としております。



# 当行の取組

当行では、リスク管理に活用するデータとして、各部署で発生した内部損失データをデータベース化し定期的に分析しております。また、全ての部署を対象に業務プロセス等から想定されるリスク・シナリオを網羅的に導出させ、リスクコントロールアセスメント(リスクとコントロールの有効性に関する自己評価)を実施したうえで、各シナリオの損失の発生額および発生頻度の推計を行っております。

このリスク・シナリオはリスクの状況を把握するための重要なデータであることから、データベース化したうえで、収集した内部損失データ、外部損失データ、業務環境や内部統制要因等の客観的な情報に基づき継続的にメンテナンスを行っており、定期的なリスクコントロールアセスメントの実施により、各種の情報を適切に反映させ、シナリオの網羅性と適切性を確保するよう努めております。

このように当行のリスクプロファイルを反映させたシナリオをデータとして整備し、シナリオ毎にリスクへの影響度の評価を行い、影響度の高いシナリオについて各部署でリスク削減の計画を検討・実施することとしており、リスクの定量化を活用した管理態勢により、効率的かつ効果的な管理を行っております。

## ■ 事務・システムリスク管理

事務リスクとは、正確な事務処理を怠る、あるいは事故や不正等を起こすことにより、損失を被るリスクをいいます。

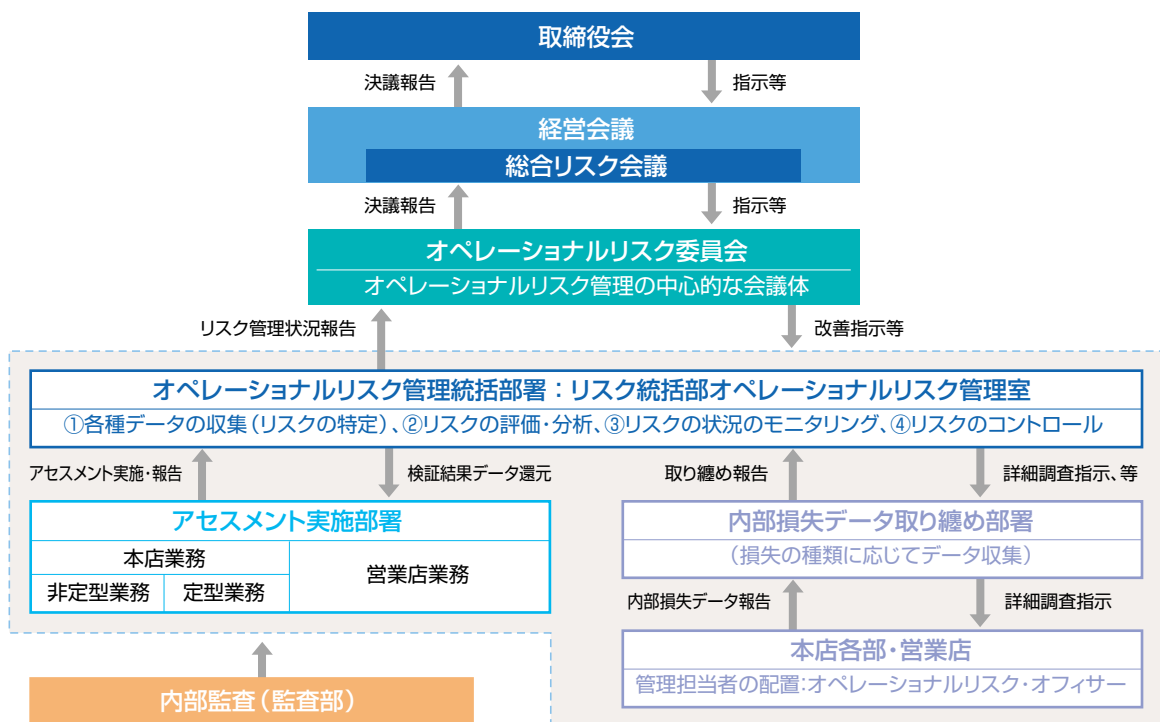
当行では、事務のスリム化や本部集中を進めるとともに、集合研修や事務部による臨店指導を実施し、事務リスクの削減と事務水準の向上を図っております。更に、監査部による臨店監査や、本部・営業店が自ら検査を実施する店内検査を定期的に行い、事故・不正等の未然防止に努めております。

システムリスクとは、コンピュータシステムの停止や誤作動、あるいは不正使用やデータ漏洩等により、損失を被るリスクをいいます。

当行では、その影響の大きさから、コンピュータシステムを安定的に稼働させることや、お取引先情報を適切に管理することが社会的責務であるとの認識のもと、「セキュリティポリシー」をはじめシステムリスク管理規程や具体的な管理基準を定め、それらに基づく厳正な運用管理を行っております。また、万一の不測の事態に備えて、コンティンジェンシープランを策定するとともに、定期的に模擬訓練を実施しております。

更に、内部監査および外部監査を実施し、定期的に評価・改善することで、より安全なコンピュータシステムの稼働と厳正なデータ管理に努めております。

## ■ オペレーショナルリスク管理体制



### 3 市場リスク・流動性リスク管理

市場リスクとは、金利・為替・株式などの相場が変動することにより、金融資産・負債の価値が変動し、損失を被るリスクをいいます。

流動性リスクとは、資金調達と運用の期間のミスマッチや予期せぬ資金の流出により、資金繰りに支障をきたしたり、通常より著しく高い金利での調達を余儀無くされることにより損失を被るリスクをいいます。

当行では、フロントオフィス・ミドルオフィス・バックオフィスの組織的な分離を行い、相互牽制機能を確保するとともに、監査部門がリスク管理プロセスの適切性等を検証する体制としております。

市場リスクについては、半年毎に市場見通しやALM・有価証券の運営方針、経営体力等を勘案の上、許容可能な市場リスク量を定め、取引の種類毎にリスク資本枠<sup>(※1)</sup>、損失限度額、VaR<sup>(※2)</sup> 枠、ポジション枠の各リスク枠を設定しております。その上で、各リスク量があらかじめ定められた範囲内(リスク枠)に収まるように管理・運営を行っております。

また、各取引部署(フロントオフィス)はこれらの枠内で収益の向上に努めるとともに、ミドルオフィスが、株式等のリスクおよび債券の金利リスクは日次で、保有する全資産・負債等の金利リスクについては月次で、評価損益、実現損益、VaR等を計測しております。

流動性リスクについては、資金繰りの安全性を最重視し、期間毎に資金ギャップ<sup>(※3)</sup> 枠を設定し、管理しております。また、緊急時のアクションプランを定めた「流動性危機対策規則」を策定するとともに、国債等の資金化の容易な資産を潤沢に保有することにより、万一の市場混乱時にも取引の遂行に支障をきたさないよう、体制整備に万全を期しております。

当行では、「ALM委員会」を月次で開催し、景気・金利・株価・為替動向の予測や、収益状況の報告とともに、市場リスク・流動性リスクのリスク枠の遵守状況の報告・分析を行い、市場リスクのコントロールや資金の調達・運用について協議・検討し、安定的な収益を確保できる資産・負債構造の構築に努めております。

また、「ALM委員会」における協議・検討内容は、定期的に総合リスク会議に報告しております。

#### 用語解説

##### (※1) リスク資本枠

将来発生し得る最大損失額と現在発生している評価損失額および期中に実現した損失額を経営体力の範囲内に収めるために、自己資本の一部を配分したもの

##### (※2) VaR (バリュー・アット・リスク)

過去の市場変動を基に、現在保有する資産・負債から将来発生し得る最大損失額を確率的に算出したもの

##### (※3) 資金ギャップ

資金調達・運用の期間のミスマッチにより、将来資金調達が必要となる予想額

### 4 風評リスク管理

風評リスクとは、業務活動によって生じた各種のリスク事象に対する風評により、または虚偽の風説・悪意の中傷等が流布されることにより、当行の信用が毀損し、有形無形の損害を被るリスクをいいます。

当行では、日頃から積極的な広報活動やIR活動を通じ、お客さま、地域社会、株主・投資家、従業員といっ

たステークホルダーに対する適時・適切な情報開示を行い経営の透明性を高めることにより、風評リスクの発生防止に努めております。

また、定期的に風評のモニタリングと集約を行うとともに、風評リスクが顕在化した場合に、速やかに対策を講じるための体制を整備しております。

## コンプライアンス態勢

当行では、経営方針に則り、法令等遵守に係る基本方針を、「当行の役職員は、銀行の持つ社会的責任と公共的使命の重みを認識し、法令やルールを厳格に遵守するとともに、企業倫理を重視した行動を通じて、地域に貢献する」と定めています。

全ての役職員には、日々の業務遂行に当り、コンプライアンスの重要性を理解し、常に意識して最適な行動をとる事を求めています。

### 1. コンプライアンス統括部署の設置

当行では、コンプライアンス統括部署として、コンプライアンス統括部を設置しています。

コンプライアンス統括部は、当行役職員に対して、遵守すべき法令・諸規則・社会的規範の周知徹底を図り、違反行為を予防することを最優先課題とし、当行のコンプライアンスを統括しています。

### 2. 統括コンプライアンス・オフィサーの配置

各部店においては、部長がコンプライアンス責任者として、コンプライアンスに則って、所管業務を運営する全責任を負っています。

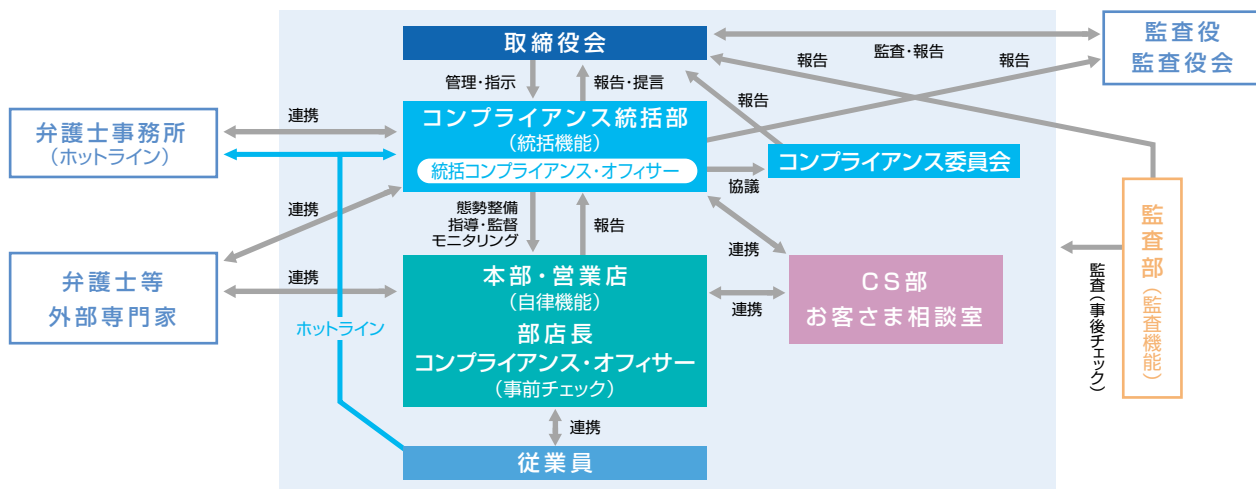
同時に、各部店には、コンプライアンス・オフィサーを配置し、コンプライアンスに違反する行為の未然防止・早期発見に努める体制としています。

加えて、コンプライアンス統括部内に、統括コンプライアンス・オフィサーを配置し、各部店のコンプライアンス責任者及びコンプライアンス・オフィサーを指揮・統括し、各部店におけるコンプライアンス取組状況の調査・教育・指導を行っています。

### 3. コンプライアンス委員会の設置

当行における法令等遵守態勢および事故防止対策の強化を目的として、コンプライアンス委員会を設置しています。コンプライアンス委員会では、コンプライアンス重視の企業倫理確立のための諸施策の協議やコンプライアンス・プログラムの進捗状況の協議等を行っています。

## 当行のコンプライアンス態勢



## 当行におけるコンプライアンスの実践

当行では、役職員に対して、銀行の公共的使命と社会的責任を認識するとともに、より高度な倫理観を持って行動することを求めています。

従って、法令や諸規則はもちろんのこと、社会的規範をも遵守し、確固たる倫理観に基づいた公正な行動をとらなければなりません。

それらを実践するための具体的なルールとして、全役職員が遵守しなければならない行動原理・行動指針を定めた「行動規則」、コンプライアンスに係わる全容(組織・体制・役割・手続等)を分かり易く解説した「コンプライアンス規則」、法務事例を解説し、かつ、ケーススタディ的なまとめをした手引書として「行動管理運用細則」を策定しています。

それらを一つの冊子にまとめた「コンプライアンスマニュアル」を制定し、役職員一人一人に配布し、コンプライアンスの徹底を図っています。

### 当行の行動原理

- |                    |                |
|--------------------|----------------|
| 1. 銀行の公共性・社会的責任の自覚 | 3. 誠実・公正な行動    |
| 2. 顧客志向に徹する        | 4. 地域社会への貢献と調和 |
|                    | 5. 人間性尊重       |

### 当行行員の行動指針

- |             |              |
|-------------|--------------|
| • 法令及び規則の遵守 | • 情報の不正使用の禁止 |
| • 不公正な競争の禁止 | • 商品説明義務     |
| • 守秘義務      | • 行内報告義務     |
|             | 他            |

## 個人情報の取扱いについて

当行では、「個人情報の保護に関する法律」(以下、「法」といいます)に基づき、個人情報の適切な保護と利用に関する取組方針(プライバシーポリシー)を以下の通り制定するとともに、関係法令等に基づいた行内規程等を

制定し、お客さまの個人情報を厳正に取扱っております。

なお、プライバシーポリシーは当行ホームページ(<http://www.minatobk.co.jp>)に掲載しておりますほか、営業店の店頭へのポスター掲示等を行っております。

## プライバシーポリシー

### 1. 取組方針について

■当行は、個人情報の適切な保護と利用に関し、関連法令等に加えて、本ポリシーに定めた事項を遵守し、お客さまの個人情報の適切な保護と利用に努めるとともに、情報化の進展に適切に対応するため、当行における個人情報保護の管理体制およびその取組について、継続的な改善に努めます。

### 2. 個人情報の利用目的について

■当行は、お客さまの個人情報について、利用目的を特定するとともに、法で定める場合等を除き、その利用目的の達成に必要な範囲内において利用いたします。当行における個人情報の利用目的については、当行のホームページに掲載しておりますほか、最寄りの本支店にお問い合わせ下さい。

■当行は、特定の個人情報の利用目的が、銀行法施行規則等の法令に基づき限定されている場合には、当該利用目的以外で利用いたしません。

■当行は、ダイレクトメールの送付やテレマーケティング等のダイレクト・マーケティングで個人情報を利用することについて、これを中止するようご本人よりお申し出があった場合は、直ちに当該目的での個人情報の利用を中止いたします。

### 3. 個人情報の適正な取得について

■当行では、前記2.で特定した利用目的の達成に必要な範囲で、適正かつ適法な手段により、お客さまの個人情報を取得いたします。

### 4. 個人情報の第三者提供について

■当行は、法に定める場合を除き、あらかじめご本人の同意を得ることなく、お客さまの個人情報を第三者に提供することはいたしません。

### 5. 安全管理措置について

■当行は、お客さまの個人情報に関し、情報の紛失・改ざんおよび漏えい等の防止のため、適切な安全管理措置を実施いたします。また、お客さまの個人情報を取扱う全ての役職員に対し、個人情報保護の重要性についての教育を行うとともに、お客さまの個人情報を委託する場合には、委託先について適切に監督いたします。

### 6. 開示請求等手続について

■当行は、法で定める開示請求等手続に関して、適切かつ迅速に対応いたします。お手続きの詳細は、当行のホームページに掲載しておりますほか、最寄りの本支店にお問い合わせ下さい。

### 7. お問い合わせについて

■当行は、個人情報の取扱いに関するご意見・ご要望につきまして、適切かつ迅速に対応いたします。当行の個人情報の取扱いおよび安全管理措置に関するご意見・ご要望・お問い合わせにつきましては、お取引店にお申し出下さい。

また、個人情報の取扱いに関する苦情につきましては、お取引店または下記窓口にお申し出下さい。

【電話番号】お客さま相談室 0120-747-481(フリーダイヤル)

【受付時間】平日 午前9時00分～午後5時00分

## 加盟する個人情報保護団体について

当行は、金融分野における認定個人情報保護団体である全国銀行個人情報保護協議会の会員及び証券分野における認定個人情報保護団体である日本証券業協会の協会員です。全国銀行個人情報保護協議会の苦情・相談窓口(銀行とりひき相談所)及び日本証券業協会の証券あっせん・相談センターでは、会員の個人情報の取扱いについての苦情・相談をお受けしております。

1. 全国銀行個人情報保護協議会 <http://www.abpdpc.gr.jp/>

苦情・相談窓口【電話番号】03-5222-1700

またはお近くの銀行とりひき相談所

2. 日本証券業協会証券あっせん・相談センター <http://www.jsda.or.jp/>

苦情・相談窓口【電話番号】03-3667-8008

またはお近くの証券あっせん・相談センターの各支部



## 地域密着型金融の推進に関する基本的な方針

当行は、「地域密着型金融の推進に関する基本的な方針」および3分野の重点事項(1.ライフサイクルに応じた取引先企業の支援の一層の強化 2.事業価値を見極める融資手法をはじめ中小企業に適した資金供給手法の徹底 3.地域の情報集積を活用した持続可能な地域経済への貢献)を定め、地域密着型金融の推進を進めております。

更に昨年度策定した、「MINATO 10(テン)」～Next Stageに向けて～をスローガンとした中期経営計画(平成20年4月～平成23年3月)においては、「みなとブランドの醸成」、「顧客ニーズ対応力の向上」、「経営管理態勢の強化」の「3つの基本方針」の遂行に向けた「10の公約(主要施策)」の1つとして「地域発展への貢献」を掲げ、「地域密着型金融の推進」に積極的に取組むこととしております。

経営  
理念

**地域のみなさまとともに歩みます**  
～金融・情報サービスの提供を通じて、地域に貢献します～

CSRの  
定義

事業を遂行する中で、  
①お客さま、②株主・市場、③社会・環境、  
④従業員に、より高い価値を提供することを  
通じて、地域社会の持続的な発展に貢献していくこと

地域密着型金融の本質=当行の「経営理念」・「CSRの定義」

地域密着型金融の推進に  
関する基本的な方針

地域密着型金融は、当行の経営理念を実践するための具体的な方策のひとつであり、「経営理念」・「CSRの定義」に基づき推進を行ってまいります。

重点事項

地域社会に持続的に貢献していくため、以下の3分野を重点事項として地域密着型金融の推進を進めてまいります。

### 1. ライフサイクルに応じた取引先企業の支援の一層の強化

- 取引先企業のライフサイクルに応じた支援は、地域密着型金融の不可欠の要素です。創業・新事業支援、経営改善・事業再生支援、事業承継支援などを強化してまいります。

### 2. 事業価値を見極める融資手法をはじめ中小企業に適した資金供給手法の徹底

- 取引先企業の事業価値を見極めて融資を行うことが、地域密着型金融における融資の基本です。不動産担保・個人保証に過度に依存しない融資の推進、多様な手法を用いた資金供給の推進を行います。

### 3. 地域の情報集積を活用した持続可能な地域経済への貢献

- 地域全体の活性化、持続的な成長のためには、「点」の事業支援では十分ではなく、同時的・一体的な「面」的支援が必要です。資金供給者としての役割に留まらず、地域全体の活性化を視野にいれた地域経済への貢献を行います。

## ディスクロージャーについての取組

当行では、皆さまの当行に対するご理解を一層深めていただくために、積極的な情報開示を心がけております。具体的には、ディスクロージャー誌やホームページ等により継続的に情報開示を行うとともに、その内容充実にも努めております。また、マスコミを通じた情報開示なども積極的に行っております。

さらに、機関投資家・アナリスト向け会社説明会(東京)や地元ではお取引先企業向け会社説明会なども定期的に開催しております。

また、機関投資家・アナリスト向け会社説明会については、皆さまにご覧いただけるよう、資料のほか音声・動画も当行ホームページで一定期間公開しております。





# 地域貢献活動について

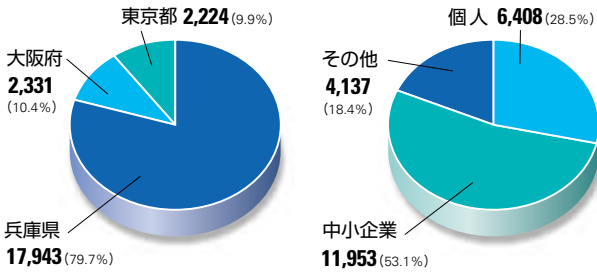
## 法人の皆さまへのご融資

地元企業や個人のお客さまの幅広い資金ニーズに積極的にお応えするとともに、地域の皆さまのお役に立てるよう心掛けております。

その結果、貸出金残高2兆2,498億円(平成21年3月末)の地域別で見た内訳は、兵庫県内1兆7,943億円(79.7%)、大阪府内2,331億円(10.4%)、東京都内2,224億円(9.9%)となりました。

また、中小企業・個人の皆さまへの貸出金残高の全体に占める比率は、81.6%となっております。

地域別・顧客別貸出金と構成比 (単位:億円)



### ■「みなとエコローン」の取扱開始 (平成20年10月)

発足10周年記念の取組の一環として「みなとエコローン」の取扱を開始いたしました。

環境認証を取得された法人のお客さまの、運転資金・設備資金にご利用いただけます。

詳しくは窓口にお問い合わせください。



## 個人の皆さまへのご融資

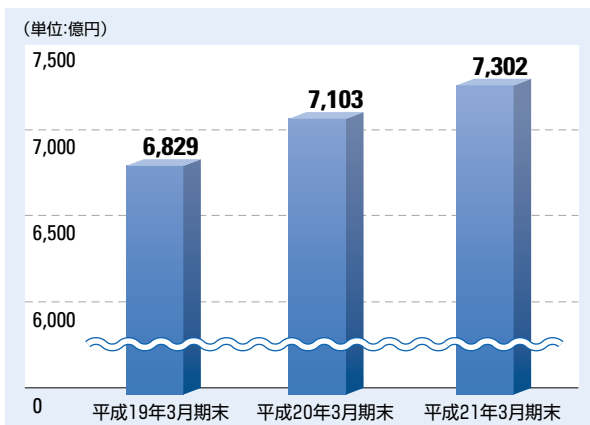
住宅ローンやアパートローンのほか、個人の皆さまのさまざまな資金ニーズにお応えするよう心掛けております。

住宅ローンについては、住宅ローンプラザの活動強化や全店一斉休日相談会の開催、新商品の開発などにも積極的に取組んでおります。

その結果、平成21年3月末の住宅ローン残高は前期末比199億円増加し、7,302億円となりました。

- 休日相談会の開催: 兵庫県内26カ所
- 休日営業を実施している住宅ローンプラザ: 8カ所

住宅ローン残高の推移



### ■「環境配慮型ローン」の取扱開始 (平成20年10月)

新エネ・省エネ機器を備えた住宅を購入・建築されるお客さまを対象とした、住宅ローンの取扱を開始いたしました。

また、新エネ・省エネ機器を購入・設置されるお客さまを対象とした「みなとエコ商品購入ローン」も併せて取扱を開始いたしました。

今後も地域の住宅環境の向上支援に積極的に取組んでまいります。

### ■個人ローン商品



# 地域貢献活動について

## 情報発信力の強化

地域の企業の皆さまのM&A、株式公開、ビジネスマッチングなど様々なご要望に迅速に対応するとともに、営業店を通じて、お取引先紹介、各種金融商品のご案内を行っております。

また、皆さまからの種々のご相談に対して、三井住友銀行グループや神戸大学、明石工業高等専門学校、(財)新産業創造研究機構(NIRO)、政府系金融機関等との連携を図りながら適切な情報提供やアドバイス等を行っております。



## 事業承継コンサルティング業務

地域企業の円滑な事業承継をサポートするため、平成20年6月より税理士、弁護士等の外部の専門家と提携し、事業承継に関するコンサルティング業務を強化いたしました。

事業承継は、高齢化社会の進展とも相まって、ますます注目度も高まりつつあります。

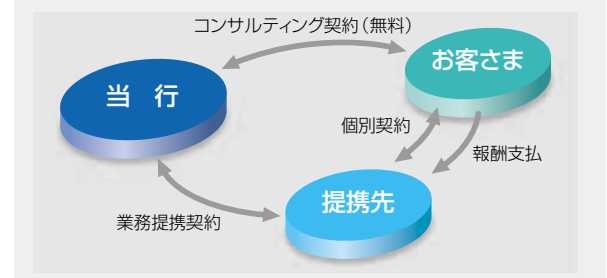
お取引先企業の事業承継全体に関する幅広いニーズに対し、個別事情を勘案した上で、事業承継計画等の作成及び計画の実行支援を行ってまいります。

今後もお客さまの様々なニーズに的確かつ迅速に対応し、地域経済の発展に貢献してまいります。

### 事業承継に関するコンサルティング業務概要

提携先	<ul style="list-style-type: none"> <li>永野税理士事務所 (税理士 永野 卓美)</li> <li>弁護士法人 神戸シティ法律事務所 (代表社員 弁護士 井口 寛司)</li> </ul>
取扱店	全店
費用	無料(当行とのコンサルティング契約) 但し、提携先に対しては、別途費用負担が必要となります。

【概略イメージ図】



## ベンチャー企業支援

新しい技術やビジネスモデルにより、これから成長を図ろうとしているベンチャー企業を支援するため、融資と投資の両面で資金支援を行っております。

ベンチャー企業向けの融資では、知的財産権担保融資や新株予約権付融資等の従来の担保によらない

融資手法により、ベンチャー企業の資金調達を支援しております。

また、当行グループのみなとキャピタル(株)を通じて、投資による資金支援も行っております。

## ビジネスマッチング業務

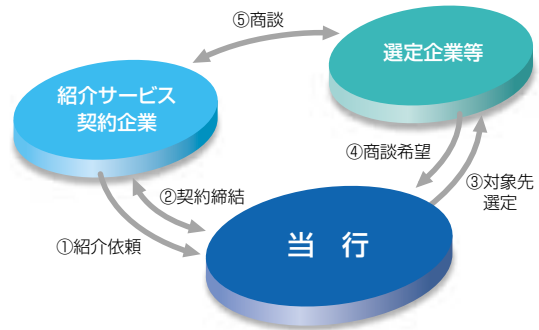
平成16年5月より有料でのビジネスマッチング業務を開始しております。現在、経営コンサルタント、各種販売会社、リース会社など45社との契約を締結しております。

当行のネットワークを活用して、中小企業の皆さまの迅速かつ的確な問題解決に役立つ情報を発信しております。

### ■ビジネスマッチング

商品やサービス、技術力などを必要としている事業者に対して、それを提供している事業者を紹介すること

ビジネスマッチング業務（有料）



## 「みなと産学官連携“環境”セミナー2009」の開催

環境問題への対応は地元企業の皆さまにとっても重要な経営課題となっています。当行では環境対応経営を支援するため、平成21年2月に「みなと産学官連携“環境”セミナー2009」を開催いたしました。

本セミナーは、当行と産学連携協定を締結している神戸大学、明石工業高等専門学校、並びに神戸市のご協力のもと、産学官連携事業として開催いたしました。セミナーでは、環境対応経営についての情報提供や神戸市が推進している環境マネジメントシステム(KEMS)を紹介いたしました。

今後とも、企業経営のお役に立てるよう、タイムリーな情報提供に努めてまいります。



## M&Aアドバイザー業務

### M&A成約実績

平成13年4月のM&Aアドバイザー業務開始以来、これまで延べ81社のお取引先のM&Aに積極的に取り組んでまいりました。

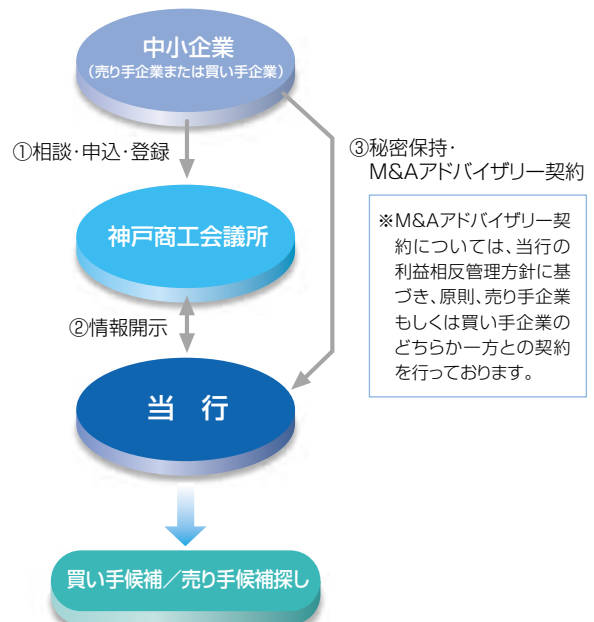
### M&A情報ネットワーク

大阪商工会議所、神戸商工会議所、姫路商工会議所、三井住友銀行、日本政策投資銀行、オリックス、レコフおよび日本M&Aセンター等との業務提携により、M&A情報ネットワークの充実に努めております。

### ■兵庫式M&Aサポートシステム

神戸商工会議所との提携による中小企業を対象としたM&Aを行っております。神戸商工会議所の会員企業のほか、県内企業情報を集約しております。これまでの成約実績は9件となっております。

兵庫式M&Aサポートシステム



# 地域貢献活動について

## 資産運用セミナーの開催

地域の皆さまの多様な資産運用ニーズにお応えするため、様々な形で資産運用に関するセミナーを開催しております。

営業店での「資産運用セミナー」では、「最近の投資環境」や「個別ファンドのご案内・運用状況報告」など様々なテーマで随時開催しております。平成20年度は669回開催し、延べ7,903人のお客さまにご参加いただきました。

また、半年に1回程度の割合で、ホテルなどを利用して一度に数百人以上ご参加いただける「大規模セミナー」なども開催しております。



## 住宅ローンプラザの休日営業

住宅ローンの専用窓口として、現在10カ所に住宅ローンプラザを設置いたしております。

また、休日にも住宅ローンに関するご相談にお応えするため以下の8カ所で営業を実施しております。

- 三宮住宅ローンプラザ  
〔土曜・日曜 10:00～17:00〕
- 梅田住宅ローンプラザ  
〔土曜 10:00～17:00〕
- 塚口・舞子・加古川・姫路・西神・藤原台住宅ローンプラザ  
〔日曜 10:00～17:00〕



(神戸新聞社提供)

## 各種相談会の開催

地域の皆さまを対象として、相続・資産承継相談会、年金相談会を開催しております。

相続・資産承継相談会	毎月1回(原則第3水曜日)開催
年金相談会	毎月15回程度開催

## 神戸ルミナリエへの協賛

平成20年12月、地元神戸の冬を飾る「神戸ルミナリエ」が「光のインフィニート」をテーマに開催され、375万人を超える来場者で賑わいました。震災の年から始まり14回目を迎えた今回も、地域金融機関として協賛いたしました。

### 神戸ルミナリエ™

「ルミナリエ」は、阪神・淡路大震災犠牲者の鎮魂の意を込めるとともに、都市の復興・再生への夢と希望を込めて、震災の年1995年12月にはじめて開催され、神戸のまちと人々に大きな勇気と感動を与えた。



©Valerio Festi / I&F Inc. / Kobe Luminarie O.C.



## 地域の文化活動等の助成（財）みなと銀行文化振興財団

「文化と経済が融合し、調和してこそ初めて豊かな社会を築くことができる」という理念のもと、平成3年10月に設立されました。以来、地域社会の文化振興に貢献すべく、兵庫県下各地で様々な文化およびスポーツ活動を展開してまいりました。美術展、音楽会、演劇公演や小学生サッカー教室等の開催・助成を通して、多くの方々にご参加いただいております。また、事業実績や今年度の予定につきましては、ホームページでも公開しております。

(<http://www.minatofc.or.jp/>)



## 地域のシンクタンク（財）ひょうご経済研究所

地域のシンクタンクとして、兵庫県下を中心に経済・産業動向、地域問題などを調査研究するなど、兵庫県の各種経済情報を地域の皆さまにお届けしております。

機関誌「季刊ひょうご経済」は、地域経済、一般経済、兵庫県・神戸市などの行政企画を3本柱として、チェンジ、環境、人口減少など、年度ごとにテーマを設けて、大学・行政等の識者からご寄稿いただいております。また、地域の諸問題についての自主研究レポートも併せて掲載しております。

平成21年度には、米国金融危機、為替と日本経済、環境ビジネスなどカレントな論文を掲載しております。

近年の県内の一大イベントである「のじぎく兵庫国体の経済効果」に続き、「姫路菓子博2008の経済波及効果」を試算、発表し、多数の反響が寄せられました。その他、著名人を招いた講演会の開催や、地元大学や各種経済団体・企業等からの受託研究を行なっています。また、これらの成果をホームページでも公開しております。

(<http://www.heri.or.jp>)



## 奨学金制度（財）みなと銀行育英会

日本の将来を支える大学生に学資金の援助を行い、社会に有為な人材の育成に貢献しております。これまで、約870名の奨学生がみなと銀行育英会の援助を受け卒業し、社会で活躍されております。

## 異業種交流組織 みなと銀行みなと会

みなと銀行のお取引先を会員とする異業種交流組織で、会員相互の交流を通じて情報交換や親睦を図り、会員各社の発展に資することを目的としております。具体的な活動として、セミナーや講演会、情報交換会などを開催しており、平成21年5月現在、13支部、会員数は1,657社（兵庫県内1,396社、大阪府内218社、東京都内43社）となっております。



# 地域の皆さまの利便性向上

## 店舗新設(大久保駅前支店)

平成21年7月13日(月)、個人のお客さま専門店として「大久保駅前支店」を新設いたしました。

新店舗は、お客さまが資産運用や住宅ローン等のご相談にゆっくりとご利用いただけるよう窓口を全て個別ブースとし、応接室も2室設置。また、全自動貸金庫や視覚障害者対応ATMを設置し、お客さまの利便性向上を図るとともに、当行では初めてLED(発光ダイオード)

を使用したATMコーナーの案内板を導入するなど、環境面にも配慮した店舗としております。

所在地 兵庫県明石市大久保町大窪280-1  
(JR大久保駅北約200m国道2号線沿い)  
電話 078(935)6080



### 「大久保駅前支店」概要

- 1.営業時間** [窓口] 平日 9:00~15:00  
[ATM] 平日 8:00~21:00  
土日祝 9:00~21:00
- 2.取扱業務** 個人のお客さまの資産運用並びに住宅ローン等お借入のご相談業務
- 3.主要設備** (1)ご相談専用ブース  
(2)全自動貸金庫  
(3)ATM 3台

## コンビニATM提携の拡大

全国のコンビニエンスストア等でATMを運営する株式会社ローソン・エイティエム・ネットワークスおよび株式会社イーネットと、平成21年7月13日(月)よりATM提携を開始いたしました。

当行のお客さまは、ローソンやファミリーマート、ミニストップなどのATMでのご利用時間の拡大や入金取引が可能となり、利便性がさらに向上いたしました。この提携により提携ATMを含めた兵庫県下の拠点数は約2,400カ所となります。

なお、当行は平成18年1月にセブン銀行、平成19年10月にはイオン銀行と順次提携し、ATMネットワークの充実に努めております。

今後ともお客さまの利便性向上のため、一層のサービス拡充を図ってまいります。

### ■当行カードのローソンATM・イーネットATMでのご利用時間

ご出金、ご入金 残高照会	平日	8:00~21:00
	土日祝	9:00~21:00

提携流通系ATM	主な設置場所
	 ※「  」のある店舗でご利用いただけます
	  ※「イーネットATMマーク」のある店舗でご利用いただけます

※「ローソン」でローソンATM以外のATMが、また「ミニストップ」でイーネットATM以外のATMが設置されている場合があります。ローソンATM、イーネットATM以外のATMでは手数料などサービス内容が異なりますのでご注意ください。

## 平成21年4月 店舗リニューアル(中央市場支店)

平成21年4月13日(月)、神戸市中央卸売市場本場関連事業所棟の建替移転に伴い、新施設へ店舗を移転し営業を開始いたしました。

新店舗は、1階に預金窓口、2階に融資窓口、各種セミナー・相談会開催のためのセミナールームを設置。また、全自動貸金庫約360個(専用ブース2室)を完備し、点字ブロック、視覚障害者対応ATMを設置するなどバリアフリーにも配慮した店舗としております。



新所在地 神戸市兵庫区中之島1-1-5  
(旧中央市場支店より北方へ約300m)  
電話 078(681)0931

## 平成21年4月「Qポートネオ」取扱開始

平成21年4月より、カードローン「Qポートネオ」の取扱を開始いたしました。当商品は、従来のカードローン「Qポート」と比較して、ご融資限度額が最大500万円に拡大、ご融資利率が年6.0~14.0%と低くなり、より幅広い資金ニーズにお応えできる商品となりました。

詳しくは、お近くの支店窓口までお問い合わせください。



## 平成21年6月 投資信託・医療保険の商品追加

平成21年6月1日より、投資信託2商品・医療保険1商品を追加いたしました。

今後とも皆さまの幅広いご要望にお応えするため、商品・サービスの一層の充実に努めてまいります。

### 投資信託

ファンド名	運用会社
LM・ブラジル国債ファンド(毎月分配型)	レッグ・メイソン・アセット・マネジメント
MHAM USハイイールドファンド(毎月決算型)	みずほ投信投資顧問

### 医療保険

商品名	引受保険会社
きらめき新医療保険	三井住友海上きらめき生命保険



# 10周年記念の取組

## 「おかげさまで10周年。 これからもずっと、このまちとともに。」

当行は、平成21年4月1日に発足10周年を迎えました。これもひとえに、お客さま、地域の皆さま、株主の皆さまのご支援、ご愛顧の賜物と、役職員一同深く感謝しております。

これからも変わることなく、お客さまに合ったより良いサービス、暮らしや事業に役立つ情報などのご提供を通じて、地域の皆さまに喜んでいただくことを目指しながらさらに前進してまいります。

### 環境配慮型金融商品の新規取扱

#### 環境認証取得の法人向け 「みなとエコローン」の取扱開始

以下のいずれかの環境認証を取得した法人向けローン

- ①神戸環境マネジメントシステム (KEMS)
- ②エコアクション21
- ③ISO 14001



#### 個人向け「環境配慮型ローン」の取扱開始

##### ■みなとエコ住宅ローン

新エネ・省エネ機器を備えた住宅を購入・建築されるお客さまを対象とした住宅ローン

##### ■みなとエコ商品購入ローン

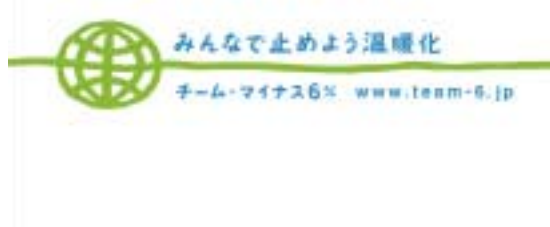
新エネ・省エネ機器を購入・設置されるお客さまを対象としたローン



### 企業としての環境問題への取組

#### 「チーム・マイナス6%」への参加

我が国の温室効果ガス排出量6%削減を実現するための国民的プロジェクト「チーム・マイナス6%」に平成20年6月より参加し、CO<sub>2</sub>削減に向けた取組みを推進し、その一環としてクールビズを実施しております。



#### 「兵庫県うちエコ診断事業」への参画

地域における家庭からのCO<sub>2</sub>排出削減に向けた産学官が連携した取組みに地元金融機関として参画し、環境融資を提供するとともに、本事業への当行役職員の参加を促進いたしました。

詳しくは、当行HPをご覧ください。

URL [http://www.minatobk.co.jp/about/minato\\_10th.html](http://www.minatobk.co.jp/about/minato_10th.html)

## 助成金事業「“MINATO 10”助成金 ～想いを、まちへ。～」の実施

当行発足以来、初の取組みとなる助成金事業を実施いたしました。

この助成金事業は、これまでの当行に対する地域の皆さまからのご支援に対し感謝をこめた地域貢献事業として、新規性、独創性に富んだ技術、ビジネスプランにより、自ら事業を行う方に対し、1件あたり最高300万円（総額1,000万円）を助成するものです。

ご応募いただいた計42件のビジネスプランの中から、外部審査機関等による厳正な審査により、助成先8社を決定いたしました。



## 「10×□年後の夢」作文コンクールの実施

平成20年8月、兵庫県内在住の小学生を対象に「10×□年後の夢」をテーマとした作文コンクールを実施いたしました。作家の玉岡かおるさんを特別審査員にお招きし、応募総数212通の中から、最優秀賞1名、優秀賞5名、佳作10名を選考し、同年10月に表彰式を開催いたしました。



(神戸新聞社提供)

## 通帳・証書のデザイン改定

当行発足後初となる通帳・証書のデザイン改定を行いました。

(総合口座通帳など14種類)





ゆたかな暮らしのお手伝い

お客さまの様々な資金ニーズにお応えするため、各種ローンを取り揃えております。

●個人向け

(平成21年6月30日現在)

種 類	お使いみちなど	ご融資金額	ご返済期間	ご返済方法	担 保
住 宅 ロ ー ン	ご自宅の新築・購入、増改築の費用をご用立ていたします。	1億円以内	35年以内	毎月元利均等分割返済 (ボーナス時増額返済も可) 毎月元金均等分割返済 (ボーナス時増額返済も可)	融資対象物件
機構提携型 住宅ローン フラット35	住宅金融支援機構の証券化支援事業を活用した長期固定金利の住宅ローンです。	8,000万円以内	35年以内	毎月元利均等分割返済 (ボーナス時増額返済も可) 毎月元金均等分割返済 (ボーナス時増額返済も可)	融資対象物件
住 宅 借 換 ロ ー ン	現在、他の金融機関でお借入れの住宅ローンの借り換えにご利用いただけます。 (借り換えに伴う諸費用を含む)	1億円以内	35年以内	毎月元利均等分割返済 (ボーナス時増額返済も可) 毎月元金均等分割返済 (ボーナス時増額返済も可)	融資対象物件
住み替えローン	ご自宅の新築・購入および売却物件の担保抹消資金としてご利用いただけます。 (買い換えに伴う諸費用を含む)	1億円以内	35年以内	毎月元利均等分割返済 (ボーナス時増額返済も可)	融資対象物件
諸費用ローン	住宅購入時の諸費用、リフォーム資金をご用立ていたします。	500万円以内	35年以内	毎月元利均等分割返済 (ボーナス時増額返済も可)	融資対象物件
ア パ ー ト ロ ー ン	賃貸住宅の建築、購入または改築資金にご利用いただけます。	1億円以内	30年以内	毎月元利均等分割返済 (ボーナス時増額返済も可) 毎月元金均等分割返済 (ボーナス時増額返済も可)	融資対象物件
			団体信用生命保険加入の場合		
不 動 産 活 用 ロ ー ン	別荘購入など、様々な資金をご用立ていたします。 (ただし、事業性資金にはご利用いただけません)	1億円以内	30年以内 ただし、期一括返済の場合は5年以内	毎月元利均等分割返済、 または期日一括返済	既保有不動産 (担保設定がないもの)
多目的ローン	暮らしの様々な資金をご用立ていたします。 (ただし、事業性資金にはご利用いただけません)	3,000万円以内	30年以内	毎月元利均等分割返済 (ボーナス時増額返済も可)	既保有不動産 又は融資対象物件
投 資 用 型	投資用物件のご購入資金にご利用いただけます。	5,000万円以内	35年以内	毎月元利均等分割返済 (ボーナス時増額返済も可)	融資対象物件
リ フ ォ ー ム ロ ー ン	ご自宅の増改築・補修工事等の費用をご用立ていたします。	1,000万円以内	15年以内	毎月元利均等分割返済 (ボーナス時増額返済も可)	不 要
教 育 ロ ー ン	ご子息の入学金・授業料・下宿費用などをご用立ていたします。	極度額 50～500万円	11年6ヵ月以内	在学中は利息のみ 卒業後、分割返済	不 要
マイカーローン	自家用車・自動二輪車の購入資金をご用立ていたします。 金融機関・信販会社等のマイカーローンの借換資金にもご利用いただけます。	500万円以内	7年以内 借換の場合は、借換えるローンの残存償還期限まで	毎月元利均等分割返済 (ボーナス時増額返済も可)	不 要
フ リ ー ロ ー ン	レジャー・旅行の費用など、暮らしの様々な資金をご用立ていたします。複数のローンのおまとめや、クレジットの借り換えにもご利用いただけます。	200万円以内	5年以内	毎月元利均等分割返済 (ボーナス時増額返済も可)	不 要
カ ー ド ロ ー ン Q ポ ー ト ネ オ	暮らしの様々な資金をご用立ていたします。 (ただし、事業性資金にはご利用いただけません)	極度額 10～500万円	(契約期間) 1年毎に更新	契約極度額に応じた 定額返済	不 要

## ●事業者向け

(平成21年6月30日現在)

種 類	融資金額	返済期間	商 品 の 特 徴
ひょうご無担保ローン「じんそく」	5千万円以内	5年以内	兵庫県内で2年以上同一事業を営む等、兵庫県信用保証協会が定める要件を備える法人を対象とした兵庫県信用保証協会保証付の無担保融資商品です。
ひょうご無担保ローン「スーパーじんそく」	1億円以内	運転資金7年以内 設備資金10年以内	兵庫県内で2年以上同一事業を営む等、兵庫県信用保証協会が定める要件を備える法人を対象とした兵庫県信用保証協会保証付の無担保融資商品です。
創業・第二創業支援貸付	3千万円以内 (1社あたり上限3千万円)	3年以内	ベンチャー企業や第二創業により新分野進出を図る企業、及び知的資産報告書や経営革新計画を作成して経営課題の解決を図る企業を対象とした融資商品です。
みなとITサポートローン	1億5千万円以内 (1社あたり上限3億円)	5年以内	プログラムを自ら開発するIT企業を対象とした独立行政法人情報処理推進機構保証付の無担保融資商品です。
みなとトラック担保融資	100万円以上 (上限金額なし)	7年以内	当行営業区域内で継続して1年以上同一事業を営む法人および個人を対象とした有担保融資商品です。新規車両購入資金(購入車両が担保)、事業資金(既に所有している車両が担保)にご利用いただけます。
みなとエコローン	500万円以上5千万円以内 (1社あたり上限5千万円)	運転資金5年以内 設備資金7年以内	「神戸環境マネジメントシステム(KEMS)」・「エコアクション21」・「ISO14001」といった環境認証を取得している法人を対象とした融資商品です。
みなとマル保ビジネスquickローン	100万円以上2千万円以内	2年毎の更新	3年以上同一事業を営む等の信用保証協会が定める要件を備える法人および個人を対象とした、信用保証協会保証付の無担保(原則)融資商品です。ご契約の範囲内で繰り返しご利用いただける当座貸越の形態です。
みなとビジネスquickローン	100万円以上5千万円以内	1年毎の更新	3年以上同一事業を営む等の要件を備える法人および個人を対象とした、有担保融資商品です。ご契約の範囲内で繰り返しご利用いただける当座貸越の形態です。
みなとパワーローン	(信用保証協会保証) 信用保証協会の定める額 (有担保) 100万円以上1億円以内	(信用保証協会保証) 2年毎の更新 (有担保) 1年毎の更新	3年以上同一事業を営む等の要件を備える法人および個人を対象とした、有担保融資商品です。信用保証協会保証付と保証無しがあります。ご契約の範囲内で繰り返しご利用いただける当座貸越の形態です。

## ●商品ご利用に当たっての留意事項

1. ローンのお申込みの際しましては、当行所定の審査がございます。審査の結果ご希望に沿えない場合もございます。
2. ローンのご利用は、ご本人の収入等から無理なく返済できるよう計画的に行ってください。  
特に変動金利ローンは定期的に利率を見直しますが、金融情勢により、当初お借入利率よりも高くなることもございますので、ご注意ください。
3. 担保付ローンをご利用の場合、担保価格が下落しますと、担保等の追加をお願いすることがございます。

## 〈住宅ローン・アパートローン〉



## 〈事業者向けローン〉



## 資産づくりのパートナー

お客さま一人ひとりのニーズにお応えできるよう様々なプランを取り揃えております。

(平成21年6月30日現在)

種 類	内 容
総 合 口 座	1冊のお通帳に普通預金、定期預金をセット。 お給料・年金のお受取りや公共料金などのお支払いにお使いいただけます。定期預金をセットしておく、急なご入用の際にも、キャッシュカード1枚で自動融資をご利用いただけます。 ※20才以上の個人の方
〈みなと〉プレミアム普通預金	残高30万円以上で、普通預金金利を上乗せします。またICキャッシュカードでセキュリティ面でもご安心いただけます。お取引状況によりキャッシュバック、口座管理手数料・ATM時間外手数料の無料または割引サービスをご利用いただけます。 ※個人専用
貯 蓄 預 金	出し入れ自由の預金。お預け入れ金額に応じた金利を適用します。 ※個人専用
パ ー ソ ナ ル 通 知 預 金 「N e o」	お預け入れは50万円から。1ヵ月経てば、いつでもお引き出しいただけます。 お預け入れ金額に応じた金利を適用します。 ※個人専用
ス ー パ ー 定 期 (自由金利型定期預金M型)	お預け入れは100円から。預入期間は1ヵ月からお選びいただけます(最長5年)。 個人の場合、3年もの、4年もの、5年ものは半年複利で有利です。
据 置 型 定 期 預 金 「みなと物語」	6ヵ月経てばお引き出し自由(最長5年)。預入期間が長いほどお得な金利を適用します。 ※個人専用
大 口 定 期 預 金 (自由金利型定期預金)	お預け入れは1,000万円から。 預入期間は1ヵ月からご利用いただけます。
定 期 預 金 「ねんきん」	当行で公的年金をお受取りの方、または年金制度上、公的年金受給権を持たない65才以上の方を対象に、スーパー定期(1年もの)の金利を上乗せします(おひとりさま限度額100万円、年金お受取り店舗に限りです)。
積 立 定 期 預 金 「つみたてっ子」	毎月、決まった金額を指定口座から自動振替でお積立します。そのほか、窓口・ATMでの随時入金も可能です。1回の積立金額は1,000円以上で、積立期間は6ヵ月以上から自由にご指定いただくことができます。また、積立期間中に金額や積立日の変更も可能です。
財 形 預 金	お給料からの天引き方式で、無理なく計画的な貯蓄ができます。 一般財形預金、財形年金預金、財形住宅預金の3タイプから、ライフプランにあわせてお選びください。 財形年金預金と財形住宅預金は、合わせて元金550万円まで、お利息が非課税でご利用いただけます。
譲 渡 性 預 金	金利は市場金利動向等を参考に決定します。
み な と 決 済 用 預 金	預金保険法に定める決済用預金の要件(無利息、要求払い、決済サービスを提供可能)を満たすもので、預金保険制度による全額保護の対象となります。



## みなと銀行の勧誘方針

みなと銀行は、金融商品の販売等に関する法律・消費者契約法に則り、金融商品の勧誘・販売にあたっては、次の通り適切な対応に努めます。

### お客様への勧誘の基本姿勢について

- 当行は、お客様の信頼の確保に努めつつ、お客様の知識、経験、財産の状況及び契約締結の目的等に照らし、適切と考えられる商品又は取引をお勧めします。
- 当行は、お客様の知識、経験、財産の状況及び契約締結の目的等を踏まえ、お客様の判断と責任においてお取引いただくため、商品又は取引の内容及びリスクの適切な説明に努めます。

### お客様への勧誘の方法および時間帯などについて

- 当行は、銀行法その他の法令諸規則等に則った適正な勧誘を行います。
- 当行は、お客様のご希望に沿った勧誘を行うよう努めます。
- 当行は、お客様のご都合に合わせた時間帯や場所で勧誘を行うよう努めます。

### その他の事項について

- 当行は、お客様の信頼におこたえするため、正確な商品知識をはじめとする、役職員の知識・技能の向上に努めます。
- 当行は、銀行法その他の法令諸規則等に則った適正な勧誘が行われるよう、行内規則の整備等に努めます。
- 当行は、お客様からの苦情、要望に対しましては、誠実に対応し、改善に努めます。



ホームページ・URL

[http://www.minatobk.co.jp/info/kanyu\\_hoshin.html](http://www.minatobk.co.jp/info/kanyu_hoshin.html)

## 預金保険制度について

預金保険制度とは、金融機関が預金保険料を預金保険機構に支払い、万が一、金融機関が破綻した場合に、一定額の預金等を保護するための保険制度です。

わが国の預金保険制度は、「預金保険法」(昭和46年制定)により定められており、政府・日本銀行・民間金融機関の出資により設立された預金保険機構が制度の運営主体となっています。

### 預金等の保護の範囲

金融機関が破綻したときに預金保険で保護される預金等の額は、保険の対象となる預金等のうち、決済用預金に該当するものは全額、それ以外の預金等については一金融機関ごとに預金者一人あたり元本1,000万円までとその利息等となります。

預金等の分類		保護の範囲
決済用預金	・当座預金 ・利息のつかない普通預金 <sup>(注1)</sup> 等	<b>全額保護</b> (恒久措置)
一般預金等	・利息のつく普通預金 ・定期預金 ・定期積金 ・貯蓄預金 ・通知預金等	<b>合算して元本1,000万円<sup>(注2)</sup>までとその利息等<sup>(注3)</sup>を保護</b> (1,000万円を超える部分は破綻金融機関の財産の状況に応じて支払われます。)
	・外貨預金 ・他人・架空名義預金 ・譲渡性預金等	<b>保護対象外</b> (破綻金融機関の財産の状況に応じて支払われます。)

(注1)「無利息、要求払い、決済サービスを提供できること」という3要件を満たす預金をいいます。

(注2) 当分の間、金融機関が合併を行ったり、営業(事業)の全てを譲り受けた場合には、その後1年間に限り、当該保護金額が1,000万円の代わりに、「1,000万円×合併等に関わった金融機関の数」による金額となります。(例えば、2行合併の場合は2,000万円)。

(注3) 定期積金の給付補てん金、金銭信託における収益の分配等のうち一定の要件を満たすもの等も利息と同様保護されます。



## 外国為替業務

中国をはじめとしたアジア地域のビジネスにおける重要性が益々拡大する中、海外銀行との充実したネットワークにより、お客さまの貿易取引などのニーズに的確かつスピーディにお応えしています。

## 中国ビジネスサポート

お取引先の中国進出に対する支援、既に進出されているお取引先の活動サポートなどを行う上海駐在員事務所、中国についての情報提供・ご相談をお受けする専門部署である中国室が連携し、お客さまの中国ビジネスをサポートいたします。

## 国際業務のご案内

(平成21年6月30日現在)

取扱業務		内容
貿易取引	輸出関係	輸出信用状(L/C)のご通知、輸出手形・小切手の買い取り、取立てを行っております。
	輸入関係	輸入信用状(L/C)の発行、輸入ユーザンス、輸入取立手形の決済などを行っております。
	みなとインポートパック	信用保証協会(兵庫県、大阪府、大阪市)保証付の輸入信用状(L/C)枠をお取扱いいたします。
両替	外貨両替	米ドルおよびユーロの両替をお取扱いいたします。
	外貨宅配サービス	全店で32通貨の外国通貨および6通貨のT/Cの宅配サービスをお取扱いいたします。
	旅行小切手(T/C)	海外旅行に安全で便利です。6通貨のT/Cをお取扱いいたします。
外貨預金		米ドルなどでご利用いただけます。当座、普通、定期預金等があります。利率はお預け入れ期間や時期によって異なります。
	みなと外貨定期預金	取扱通貨は米ドル、ユーロおよびオーストラリアドルで、1千通貨以上、1セント単位でお預け入れが可能です。お預け入れ期間は1ヵ月、2ヵ月、3ヵ月、6ヵ月、1年です。
	みなと外貨定期預金(毎月利息受取型)	取扱通貨は米ドル、ユーロおよびオーストラリアドルで、1千通貨以上、1セント単位でお預け入れが可能です。お預け入れ期間は1年ですが、お利息は毎月円貨でお受取りいただけます。
	パーソナル外貨普通預金	取扱通貨は米ドルおよびユーロで、残高1千通貨以上、100通貨単位でご入金いただけます。
外国送金	外国への送金	海外のお受取人口座へ電信によりご送金いたします。外貨建の銀行小切手である送金小切手もお取扱いしております。
	外国からの送金	海外からの送金のお受取りには〈当行〉のお取引口座をご利用ください。
外貨貸付(インパクトローン)		外貨によるご融資をお取扱いしております。
為替予約		輸出入決済などに必要な先物為替予約をお取扱いいたします。通貨オプションの利用により長期間の為替変動リスクを回避するニーズにもお応えしております。
中国ビジネスサポート		上海駐在員事務所・中国室の連携により中国ビジネスについての情報提供・アドバイス等により、お客さまのサポートを行っております。

## 三宮外貨両替コーナー

三宮駅前(神戸交通センタービル2階)に「三宮外貨両替コーナー」を開設しています。このコーナーでは、外貨現金17通貨、旅行小切手6通貨をお求めいただけます。

営業時間 [平日] 午前11時～午後7時  
[土日祝日] 午前9時～午後5時  
(休業日 12/31～1/3、5/3～5/5)



# 証券業務

資金運用・調達において多様化するお客さまのご要望に迅速かつ的確にお応えするため、証券業務の充実を図り、公共債および投資信託の窓口販売や証券仲介業務の取扱店舗拡大等を通じて、お客さまにご満足いただけるよう資産運用商品の提供に努めております。

また、資本市場からの資金調達のお手伝いとして、私募債の受託をはじめ、社債の発行についてご相談を承るとともに、発行から償還までの事務手続を代行しております。

今後とも、証券市場の進展に合わせて、お客さまの多様なニーズにお応えできるように証券業務の充実を図ってまいります。



## 証券業務の内容

### 公共債の窓口販売・ディーリング業務

- ・窓口販売では、新しく発行される公共債の募集の取扱いを行っております。
- ・ディーリング業務では、既に発行された公共債の販売を行っております。募集・販売対象の公共債の種類等は以下の通りです。

公共債の種類	内 容
固定利付国債	国が発行する確定利付債です。2～10年の期間で、お客さまの投資期間に合わせた運用が可能です。
個人向け国債	国が個人に限定して発行する債券です。10年物は利率が市場金利に応じて半年毎に変動する変動利付債です。5年物は確定利付債で、お客様のニーズに合わせた運用が可能です。
公募地方債	兵庫県・神戸市が発行する債券をお取扱いしております。(期間:5年・10年)
ミニ公募地方債	兵庫県民債、兵庫のじぎく債、神戸市民債等、兵庫県・神戸市等が地域住民向けに発行する5年満期の確定利付債です。

### 公社債等の受託・登録機関・口座管理機関・引受幹事業務

種 類	役 割 の 内 容	
私募債受託業務	銀行・信用保証協会協同保証付無担保社債	特定社債保証制度に基づき中小企業者が発行する社債の元利金の支払債務について、当行と保証協会が連帯保証し、当行が社債総額を引き受けることにより起債を成立させるとともに、社債の管理業務を行います。
	銀行保証付無担保社債	適債企業が発行する社債の元利金等の支払債務について、当行が発行会社と連帯して保証し、当行が社債総額を引き受けることにより起債を成立させるとともに、社債の管理業務を行います。
	物上担保付社債	適債企業が発行する物上担保付社債について、会社法上の社債管理者並びに担保付社債信託法上の受託会社として、社債権者保護の観点より社債と担保の管理業務を行います。
口座管理機関業務	社債、株式等の振替に関する法律に基づき、国債、一般債および投資信託の保有や権利の移転を記録するため、お客さまの振替口座簿を管理します。	
発行代理人・支払代理人	社債、株式等の振替に関する法律に基づき、発行者に代わり一般債の発行、元利払等の証券保管振替機構に対する振替債の事務手続を行います。	
引受幹事業務	兵庫県民債および兵庫のじぎく債(ミニ公募地方債)の発行に際し、兵庫県等発行自治体と地元住民の利便性向上のため、地域を代表する金融機関として引受幹事業務を行います。	

## 金融商品仲介業務

(平成21年6月30日現在)

取扱業務	提携証券会社	取扱店舗等
個人 外国債券の売出し および売買取次ぎ 証券口座開設の取次ぎ	SMBCフレンド証券	本店営業部、水道筋支店、長田支店、板宿支店、垂水支店、春日野支店、西神中央支店、 武庫之荘支店、伊丹支店、鳴尾支店、宝塚支店、住吉支店、東加古川支店、 姫路支店、宝殿支店、明石支店、三木支店、西脇支店、加古川支店、志染支店、 六甲道支店、小野支店、三宮支店、鈴蘭台支店、芦屋駅前支店、須磨ニュータウン支店、 明舞支店、西明石支店、土山支店、舞子支店、社支店、津名支店、柏原支店、 網干駅支店、御着支店、福崎支店、相生支店、赤穂支店 (以上、38カ店)
	野村證券	本店営業部、垂水支店、西神中央支店、鳴尾支店、住吉支店、姫路支店、明石支店、 三木支店、加古川支店、小野支店、三宮支店、鈴蘭台支店、須磨ニュータウン支店、 明舞支店、西明石支店、土山支店、津名支店、網干駅支店、相生支店、赤穂支店 (以上、20カ店)
法人 債券等の売買の取次ぎ	大和証券	個人業務部 証券営業室

## 投資信託窓販業務

### 主要取扱ファンド

(平成21年6月30日現在)

	ファンド名	運用会社	積立投信
MMF型	ダイワMMF(マネー・マネージメント・ファンド)	大和証券投資信託委託	
	野村MMF(マネー・マネージメント・ファンド) [愛称：ひまわり]	野村アセットマネジメント	
国内株式型	インデックスファンド225	日興アセットマネジメント	○
	三井住友・225オープン	三井住友アセットマネジメント	○
	三井住友・日本株オープン	三井住友アセットマネジメント	○
	日興エコファンド	日興アセットマネジメント	○
	フィデリティ・日本成長株・ファンド	フィデリティ投信	○
	フィデリティ・日本配当成長株・ファンド(分配重視型)	フィデリティ投信	○
不動産(リート)	三井住友・グローバル・リート・オープン [愛称：世界の大家さん]	三井住友アセットマネジメント	
	三井住友・ヨーロッパ国債ファンド	三井住友アセットマネジメント	
海外債券型	ニッセイ/バトナム・インカムオープン	ニッセイアセットマネジメント	
	AIG米国優先証券ファンド [愛称：ラストリゾート]	AIGインベストメンツ	
	AIG新成長国債債券プラス [愛称：ブルーオーシャン]	AIGインベストメンツ	
	世界のサイフ	日興アセットマネジメント	
	MHAM豪ドル債券ファンド(毎月決算型)	みずほ投信投資顧問	
	MHAM USハイイールドファンド(毎月決算型)	みずほ投信投資顧問	
	ピクテ資源国ソブリン・ファンド(毎月分配型)	ピクテ投信投資顧問	
	LM・ブラジル国債ファンド(毎月分配型)	レグ・メイソン・アセット・マネジメント	
	ピクテ・グローバル・インカム株式ファンド(毎月分配型)	ピクテ投信投資顧問	
海外株式型	三井住友・グローバル好配当株式オープン [愛称：世界の豆の木]	三井住友アセットマネジメント	
	温暖化対策株式オープン [愛称：グリーン・プラネット]	国際投信投資顧問	
	ピクテ新興国インカム株式ファンド(毎月決算型)	ピクテ投信投資顧問	
	SG中国株ファンド [愛称：悟空]	ソシエテジェネラルアセットマネジメント	○
	シュローダーBRICs株式ファンド	シュローダー証券投信投資顧問	
	グローバル・ソブリン・オープン(毎月決算型)	国際投信投資顧問	
バランス型	財産3分法ファンド(不動産・債券・株式)毎月分配型	日興アセットマネジメント	
	LM・グローバル・プラス(毎月分配型)	レグ・メイソン・アセット・マネジメント	
	グローバル3資産ファンド [愛称：ワンプレートランチ]	三井住友アセットマネジメント	
	兵庫応援バランスファンド(毎月分配型)	大和証券投資信託委託	
	マイストーリー分配型(年6回)Bコース	野村アセットマネジメント	
	ワールド・バランス・オープン [愛称：ハーモニー]	三井住友アセットマネジメント	○
	世界8資産ファンド [愛称：世界組曲] 安定コース・分配コース・成長コース	みずほ投信投資顧問	
	グローバル・ソブリン・オープン(1年決算型)	国際投信投資顧問	○

毎月自動的に一定額の投資信託を購入していく、『みなと自動積立投信』も取扱っております。

## 損害保険代理店業務

### 長期火災保険

取扱商品	引受保険会社	商品の特徴
ホームびたっとE	ニッセイ同和損害保険	住宅ローンをご利用のお客さまに新築費・新品価格基準で保険金額を設定し、損害額をそのまま保険金としてお支払いする新価・実損払いの火災保険です。お客さまのニーズに合わせて3商品をご用意させていただいております。
ホームライフ総合保険	三井住友海上火災保険	
ホームガード保険	東京海上日動火災保険	

## 生命保険代理店業務

### 個人年金保険

保険の種類	取扱商品	引受保険会社	商品の特徴
変額年金保険	たのしみVA年金物語	住友生命保険	一時払いで払い込んだ保険料を投資信託などで運用し、その運用実績によって将来受取る年金額が変動する商品です。お客さまのニーズに合わせて7商品をご用意させていただいております。
	未来航路NEXT	三井住友海上メットライフ生命保険	
	百花凜々Ⅱ	三井住友海上メットライフ生命保険	
	グッドニュースⅡ	東京海上日動フィナンシャル生命保険	
	プラチナライフアヴァンセ	アリコジャパン	
	ファイブテン	T&Dフィナンシャル生命保険	
	年金果実	明治安田生命保険	
定額年金保険	堅実ねんきん	明治安田生命保険	年金受取額が契約時にあらかじめ定められている商品で、毎年所定の年金が支払われます。(一時払い型) お客さまのニーズに合わせて2商品をご用意させていただいております。
	マイドリーム プラス	日本生命保険	
	無選択特則付5年ごと利差配当付個人年金保険	三井住友海上きらめき生命保険	年金受取額が契約時にあらかじめ定められている商品で、毎年所定の年金が支払われます。(月払い型)
	シリウスハーモニー	アリコジャパン	年金受取額が外貨ベースで契約時にあらかじめ定められている商品です。お客さまのニーズに合わせて2商品をご用意させていただいております。
	アテナ	三井住友海上メットライフ生命保険	

### 終身保険

保険の種類	取扱商品	引受保険会社	商品の特徴
一時払終身保険	ロングドリーム	日本生命保険	万一の場合、ご家族のために生涯にわたり保障が継続する商品です。
一時払三大疾病保障保険	三重奏	アメリカンファミリー生命保険会社	がん・急性心筋梗塞・脳卒中になられたとき、給付金が支給される商品です。

### がん・医療保険

保険の種類	取扱商品	引受保険会社	商品の特徴
がん保険	アフラックのがん保険 f(フォルテ)	アメリカンファミリー生命保険会社	万一「がん」になられたとき、治療にかかる費用を保障する商品です。
医療保険	EVER セレクトプラン	アメリカンファミリー生命保険会社	万一の病気やケガに備える商品です。病気やケガで入院したり、所定の手術を受けた場合に給付金を受取ることができます。
	新医療保険	三井住友海上きらめき生命保険	



# 各種サービス (平成21年6月30日現在)

## ■エレクトロニックバンキング(EB)サービスのご案内

パソコン・EB専用端末機、電話、ファクシミリなどを利用して家庭やオフィスにいながら各種の金融サービスをご利用いただけます。

サービス名	内 容
みなとビジネスWeb	法人および個人事業者の方を対象に、インターネットを利用して、簡単な操作で預金口座の残高、入出金明細の照会、振込・振替サービスに加え、総合振込・給与振込等のサービスがご利用いただけます。
みなと外国為替WEB	法人および個人事業者の方を対象に、インターネットを利用して外国仕向送金、輸入信用状のお申込みにご利用いただけます。
パソコンバンクサービス	パソコンの専用ソフトまたはFB専用端末機を利用して、家庭やオフィスにいながら預金口座の残高、入出金明細の照会サービス、振込・振替サービスに加え、総合振込・給与振込等のサービスがご利用いただけます。
FAX振込サービス	オフィスやお店のFAXを利用して手間がかからず簡単に総合振込・給与振込のサービスがご利用いただけます。
モバイルバンキング・インターネットバンキング	携帯電話やインターネットパソコンを利用して、振込、残高照会、入出金の照会がご利用いただけます。また、インターネットでは定期預金の預入・払出、住所変更などもご利用いただけます。 ※個人専用
ファクシミリサービス	お振込の連絡又は入出金の連絡をファクシミリでお知らせするほか、ファクシミリによりお振込の照会または入出金の照会および残高照会がご利用いただけます。
テレホンサービス	お振込の連絡を電話でお知らせするほか、電話によりお振込の入金照会や残高照会がご利用いただけます。
残高照会サービス	バンクカードをお持ちのお客さまは、プッシュホンによる残高照会サービスがご利用いただけます。

## ■その他サービスのご案内

種 類	内 容
給 与 振 込	給与・賞与をご指定の預金口座にお振込いたします。当行窓口および自動サービスコーナーのほか、提携している全国の金融機関・郵便局・コンビニなどのATMでお引き出しいただけます。
年金・配当金の自動受取	お手続きを一度していただくだけで、ご指定口座で年金・配当金をお受取りいただけます。
公共料金自動支払	電気・ガス・水道・電話・NHKの料金をご指定口座から自動的にお支払いいただけます。通帳に支払日、支払金額、支払先が記入されるため、管理がしやすくなります。
貸 金 庫	銀行の専用金庫で、重要書類や貴重品などお客さまの大切な財産をしっかりと保管いたします。盗難、紛失の心配がなく、地震や火災の際も安心です。
みなと銀VISA/JCBカード	ライフシーンにあわせて、安心、快適に使えるクレジットカードです。VISA・JCBのいずれかをお選びいただけます。

## ■デビットカードサービスのご案内

お買い物やご飲食のお支払いに、当行のバンクカードをそのままデビットカードとしてご利用いただけます。

## ■信託代理業務について

お客さまの相続ニーズ等幅広いニーズにお応えするために、平成15年2月より国民年金基金募集(取次)業務を、平成17年7月より遺言信託・遺産整理業務を、また平成20年10月より資産承継プランニング業務のお取扱いをしております。今後も、より一層きめ細かい金融サービスの充実を図ってまいります。

《代理店契約先》 三菱UFJ信託銀行

取扱業務	取扱店舗
国民年金基金募集(取次)	全店(東京支店は除く)
遺言信託、遺産整理、資産承継プランニング	

# 主要手数料 (平成21年6月30日現在)

## 為替関係手数料

お振込方法			当行(注3) 同一支店宛	当行 本支店宛	他行宛	
ATM (注1)	当行の キャッシュ カード	個人 のお客さま	3万円未満	無料	105円	210円
			3万円以上	無料	105円	420円
		法人・団体 のお客さま	3万円未満	無料	105円	210円
			3万円以上	無料	210円	420円
	他行のキャッシュ カード (注2)	3万円未満	無料	105円	210円	
		3万円以上	無料	210円	420円	
現金	3万円未満	105円	210円	420円		
	3万円以上	315円	420円	630円		
窓口	3万円未満	210円	315円	630円		
	3万円以上	420円	525円	840円		
EB	3万円未満	無料	210円	525円		
	3万円以上	無料	420円	735円		
自動送金サービス	3万円未満	無料	105円	420円		
	3万円以上	無料	315円	630円		
FAX振込サービス	3万円未満	105円	210円	525円		
	3万円以上	315円	420円	735円		
総合振込(依頼書扱い)	3万円未満	210円	315円	630円		
	3万円以上	420円	525円	840円		
インターネット・ モバイルバンキング (個人専用) (注1)	3万円未満	無料	105円	210円		
	3万円以上	無料	105円	420円		

(注1) ATM及びインターネット・モバイルバンキング(個人専用)のご利用による三井住友銀行あてのお振込は、当行本支店宛と同じ手数料となります。

時間外(平日8時45分から18時以外の時間帯)のお振込については、上記振込手数料のほかに時間外手数料105円(消費税込み)が必要となります。

(注2) 他行キャッシュカードをご利用の場合は上記振込手数料のほかにご利用手数料105円(消費税込み)が必要となります。一部利用できない金融機関のカードがあります。

(注3) 店番号が異なる支店と出張所の間のお振込は、当行本支店宛としてお取扱いいたします。

手数料名	当行同一支店宛	当行本支店宛	他行宛
給与振込	EB・FAX振込扱い	無料	105円
	依頼書扱い	無料	315円

※MT・FD扱いはEB扱い手数料と同一。

手数料名	取立	店頭入金	
代金取立手数料 (代手・商手・担手 共)	当所宛(注4)	1通につき 630円 無料	
	他所宛	普通扱い	1通につき 840円 840円
		至急扱い	1通につき 1,050円 -
送金手数料	当行本支店宛	1件につき ..... 420円	
	他行宛	1件につき ..... 630円	
他行宛地方税等 取扱手数料	3万円未満	1件につき ..... 630円	
	3万円以上	1件につき ..... 840円	
その他の手数料	送金・振込の組戻料	1件につき ..... 630円	
	送金・振込の変更料	1件につき ..... 630円	
	取立手形組戻料	1件につき ..... 840円	
	依頼返却料	1件につき ..... 840円	
	不渡手形返却料	1件につき ..... 840円	
	取立手形店頭呈示料	1件につき ..... 840円 (ただし、840円を超える実費を要する場合は、その実費を申し受けます)	
自動送金事務手数料	1回につき ..... 105円		

(注4) 相互に乗り入れている手形交換所を含みます。  
(大阪 神戸 姫路 淡路島の交換所相互間)

## 預金関係手数料

手数料名	金額	
小切手帳代金	1冊(50枚綴) 630円	
手形帳代金	1冊(20枚綴) 420円	
マル専手形交付手数料	1枚 525円	
マル専口座開設手数料	1件 3,150円	
自己宛小切手発行手数料	1枚 525円	
署名鑑 印手数料	登録・変更手数料	1回 5,250円
	発行手数料	小切手 1冊 105円 手形 1冊 42円
夜間預金 金庫手数料	契約料	月間 4,200円
	専用入金帳代金	1冊(50枚綴) 26,250円
各種証明書発行 手数料	都度	1通 735円
	包括分	1通 420円
通帳・証書再発行手数料	1件 1,050円	
バンクカード再発行手数料	1件 1,050円	
取引履歴照会事務取扱手数料	1件 1,050円	

## その他手数料

手数料名	金額	
自動集金サービス手数料	振替済1件につき 105円	
EB手数料	みなとビジネスWeb	5,250円
	みなと外国為替WEB	3,150円
	パソコンバンク	5,250円
	FAX振込	月間 1,050円
	ファクシミリ	1,050円(注5)
テレホン	無料	
MT/FD持込処理手数料	5,250円	

(注5) ファクシミリは照会、連絡1回につき10.5円いただきます。

※貸金庫使用料につきましては、サイズ・タイプにより各店ごとに異なります。  
詳細は営業店窓口にお問い合わせください。

## 融資関係手数料

手数料名	金額	手数料名	金額
住宅ローン取扱手数料	1件 31,500円	繰上返済手数料	
固定金利特約手数料		固定金利選択型	
融資実行時	1回 5,250円	返済額100万円未満	1回 21,000円
	固定金利再選択時	1回 10,500円	返済額100万円未満
条件変更手数料		返済額100万円以上	1回 52,500円
	金利種類の変更	1回 10,500円	上記以外のもの
不動産担保登記事項の変更		全額繰上返済	1回 8,400円
	担保物件の差し替え		一部繰上返済
担保物件の一部解除		返済額変更なし	1回 8,400円
	設定順位の変更 (順位引下げ)	1回 10,500円	返済額変更あり
根抵当権の極度増額		カードローン手数料	
債務者の変更	1回 31,500円	ローンカード発行手数料(含再発行)	1件 1,050円
その他の条件変更	1回 5,250円	火災保険質権設定手数料	1件 1,050円

※別途保証会社手数料が必要となる場合があります。

◎金額欄に記載の金額には、5%の消費税等が含まれております。  
◎各種手数料は社会情勢の変化等により内容を変更することがあります。

昭和 24年	9月	七福相互無尽株式会社設立(本店：神戸市生田区元町通6丁目53番地の5)
昭和 26年	8月	本店を神戸市生田区楠町2丁目37番地に移転
昭和 26年	10月	相互銀行業免許取得、株式会社七福相互銀行に商号変更
昭和 30年	3月	本店を神戸市生田区三宮町2丁目18番地に移転
昭和 41年	10月	株式会社阪神相互銀行に商号変更
昭和 47年	9月	大阪証券取引所市場第二部へ上場
昭和 48年	8月	大阪証券取引所市場第一部へ上場
昭和 48年	9月	オンラインスタート
昭和 50年	4月	外国為替公認銀行として外国為替業務開始
昭和 53年	3月	社債等登録業務取扱認可
昭和 58年	4月	公共債の窓口販売開始
昭和 61年	6月	公共債のディーリング業務開始
昭和 62年	7月	コルレス包括承認取得
平成 元年	2月	普通銀行に転換し、株式会社阪神銀行に商号変更
平成 元年	6月	SWIFTに加盟
平成 元年	6月	担保附社債信託法に基づく担保附社債の受託業務開始
平成 元年	12月	東京証券取引所市場第一部へ上場
平成 2年	1月	新オンラインシステム稼働
平成 6年	7月	信託代理業務の取扱開始
平成 7年	10月	株式会社みどり銀行設立(本店：神戸市中央区生田町1丁目4番3号)
平成 11年	4月	株式会社みどり銀行と合併、株式会社みなと銀行に商号変更
平成 12年	2月	株式会社さくら銀行(現 三井住友銀行)より2ヵ店を営業譲受
平成 12年	4月	投資信託の窓口販売開始
平成 12年	5月	株式会社さくら銀行より2ヵ店を営業譲受
平成 12年	7月	株式会社さくら銀行の当行株式141,657千株公開買付(TOB)により、同行の連結子会社化
平成 12年	11月	株式会社さくら銀行より10ヵ店を営業譲受
平成 12年	12月	北兵庫信用組合より事業の全部譲受
平成 13年	1月	株式会社さくら銀行より10ヵ店を営業譲受
平成 13年	4月	損害保険の窓口販売開始
平成 13年	10月	神戸商業信用組合と合併
平成 14年	10月	生命保険の窓口販売開始
平成 17年	4月	証券仲介業務開始
平成 19年	4月	上海駐在員事務所開設
平成 20年	7月	がん・医療保険の窓口販売開始

# 株式の状況

## 大株主の状況

(平成21年3月31日現在)

氏名又は名称	住 所	所有株式数	発行済株式総数に対する 所有株式数の割合
株式会社三井住友銀行	東京都千代田区有楽町1丁目1-2	184,828 千株	44.97 %
みなと銀行共栄会	神戸市中央区伊藤町107-1	19,233	4.68
日本生命保険相互会社	東京都千代田区丸の内1丁目6-6	10,501	2.55
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口4G)	東京都中央区晴海1丁目8-11	9,667	2.35
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	東京都中央区晴海1丁目8-11	6,745	1.64
ニッセイ同和損害保険株式会社	大阪市北区西天満4丁目15-10	6,661	1.62
三井住友海上火災保険株式会社	東京都中央区新川2丁目27-2	6,220	1.51
みなと銀行従業員持株会	神戸市中央区三宮町2丁目1-1	5,756	1.40
住友生命保険相互会社	東京都中央区築地7丁目18-24	5,203	1.26
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	東京都港区浜松町2丁目11-3	5,080	1.23
計	—	259,896	63.24

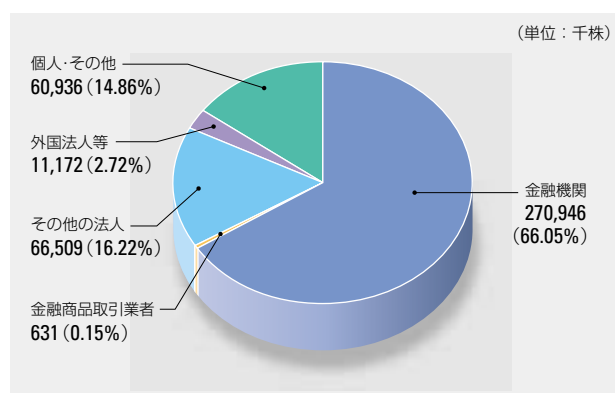
※株式会社三井住友銀行の所有株式数には、同行が退職給付信託の信託財産として抛出し、議決権行使の指図権を留保している当行株式165,500千株(発行済株式総数に対する割合40.27%)を含んでおります。なお、株主名簿上の名義は「日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(中央三井アセット信託銀行再信託分・株式会社三井住友銀行退職給付信託口)」であります。

## 発行済株式総数、資本金等の推移

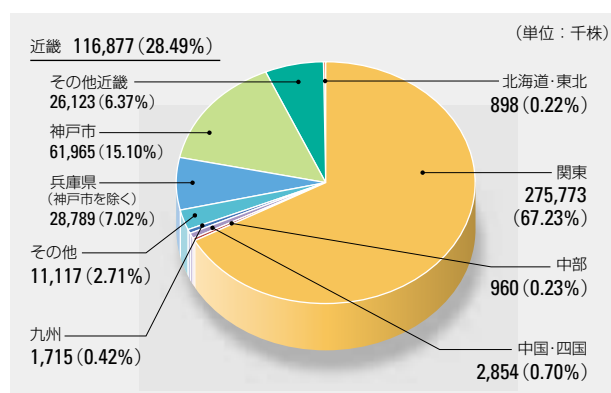
年月日	発行済株式総数		資 本 金		資 本 準 備 金		摘 要
	増 減 数	残 高	増 減 額	残 高	増 減 額	残 高	
平成18年12月5日	千株 25,000	千株 407,940	千円 2,300,000	千円 27,208,132	千円 2,252,250	千円 27,160,446	有償 一般募集 発行価格 191円 発行価額 182.09円 資本組入額 92円
平成19年1月5日	3,000	410,940	276,000	27,484,132	270,270	27,430,716	有償 第三者割当 発行価格 182.09円 資本組入額 92円 割当先 野村證券株式会社

## 単元株式の状況 (平成21年3月31日現在)

### 所有者別株式数



### 地域別株式数





# 役員一覧



取締役頭取  
藪本 信裕



取締役副頭取  
尾野 俊二



常務取締役  
井上 嗣朗



常務取締役  
正木 誠司



常務取締役  
森 薫



常務取締役  
後藤 盛次



取締役(社外役員)  
太田 敏郎

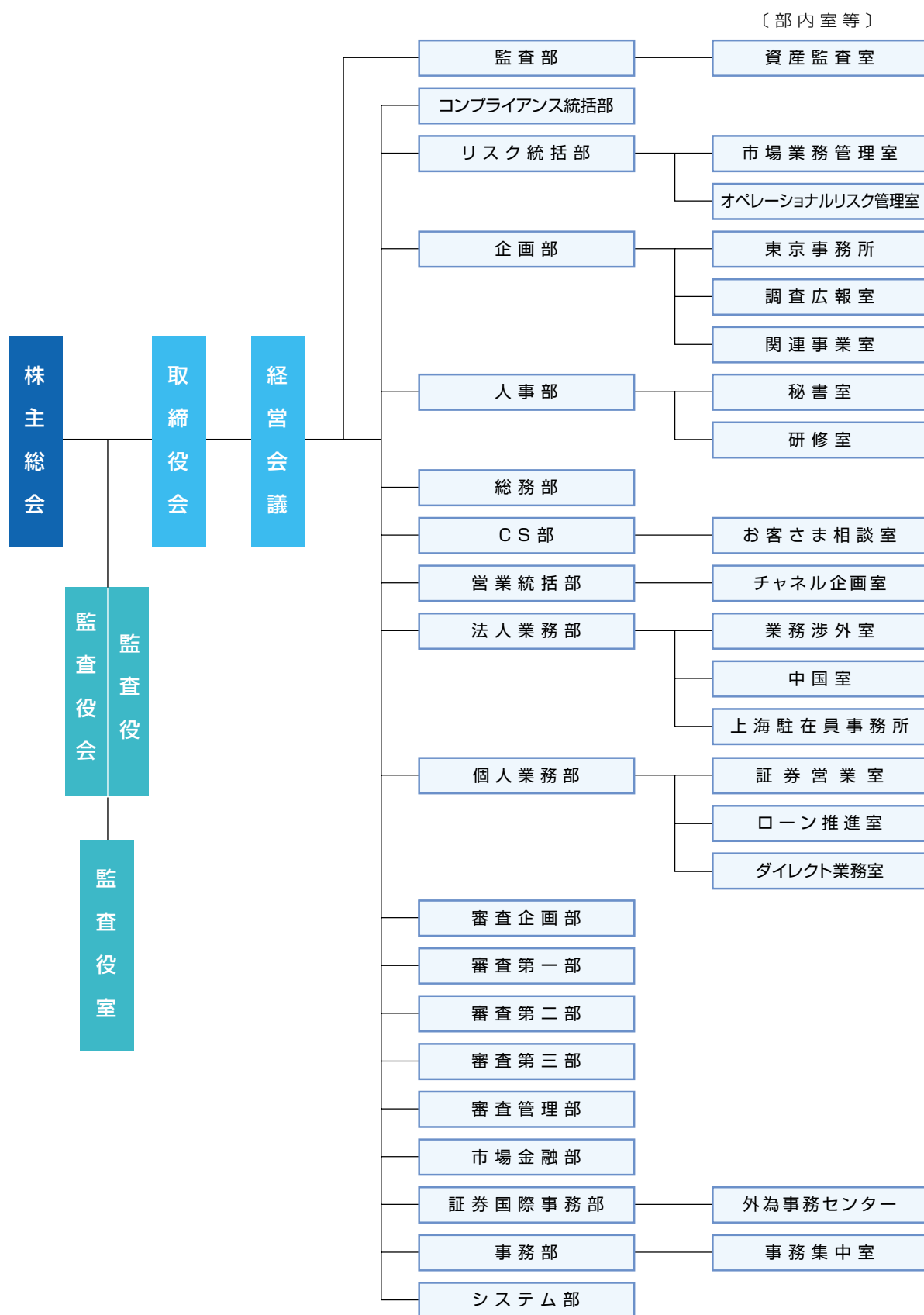
(平成21年6月26日現在)

## 役員

※取締役頭取 (代表取締役)	藪本 信裕
※取締役副頭取 (代表取締役)	尾野 俊二
※常務取締役	井上 嗣朗
※常務取締役	正木 誠司
※常務取締役	森 薫
※常務取締役	後藤 盛次
取締役 (社外役員)	太田 敏郎
常勤監査役	庵原 敬吾
常勤監査役	今橋 正隆
監査役 (社外役員)	岡田 信吾
監査役 (社外役員)	津田 貞之
監査役 (社外役員)	長手 務

常務執行役員 (営業統括部長)	吉田 博己
執行役員 (姫路支店長兼姫路中央支店長)	須方 輝
執行役員 (審査第二部長)	渡辺 真悟
執行役員 (東京支店長兼企画部東京事務所長)	吉田 裕康
執行役員 (システム部長)	岡田 好記
執行役員 (本店営業部長)	安国 尚史
執行役員 (大阪支店長)	佐園 憲之
執行役員 (梅田支店長)	押条 徹夫
執行役員 (個人業務部長)	梶谷 静也

(注) 1. 取締役のうち太田敏郎氏は、会社法第2条第15項に定める社外取締役であります。  
2. 監査役のうち岡田信吾、津田貞之、長手務の各氏は、会社法第2条第16項に定める社外監査役であります。  
3. ※印の取締役は執行役員を兼務しております。



# 店舗一覽

(平成21年6月30日現在)

店舗コード	店舗名	所在地	郵便番号	住所	電話番号	
神戸市(中央区)	11	本店営業部	神戸大丸百貨店東100m	651-0193	神戸市中央区三宮町2-1-1	078(331)8141
	44	春日野	阪急春日野道駅南側	651-0071	神戸市中央区筒井町3-12-14	078(241)8333
	111	三宮	JR三ノ宮駅西口南側、神戸交通センタービル内	650-0021	神戸市中央区三宮町1-10-1	078(393)2791
	141	北野坂	山手幹線・北野坂通り交差点山側角	650-0004	神戸市中央区中山手通1-24-4	078(241)5821
	163	神戸駅前	JR神戸駅北東200m、神戸市バス裁判所前バス停前	650-0015	神戸市中央区多聞通2-1-2	078(341)1864
神戸市(東灘区)	12	本山	JR摂津本山駅北、ダイエーグルメシティ本店東隣	658-0072	神戸市東灘区岡本1-9-2	078(451)4381
	28	青木	阪神青木駅南、青木商店街	658-0027	神戸市東灘区青木6-4-15	078(452)7641
	50	住吉支店六甲アイランド(出)	ジ・アンタンテ内	658-0032	神戸市東灘区向洋町中5-15	078(857)0880
	68	住吉	JR住吉駅北側	658-0051	神戸市東灘区住吉本町1-7-7	078(821)2521
	116	東部市場	東部市場内	658-0023	神戸市東灘区深江浜町1-1	078(452)6832
	132	阪急御影	阪急御影駅南50m	658-0056	神戸市東灘区御影2-3-10	078(842)1501
	143	甲南	JR甲南山手駅南東150m、国道2号線沿いセルバ1階	658-0011	神戸市東灘区森南町1-5-1-103	078(431)4101
神戸市(灘区)	13	水道筋	水道筋3丁目バス停前	657-0831	神戸市灘区水道筋3-10-1	078(861)5701
	103	六甲道	JR六甲道駅南側、駅前メイン六甲Aビル内	657-0038	神戸市灘区深田町4-1-39	078(856)3550
	114	春日野支店灘の浜(出)	HAT神戸灘の浜住宅10番館	657-0855	神戸市灘区摩耶海岸通2-3	078(861)1744
神戸市(兵庫区)	15	兵庫	神戸高速鉄道・神戸電鉄新開地西出口北、神鉄ビル向い	652-0802	神戸市兵庫区水木通1-4-7	078(577)2631
	16	夢野	神戸市バス夢野町2丁目バス停前	652-0058	神戸市兵庫区菊水町6-3-16	078(521)1301
	115	御崎	神戸市営地下鉄海岸線御崎公園駅東150m	652-0855	神戸市兵庫区御崎町1-1-18	078(681)3761
	162	中央市場	神戸市営地下鉄海岸線中央市場前駅1番出口上る	652-0844	神戸市兵庫区中之島1-1-5	078(681)0931
神戸市(長田区)	17	長田	神戸市バス長田神社前バス停前、長田神社東側	653-0811	神戸市長田区大塚町2-3-12	078(691)1151
	18	大橋	新長田地下鉄ビル1階	653-0841	神戸市長田区松野通1-2-1	078(611)5391
神戸市(北区)	21	西鈴蘭台	神戸電鉄西鈴蘭台駅前	651-1131	神戸市北区北五葉1-1-17	078(591)4411
	42	谷上	北神急行電鉄・神戸電鉄谷上駅構内	651-1245	神戸市北区谷上東町1-1	078(583)5281
	65	神戸北町	神戸北町ニュータウン内、コープこうべコープデイズ神戸北町店隣	651-1233	神戸市北区日の峰2-6-2	078(581)5190
	108	藤原台	神戸電鉄岡場駅前、エコーレ リラ2階	651-1302	神戸市北区藤原台中町1-2-2	078(987)1200
	148	鈴蘭台	神戸電鉄鈴蘭台駅北50m	651-1111	神戸市北区鈴蘭台北町1-9-11	078(591)9011
神戸市(須磨区)	19	板宿	山陽電鉄・神戸市営地下鉄板宿駅南250m東側	654-0023	神戸市須磨区戎町2-2-6	078(732)0101
	19	板宿支店板宿北(出)	山陽電鉄・神戸市営地下鉄板宿駅北ダイエー内	654-0011	神戸市須磨区前池町3-4-1	078(735)9330
	22	高倉台	高倉台団地内、高倉台小学校北側	654-0081	神戸市須磨区高倉台4-2-8	078(734)1661
	29	横尾	神戸市営地下鉄妙法寺駅前、リファール横尾内	654-0131	神戸市須磨区横尾1-5	078(743)1360
	170	須磨ニュータウン	神戸市営地下鉄名谷駅前、名谷センタービル内	654-0154	神戸市須磨区中落合2-2-5	078(792)6101
	184	月見山	山陽電鉄月見山駅南150m、コープこうべ須磨店北隣	654-0051	神戸市須磨区月見山本町1-9-27	078(734)7501
神戸市(垂水区)	20	垂水	JR垂水駅東出口北側	655-0027	神戸市垂水区神田町2-39	078(707)0435
	23	新多聞	新多聞団地内、神戸市バス舞子高校前バス停前	655-0006	神戸市垂水区本多聞4-1-3	078(783)6223
	180	舞子	ダイエー舞子店隣	655-0046	神戸市垂水区舞子台6-20-15	078(782)0371

(平成21年6月30日現在)

	店舗 コード	店舗名	所在地	郵便番号	住所	電話番号
神戸市(西区)	47	西神ニュータウン西	コープこうべ西神店隣、かすがプラザ内	651-2276	神戸市西区春日台3-3	078(961)3251
	48	西神中央	神戸市営地下鉄西神中央駅西隣	651-2273	神戸市西区靴台5-10-2	078(991)5721
	149	押部谷	神戸電鉄押部谷駅北側	651-2213	神戸市西区押部谷町福住628	078(995)0234
	197	伊川谷	コープこうべコープデイズ神戸西店向い側	651-2111	神戸市西区池上2-22-6	078(975)7701
	199	岩岡	カナート西神戸店(イズミヤ)西向い	651-2412	神戸市西区竜が岡1-3-4	078(967)5611
伊丹市	55	川西	阪急川西能勢口駅西出口北50m	666-0016	川西市中央町7-22	072(759)3621
	56	伊丹	伊丹阪急駅ビル1-2階	664-0858	伊丹市西台1-1-1	072(772)1721
	60	昆陽里	イズミヤ昆陽店西隣	664-0027	伊丹市池尻1-2-1	072(779)9051
尼崎市	51	尼崎	国道2号線玉江橋西300m	660-0881	尼崎市昭和通5-165	06(6411)9541
	52	武庫之荘	阪急武庫之荘駅北50m	661-0035	尼崎市武庫之荘1-5-8	06(6436)4475
	237	塚口	阪急塚口駅南、さんさんタウン1番館1階	661-0012	尼崎市南塚口町2-1-1-101	06(6427)8531
宝塚市	57	逆瀬川	阪急逆瀬川駅西側	665-0035	宝塚市逆瀬川2-1-9	0797(71)3331
	66	宝塚	阪急宝塚駅南ソリオ2内	665-0845	宝塚市栄町2-1-2	0797(86)8150
西宮市	59	鳴尾	阪神鳴尾駅北300m、ダイエーグルメシティ北鳴尾店西隣	663-8182	西宮市学文殿町1-9-25	0798(48)5721
	151	西宮	阪神西宮駅北西300m、国道2号線沿い	662-0971	西宮市和上町6-19	0798(34)5001
	154	甲東園	阪急甲東園駅西、アプリ甲東内	662-0812	西宮市甲東園3-2-29	0798(52)0661
芦屋市	158	芦屋駅前	JR芦屋駅北100m、ラポルテ本館北向い	659-0093	芦屋市船戸町5-1	0797(32)3700
三田市	321	三田	三田市役所前	669-1529	三田市中央町4-41	079(663)4031
	323	篠山	JRバス西町バス停北100m	669-2335	篠山市乾新町68	079(652)2133
	393	柏原	八幡筋通り沿い、丹波市役所柏原支所前	669-3309	丹波市柏原町柏原12	0795(72)2840
明石市	77	朝霧	コープこうべ大蔵谷店南側	673-0844	明石市東野町1-2	078(911)6810
	78	明南	JR西明石駅北東徒歩15分、コープこうべ西明石店南東50m	673-0001	明石市明南町1-3-10	078(927)4111
	84	明石	JR・山陽電鉄明石駅南側	673-0891	明石市大明石町1-5-12	078(918)2323
	117	大久保駅前(※)	JR大久保駅北約200m国道2号線沿い	674-0051	明石市大久保町大窪280-1	078(935)6080
	175	明舞	明舞センターバス停西、松が丘ビル内	673-0862	明石市松が丘2-3-7	078(912)2201
	176	西明石	JR西明石駅東口南	673-0041	明石市西明石南町2-13-20	078(927)2895
	178	土山	JR土山駅北側 国道2号線沿	674-0074	明石市魚住町清水字追越2186-27	078(943)2001
	181	魚住	JR魚住駅北西400m、魚住消防署北側	674-0074	明石市魚住町清水140-3	078(947)1851
	303	二見	山陽電鉄東二見駅北側	674-0092	明石市二見町東二見397-2	078(941)4981
加古川市・高砂市・加古郡	79	東加古川	JR東加古川駅南側	675-0101	加古川市平岡町新在家2-264-18	079(425)4505
	83	宝殿	JR宝殿駅南100m	676-0805	高砂市米田町米田136-2	079(432)8722
	87	加古川	JR加古川駅南側	675-0064	加古川市加古川町溝之口510-3	079(423)0211
	89	本荘	山陽電鉄播磨町駅西、播磨小学校南隣	675-0143	加古郡播磨町宮北2-4-3	079(437)3871
	337	高砂	山陽電鉄荒井駅北700m	676-0012	高砂市荒井町中新町8-18	079(443)4301
	339	稲美	稲美町役場西300m、国岡交差点南	675-1115	加古郡稲美町国岡2-12-1	079(492)6231
	437	志方	神姫バス志方西口バス停前	675-0321	加古川市志方町志方町1490-1	079(452)3580

(※)平成21年7月13日新設



# 店舗一覧

(平成21年6月30日現在)

	店舗コード	店舗名	所在地	郵便番号	住所	電話番号
北播磨	85	三木	神戸電鉄三木駅西方700m	673-0403	三木市末広3-8-21	0794(82)0980
	86	西脇	西脇市バスターミナル東150m	677-0015	西脇市西脇字セジアン968-6	0795(22)4853
	88	志染	神戸電鉄志染駅前	673-0551	三木市志染町西自由が丘1-350	0794(85)1681
	106	小野	神戸電鉄小野駅北側小野バス停そば	675-1372	小野市本町56-7	0794(62)7870
	325	社	社環状線 社派出所前	673-1431	加東市社566-5	0795(42)3800
	334	加西	ジャスコ加西店北東300m	675-2311	加西市北条町横尾298-1	0790(42)1272
中播磨・西播磨	81	姫路	JR姫路駅北200m	670-0902	姫路市白銀町24	079(223)3761
	343	山崎	中国自動車道山崎IC北側山崎バス停前	671-2576	宍粟市山崎町鹿沢52-1	0790(62)1500
	345	網干	山陽電鉄網干駅南50m	671-1234	姫路市網干区新在家1407	079(272)1151
	346	龍野	ダイエー龍野店隣	679-4167	たつの市龍野町富永150	0791(62)1361
	347	家島	家島汽船真浦浅橋南東700m、家島小学校手前	672-0101	姫路市家島町真浦2140	079(325)1211
	349	姫路中央	JR姫路駅南、パラスイオ第2ビル	670-0962	姫路市南駅前町100	079(288)2201
	358	家島支店坊勢(出)	家島消防団坊勢分団東隣	672-0103	姫路市家島町坊勢157	079(326)0677
	454	野里	慶雲寺バス停前	670-0872	姫路市八代字町裏723-5	079(223)0421
	459	網干駅	JR網干駅北側 糸井バス停前	671-1532	揖保郡太子町糸井字前田188-6	079(276)6750
	460	御着	JR御着駅北側	671-0232	姫路市御国野町御着702-7	079(252)6550
	462	福崎	JR播但線福崎駅前	679-2212	神崎郡福崎町福田313-3	0790(22)7340
	465	相生	JR相生駅南側 播磨病院バス停前	678-0031	相生市旭3-6-2	0791(23)3980
	466	赤穂	JR播州赤穂駅南側	678-0239	赤穂市加里屋駅前町50-3	0791(43)6470
	467	上郡	JR上郡駅北側	678-1231	赤穂郡上郡町上郡110-6	0791(52)1770
淡路	71	洲本	市立図書館南、洲本南淡線沿い	656-0021	洲本市塩屋1-1-9	0799(22)1650
	74	福良	南あわじ市役所南淡庁舎隣	656-0501	南あわじ市福良甲512-47	0799(52)0332
	352	津名	淡路交通志筑バスターミナル西50m	656-2131	淡路市志筑3166-1	0799(62)0786
	413	岩屋	淡路総合事務所北側	656-2401	淡路市岩屋1351-1	0799(72)5180
	417	湊	南あわじ市役所西淡庁舎西側	656-0332	南あわじ市湊33-3	0799(36)5685
但馬	702	香住	国道178号線沿い、金刀羅神社前	669-6544	美方郡香美町香住区香住1824-5	0796(36)1316
	705	豊岡	豊岡駅前再開発ビルアイティ東向かい	668-0032	豊岡市千代田町10-21	0796(22)6207
	710	和田山	玉置交差点南角	669-5213	朝来市和田山町玉置662-2	079(672)2378
東京都	70	東京	JR神田駅東口から中央通りを日本橋方面に300m	103-0022	東京都中央区日本橋室町4-5-1	03(5200)0666
大阪府	31	大阪	御堂筋本町北御堂北側、瓦町ビル6階	541-0048	大阪市中央区瓦町4-2-14	06(6228)3710
	33	梅田	扇町通神山交差点南350m	530-0047	大阪市北区西天満6-3-17	06(6361)3491
	40	千里山	阪急千里山駅東側	565-0842	吹田市千里山東2-27-10	06(6380)5641

	名称	所在地	電話番号
海外	上海駐在員事務所 (日本美納都銀行股份有限公司 上海代表处)	中華人民共和国上海市銅仁路195号 中欣大廈3312号室	(86-21)6289-8080

上記の他、非対面式個人ローン専門店「神戸ポート支店(店舗コード790 電話番号0120-371-052)」  
非対面式インターネット・テレフォン専門店「海岸通支店(店舗コード780 電話番号0120-037-120)」があります。

# 住宅ローンプラザ・店舗外自動サービスコーナー

## ■住宅ローンプラザ

(平成21年6月30日現在)

店舗名	所在地	郵便番号	住所	電話番号
姫路 住宅ローンプラザ	みなと銀行 姫路中央支店内	670-0962	姫路市南駅前町100	079(288)2277
加古川 住宅ローンプラザ	みなと銀行 加古川支店2階	675-0064	加古川市加古川町満之口510-3	079(423)0248
西明石 住宅ローンプラザ	みなと銀行 西明石支店内	673-0041	明石市西明石南町2-13-20	078(927)3062
西神 住宅ローンプラザ	みなと銀行 西神ビル1階	651-2274	神戸市西区竹の台6-2	078(991)9933
舞子 住宅ローンプラザ	みなと銀行 舞子支店2階	655-0046	神戸市垂水区舞子台6-20-15	078(782)4561
藤原台 住宅ローンプラザ	みなと銀行 藤原台支店1階	651-1302	神戸市北区藤原台中町1-2-2	078(987)3350
三宮 住宅ローンプラザ	三宮センタープラザ東館・西端2階	650-0021	神戸市中央区三宮町1-9-1-209	078(332)6650
西宮 住宅ローンプラザ	みなと銀行 西宮支店内	662-0971	西宮市和上町6-19	0798(32)6777
塚口 住宅ローンプラザ	塚口さんさんタウン2番館3階	661-0012	尼崎市南塚口町2-1-2-314	06(6427)8535
梅田 住宅ローンプラザ	みなと梅田ビル10階	530-0047	大阪市北区西天満6-3-17	06(6361)3641

## ■店舗外自動サービスコーナー

(平成21年6月30日現在)

市町村	店舗名
神戸市	中央区 兵庫県庁 神戸市役所 元町駅前 ポートアイランド 三宮センター街 ハーバーランド 三宮東
	東灘区 阪神御影
	灘区 阪急六甲
	兵庫区 パークタウン 上湊川 兵庫駅前
	長田区 鷹取
	北区 北鈴蘭台 コープからと グリーンガーデン北神戸SC ジャスコつくしが丘店
	須磨区 JR須磨駅前 落合
	垂水区 福田 上高丸 グルメシティ小東山店 ジェームス山サティ 神戸掖済会病院 ティオ舞子 多聞台 神陵台 東垂水
	西区 西神南 かりばプラザ コープ月が丘 学園都市 西神戸サティ
	伊丹市 関西スーパー緑ヶ丘店
宝塚市 イズミヤ小林店	
尼崎市	関西労災病院 コープ立花 コープ園田
	西宮市 メルカードむこがわ 甲子園 苔楽園 西宮北口
芦屋市 芦屋浜シーサイドタウン	
三田市 ウッディタウンサティ	
明石市	魚住駅前 コープ西明石 マイカルタウン明石サティ 大久保東
	加古川市・高砂市・加古郡 播磨町役場 稲美町役場 コープ神吉 別府 かん野 曽根
西脇市・三木市・加西市・東播磨	小野市役所 小野市民病院 小野駅 小野サティ 兵庫教育大学 加東市役所 ジャスコ社店 カナート西脇店
	姫路市・西播磨 コープ姫路田寺 播磨科学公園都市 赤穂市役所 ジャスコ赤穂店 コープ相生東 プラット赤穂 相生駅
淡路 パルティ 東浦	
大阪府 医誠会病院	

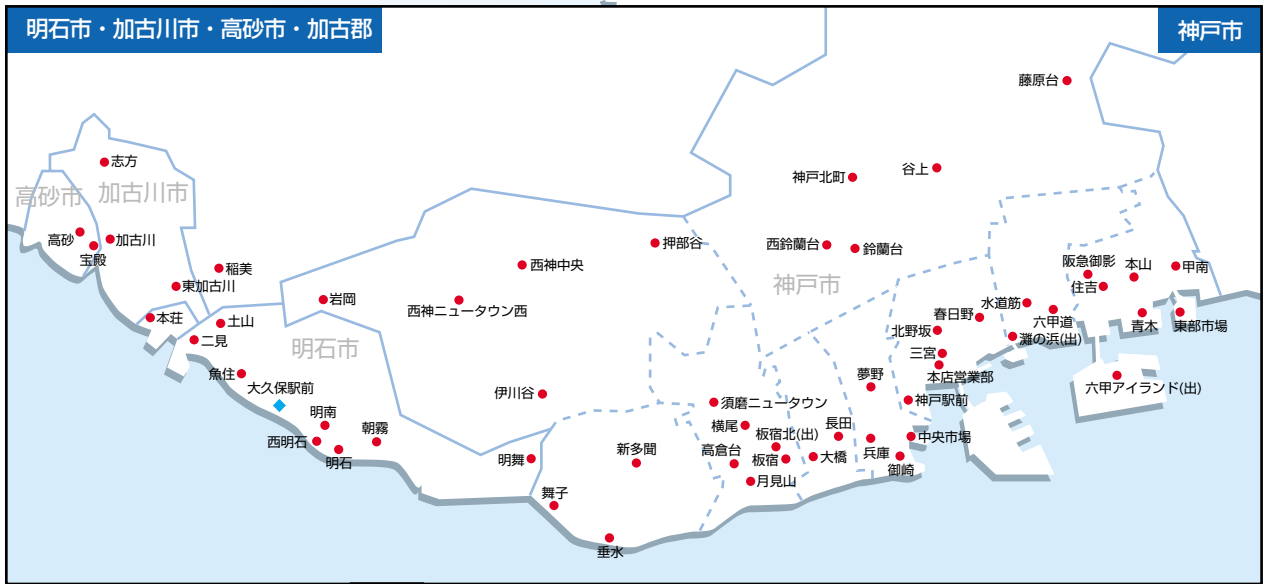
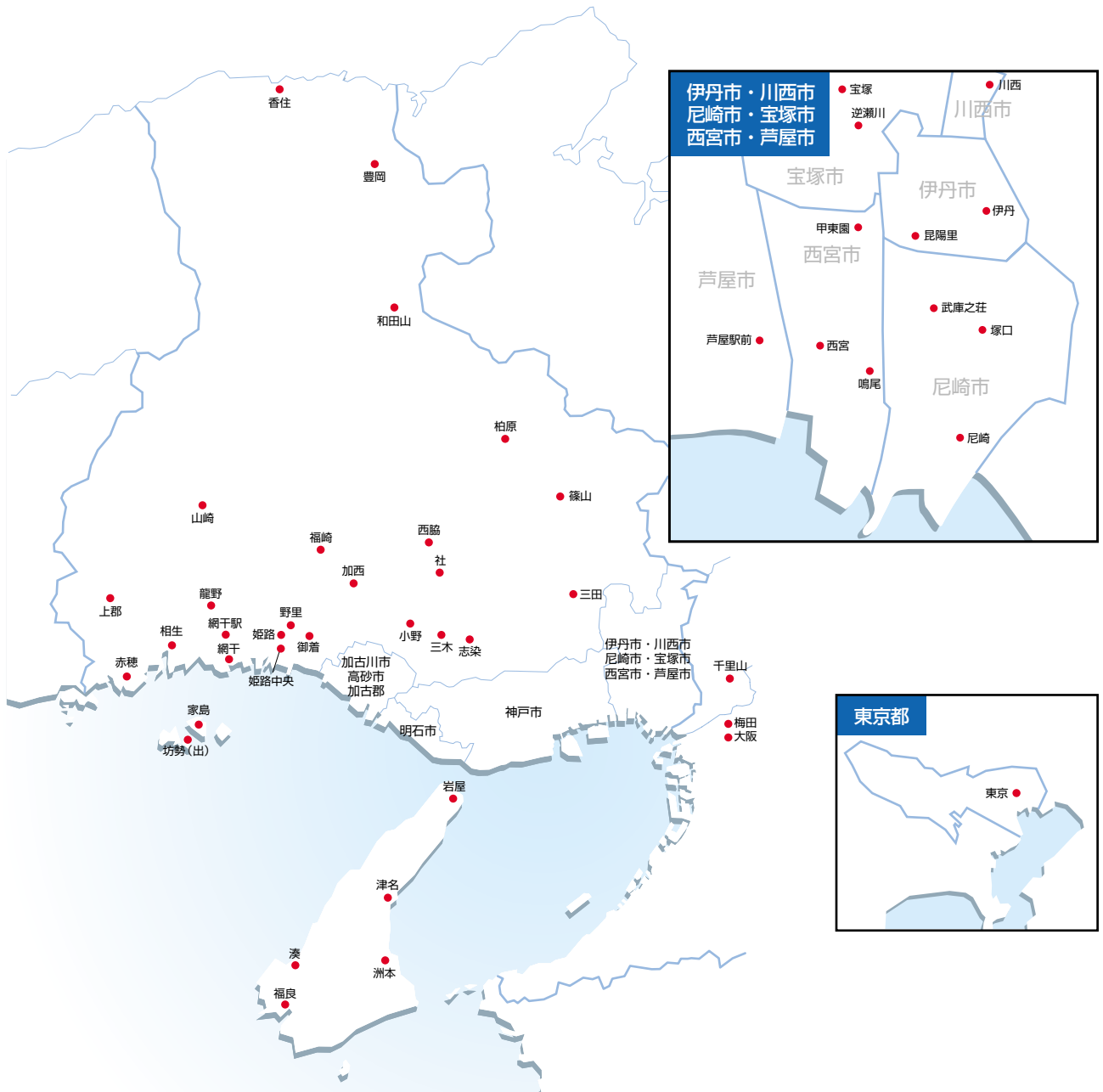
(除く企業内設置分)

## ■現金自動機器設置台数 (平成21年6月30日現在)

区分：現金自動預入支払機 店内：405台 店外：137台 合計 542台

# 店舗配置図 (平成21年6月30日現在)

店舗配置図



◆平成21年7月13日新設

## 資料編

### 連結情報

事業の内容	46
主要な経営指標等の推移	47
連結財務諸表	48
連結自己資本比率の状況	56

### 単体情報

主要な経営指標等の推移	57
財務諸表	58
損益の状況	65
預金業務	69
貸出業務	70
内国為替・国際業務・証券業務	73
有価証券	75
デリバティブ取引情報・オフ・バランス取引情報	77
ALM	79
単体自己資本比率の状況	80
諸比率	81
従業員の状況	82

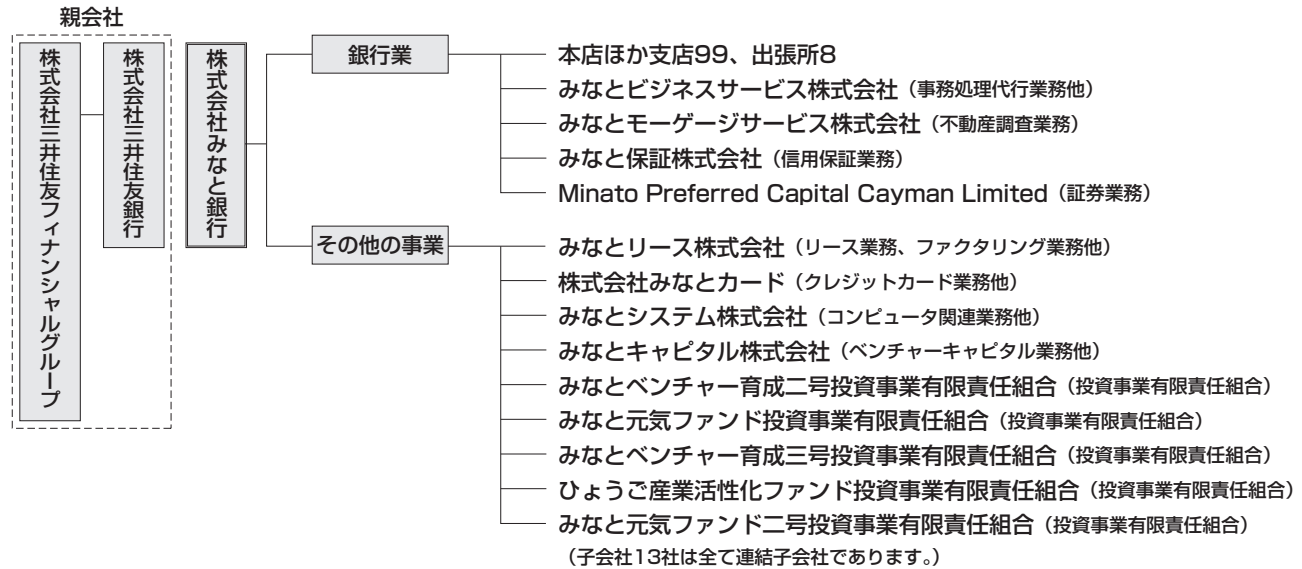


# 事業の内容

## 企業集団の事業の内容

当行グループ（当行及び当行の関係会社）は、当行、親会社2社及び子会社13社で構成され、銀行業務を中心に、クレジットカード業務、信用保証業務、リース業務、事務処理代行業務、ベンチャーキャピタル業務などの金融サービスに係る事業を行っております。

## 企業集団の事業系統図



## 関係会社の状況

名称	住所	資本金	主要な事業の内容	議決権の所有又は被所有割合	当行との関係内容					設立年月日
					役員の兼任等	資金援助	営業上の取引	設備の賃貸借	業務提携	
(親会社) 株式会社三井住友フィナンシャルグループ	東京都千代田区	百万円 1,420,877	傘下子会社の経営管理並びにそれに付帯する業務	被所有46.34% (46.34)	—人	—	—	—	—	平成14年 12月2日
(株)三井住友銀行	東京都千代田区	664,986	銀行業	被所有46.34% (1.23)	転籍6	—	預金取引関係 金銭貸借関係	—	—	平成8年 6月6日
(連結子会社) (株)みなとビジネスサービス	神戸市中央区	20	事務処理代行業務他	所有 100.00	転籍4	—	預金取引関係 業務受託	事務所の賃借	—	昭和57年 9月24日
(株)みなとモーゲージサービス	神戸市中央区	30	不動産調査業務	100.00	転籍3	—	預金取引関係 業務受託	事務所の賃借	—	平成元年 7月17日
(株)みなと保証	神戸市中央区	1,780	信用保証業務	100.00	転籍6	—	預金取引関係	事務所の賃借	—	昭和58年 5月26日
(株)みなとリース	神戸市中央区	30	リース業務、 ファクタリング業務他	61.00 (56.00)	転籍5	—	預金取引関係 金銭貸借関係	機器類の賃貸 事務所の賃借	—	昭和59年 6月21日
(株)みなとカード	神戸市中央区	350	クレジットカード業務他	96.89 (91.89)	転籍6	—	預金取引関係 金銭貸借関係	事務所の賃借	—	平成2年 7月11日
(株)みなとシステム	神戸市中央区	50	コンピュータ関連業務他	100.00 (95.00)	転籍3	—	預金取引関係 金銭貸借関係	事務所の賃借	—	平成11年 3月24日
(株)みなとキャピタル	神戸市中央区	250	ベンチャーキャピタル 業務他	100.00 (30.00)	転籍3	—	預金取引関係	事務所の賃借	—	平成12年 6月23日
Minato Preferred Capital Cayman Limited	Cayman Islands	0	証券業務	100.00	—	—	預金取引関係	—	—	平成19年 9月6日
その他5社	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—

(注) 1. 特定子会社に該当する会社はありません。  
 2. 上記関係会社のうち、有価証券報告書を提出している会社は、株式会社三井住友フィナンシャルグループ及び株式会社三井住友銀行であります。  
 3. 「議決権の所有又は被所有割合」欄の( )内は、間接所有の割合(内書き)であります。  
 4. 当行の役員による役員の兼任はありません。

# 主要な経営指標等の推移

## 業 績

### 金融経済環境

平成20年度の兵庫県経済は、年度初めには緩やかながら拡大傾向にあったものの、9月以降の世界的な金融危機を背景に企業の景況感は急速に悪化しました。景気の牽引役であった輸出が年度後半大幅な減少に転じ、鉱工業生産の減少幅が拡大しました。そうした下で、企業の設備投資の先送りが見られました。また、住宅投資は減少し、雇用情勢が次第に厳しさを増す中で個人消費は弱い動きで推移しました。

### 経営の基本方針

当行は、お客様の幅広いニーズにお応えしていくため、金融サービスの拡充に努めるとともに、三井住友銀行グループの地域金融機関として、金融・情報サービスの提供を通じて、地域に貢献していくことを基本方針としております。

## 業 績

当連結会計年度の業績は以下の通りとなりました。

(主要勘定)

預金の当連結会計年度末残高は、前連結会計年度末比651億31百万円増加し、2兆6,183億60百万円となりました。また貸出金の当連結会計年度末残高は、住宅ローンを中心とした個人向け貸出に積極的に取り組みした結果、前連結会計年度末比137億78百万円増加し、2兆2,464億32百万円となりました。また、有価証券の当連結会計年度末残高につきましては、前連結会計年度末比868億34百万円増加し、4,677億16百万円となりました。

(損益)

当連結会計年度の経常収益は、投資信託等の資産運用商品の販売減少等により、役員取引等収益が減少したこと等から、前連結会計年度比68億8百万円減少の748億1百万円となりました。また預金利息の増加に加え、貸倒引当金繰入額が大幅

に増加した結果、経常利益は前連結会計年度比177億77百万円減少し、90億7百万円の経常損失となりました。

また、当期純利益は、前連結会計年度比150億70百万円減少し、93億12百万円の当期純損失となりました。

事業の種類別セグメントの業績は、銀行業での経常収益は前連結会計年度比41億24百万円減少の706億41百万円、経常費用は前連結会計年度比136億49百万円増加の793億86百万円、経常利益は前連結会計年度比177億74百万円減少の87億45百万円の経常損失となりました。また、その他の事業の経常損失は前連結会計年度比51百万円減少の2億6百万円となりました。

なお、事業区分の方法につきましては、従来、「銀行業」「リース業」「その他の事業」の3区分としておりましたが、「リース業」の全セグメントに占める割合が低下したため、当連結会計年度から「リース業」を「その他の事業」に含めております。そのため、その他の事業の前連結会計年度にはリース業を含んでおります。

### キャッシュ・フローの状況

営業活動によるキャッシュ・フローは、貸出金の増加による支出が減少したこと等により前連結会計年度比828億91百万円収入が増加し、616億18百万円の収入となりました。

投資活動によるキャッシュ・フローは、有価証券の償還による収入が減少したこと等により前連結会計年度比755億51百万円収入が減少し、654億49百万円の支出となりました。

また、財務活動によるキャッシュ・フローは、16億45百万円の支出となりました。

以上の結果、当連結会計年度末の現金及び現金同等物の残高は、前連結会計年度末比54億60百万円減少の433億61百万円となりました。

## 当連結会計年度の前4連結会計年度及び当連結会計年度に係る次に掲げる主要な経営指標等の推移

	平成16年度 (自 平成16年4月1日 至 平成17年3月31日)	平成17年度 (自 平成17年4月1日 至 平成18年3月31日)	平成18年度 (自 平成18年4月1日 至 平成19年3月31日)	平成19年度 (自 平成19年4月1日 至 平成20年3月31日)	平成20年度 (自 平成20年4月1日 至 平成21年3月31日)
連結経常収益	72,895 <sup>百万円</sup>	79,773	75,703	81,610	<b>74,801</b>
連結経常利益 (△は連結経常損失)	10,113 <sup>百万円</sup>	11,723	12,153	8,770	<b>△9,007</b>
連結当期純利益 (△は連結当期純損失)	4,017 <sup>百万円</sup>	5,558	6,948	5,757	<b>△9,312</b>
連結純資産額	85,528 <sup>百万円</sup>	87,259	100,073	99,852	<b>88,721</b>
連結総資産額	2,733,599 <sup>百万円</sup>	2,742,960	2,749,716	2,810,282	<b>2,872,916</b>
1株当たり純資産額	223.53 <sup>円</sup>	228.08	241.37	241.29	<b>214.64</b>
1株当たり当期純利益金額 (△は1株当たり当期純損失金額)	10.49 <sup>円</sup>	14.53	17.75	14.02	<b>△22.68</b>
潜在株式調整後 1株当たり当期純利益金額	— <sup>円</sup>	—	—	—	—
自己資本比率	— <sup>%</sup>	—	3.60	3.52	<b>3.06</b>
連結自己資本比率 (国内基準)	9.17 <sup>%</sup>	9.11	9.45	9.72	<b>9.37</b>
連結自己資本利益率	4.91 <sup>%</sup>	6.43	7.47	5.81	<b>△9.95</b>
連結株価収益率	21.73 <sup>倍</sup>	29.20	14.64	14.69	—
営業活動による キャッシュ・フロー	△40,775 <sup>百万円</sup>	△63,723	△34,472	△21,273	<b>61,618</b>
投資活動による キャッシュ・フロー	48,089 <sup>百万円</sup>	90,145	△1,630	10,101	<b>△65,449</b>
財務活動による キャッシュ・フロー	△12,752 <sup>百万円</sup>	△647	13,561	△1,645	<b>△1,645</b>
現金及び現金同等物の期末残高	58,419 <sup>百万円</sup>	84,192	61,651	48,821	<b>43,361</b>
従業員数 〔外、平均臨時従業員数〕	2,185 〔760〕 <sup>人</sup>	2,157 〔790〕	2,204 〔858〕	2,289 〔897〕	<b>2,396 〔917〕</b>

(注) 1.消費税及び地方消費税の会計処理は、税抜方式によっております。

2.連結純資産額及び連結総資産額の算定にあたり、平成18年度から「貸借対照表の純資産の部の表示に関する会計基準」(企業会計基準第5号)及び「貸借対照表の純資産の部の表示に関する会計基準等の適用指針」(企業会計基準適用指針第8号)を適用しております。

3.「1株当たり純資産額」、「1株当たり当期純利益金額(又は当期純損失金額)」及び「潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額」(以下、「1株当たり情報」という。)の算定に当たっては、「1株当たり当期純利益に関する会計基準」(企業会計基準第2号)及び「1株当たり当期純利益に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第4号)を適用しております。1株当たり純資産額は、企業会計基準適用指針第4号が改正されたことに伴い、平成18年度から繰延ヘッジ損益を含めて算出してあります。

また、これら1株当たり情報の算定上の基礎は、「連結財務諸表」注記事項の「1株当たり情報」に記載しております。

4.潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額については、潜在株式がないので記載していません。

5.自己資本比率は、(期末純資産の部合計-期末新株予約権-期末少数株主持分)を期末資産の部の合計で除して算出してあります。

6.連結自己資本比率は、平成18年度末から、銀行法第14条の2の規定に基づく平成18年金融庁告示第19号に定められた算式に基づき算出してあります。当行は国内基準を採用しております。なお、平成17年度以前は、銀行法第14条の2の規定に基づく平成5年大蔵省告示第55号に定められた算式に基づき算出してあります。

7.平成20年度の連結株価収益率については、連結当期純損失となったため記載していません。

# 連結財務諸表

## 会計監査人の監査の状況

1. 当行の会社法第444条第1項に定める連結計算書類は、会社法第396条第1項によるあずさ監査法人の監査を受けております。
2. 当行の連結財務諸表、すなわち、連結貸借対照表、連結損益計算書、連結株主資本等変動計算書及び連結キャッシュ・フロー計算書につきましては、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、あずさ監査法人の監査証明を受けております。

## 連結貸借対照表

### 資産の部

(単位：百万円)

科 目	年度別	前連結会計年度末 (平成20年3月31日)	当連結会計年度末 (平成21年3月31日)
現金預け金		49,025	<b>43,514</b> ※7
コールローン及び買入手形		9,947	<b>28,323</b>
債券貸借取引支払保証金		39,875	—
買入金銭債権		6,755	<b>6,138</b>
商品有価証券		459	<b>512</b>
有価証券		380,881	<b>467,716</b> ※7・13
貸出金		2,232,653	<b>2,246,432</b> ※1・2・3・4・5・6・8
外国為替		4,970	<b>5,564</b> ※5
リース債権及びリース投資資産		—	<b>6,855</b>
その他資産		30,697	<b>30,535</b> ※7
有形固定資産		41,983	<b>35,038</b> ※9・10
建物		15,074	<b>14,931</b>
土地		18,164	<b>17,460</b>
建設仮勘定		4	<b>3</b>
その他の有形固定資産		8,740	<b>2,642</b>
無形固定資産		4,471	<b>3,755</b>
ソフトウェア		2,611	<b>2,703</b>
その他の無形固定資産		1,860	<b>1,052</b>
繰延税金資産		18,554	<b>19,153</b>
支払承諾見返		20,755	<b>18,103</b>
貸倒引当金		△30,749	<b>△38,726</b>
資産の部合計		2,810,282	<b>2,872,916</b>

負債及び純資産の部

(単位：百万円)

科 目	年度別	前連結会計年度末 (平成20年3月31日)	当連結会計年度末 (平成21年3月31日)
( 負債の部 )			
預 金		2,553,229	<b>2,618,360</b> ※7
譲 渡 性 預 金		32,168	<b>2,706</b>
コールマネー及び売渡手形		—	<b>1,000</b> ※7
債券貸借取引受入担保金		—	<b>16,096</b> ※7
借 用 金		57,955	<b>57,594</b> ※11
外 国 為 替		117	<b>105</b>
社 債		5,000	<b>5,000</b> ※12
そ の 他 負 債		35,700	<b>59,784</b>
賞 与 引 当 金		1,027	<b>790</b>
退 職 給 付 引 当 金		3,534	<b>3,842</b>
役員退職慰労引当金		290	<b>234</b>
睡眠預金払戻損失引当金		650	<b>576</b>
支 払 承 諾		20,755	<b>18,103</b>
負 債 の 部 合 計		2,710,429	<b>2,784,195</b>
( 純資産の部 )			
資 本 金		27,484	<b>27,484</b>
資 本 剰 余 金		49,483	<b>49,483</b>
利 益 剰 余 金		22,659	<b>11,704</b>
自 己 株 式		△114	<b>△121</b>
株 主 資 本 合 計		99,512	<b>88,551</b>
その他有価証券評価差額金		△403	<b>△512</b>
繰 延 ヘ ッ ジ 損 益		△50	<b>69</b>
評 価 ・ 換 算 差 額 等 合 計		△454	<b>△442</b>
少 数 株 主 持 分		794	<b>613</b>
純 資 産 の 部 合 計		99,852	<b>88,721</b>
負 債 及 び 純 資 産 の 部 合 計		2,810,282	<b>2,872,916</b>



# 連結財務諸表

## 連結損益計算書

(単位：百万円)

科 目	年度別	前連結会計年度 (自 平成19年4月1日 至 平成20年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成20年4月1日 至 平成21年3月31日)
	経 常 収 益		81,610
資金運用収益		54,952	55,390
貸出金利息		50,410	49,788
有価証券利息配当金		3,541	4,580
コールローン利息及び買入手形利息		191	260
買現先利息		280	85
債券貸借取引受入利息		49	8
預け金利息		1	1
その他の受入利息		477	665
役務取引等収益		15,095	12,137
その他業務収益		7,646	5,538
その他経常収益		3,915	1,735 ※1
経 常 費 用		72,839	83,809
資金調達費用		8,288	8,644
預金利息		6,256	6,507
譲渡性預金利息		232	122
コールマネー利息及び売渡手形利息		—	0
債券貸借取引支払利息		1	67
借入金利息		1,489	1,682
社債利息		125	125
その他の支払利息		182	138
役務取引等費用		2,989	3,208
その他業務費用		6,702	2,603
営業経費		34,327	35,242
その他経常費用		20,531	34,109
貸倒引当金繰入額		17,631	31,346
その他の経常費用		2,899	2,763 ※2
経常利益又は経常損失(△)		8,770	△9,007
特 別 利 益		334	35
固定資産処分益		297	1
償却債権取立益		37	34
特 別 損 失		1,387	922
固定資産処分損		706	695
減損損失		—	226 ※3
その他の特別損失		681	—
税金等調整前当期純利益又は 税金等調整前当期純損失(△)		7,717	△9,894
法人税、住民税及び事業税		1,767	174
法人税等調整額		330	△592
法人税等合計			△418
少数株主損失(△)		△137	△163
当期純利益又は当期純損失(△)		5,757	△9,312

# 連結株主資本等変動計算書

(単位：百万円)

科 目	年度別	前連結会計年度	当連結会計年度
		(自 平成19年4月1日 至 平成20年3月31日)	(自 平成20年4月1日 至 平成21年3月31日)
株 主 資 本			
資 本 金			
前 期 末 残 高		27,484	27,484
当 期 変 動 額			
当 期 変 動 額 合 計		—	—
当 期 末 残 高		27,484	27,484
資 本 剰 余 金			
前 期 末 残 高		49,483	49,483
当 期 変 動 額			
当 期 変 動 額 合 計		—	—
当 期 末 残 高		49,483	49,483
利 益 剰 余 金			
前 期 末 残 高		18,543	22,659
当 期 変 動 額			
剰 余 金 の 配 当		△1,642	△1,642
当期純利益又は当期純損失(△)		5,757	△9,312
当 期 変 動 額 合 計		4,115	△10,954
当 期 末 残 高		22,659	11,704
自 己 株 式			
前 期 末 残 高		△108	△114
当 期 変 動 額			
自 己 株 式 の 取 得		△6	△6
当 期 変 動 額 合 計		△6	△6
当 期 末 残 高		△114	△121
株 主 資 本 合 計			
前 期 末 残 高		95,402	99,512
当 期 変 動 額			
剰 余 金 の 配 当		△1,642	△1,642
当期純利益又は当期純損失(△)		5,757	△9,312
自 己 株 式 の 取 得		△6	△6
当 期 変 動 額 合 計		4,109	△10,960
当 期 末 残 高		99,512	88,551
評 価 ・ 換 算 差 額 等			
そ の 他 有 価 証 券 評 価 差 額 金			
前 期 末 残 高		4,014	△403
当 期 変 動 額			
株主資本以外の項目の当期変動額(純額)		△4,417	△109
当 期 変 動 額 合 計		△4,417	△109
当 期 末 残 高		△403	△512
繰 延 ヘ ッ ジ 損 益			
前 期 末 残 高		△320	△50
当 期 変 動 額			
株主資本以外の項目の当期変動額(純額)		269	120
当 期 変 動 額 合 計		269	120
当 期 末 残 高		△50	69
評 価 ・ 換 算 差 額 等 合 計			
前 期 末 残 高		3,694	△454
当 期 変 動 額			
株主資本以外の項目の当期変動額(純額)		△4,148	11
当 期 変 動 額 合 計		△4,148	11
当 期 末 残 高		△454	△442
少 数 株 主 持 分			
前 期 末 残 高		977	794
当 期 変 動 額			
株主資本以外の項目の当期変動額(純額)		△182	△181
当 期 変 動 額 合 計		△182	△181
当 期 末 残 高		794	613
純 資 産 合 計			
前 期 末 残 高		100,073	99,852
当 期 変 動 額			
剰 余 金 の 配 当		△1,642	△1,642
当期純利益又は当期純損失(△)		5,757	△9,312
自 己 株 式 の 取 得		△6	△6
株主資本以外の項目の当期変動額(純額)		△4,330	△170
当 期 変 動 額 合 計		△221	△11,131
当 期 末 残 高		99,852	88,721

# 連結財務諸表

## 連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：百万円)

科 目	年度別	
	前連結会計年度 (自 平成19年4月1日 至 平成20年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成20年4月1日 至 平成21年3月31日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前当期純利益又は税金等調整前当期純損失 (△)	7,717	△9,894
減価償却費	5,436	2,839
減損損失	—	226
貸倒引当金の増減 (△)	17,631	31,346
賞与引当金の増減額 (△は減少)	83	△237
退職給付引当金の増減額 (△は減少)	385	307
前払年金費用の増減額 (△は増加)	△399	170
役員退職慰労引当金の増減額 (△は減少)	74	△55
睡眠預金払戻損失引当金の増減 (△)	650	△74
資金運用収益	△54,952	△55,390
資金調達費用	8,288	8,644
有価証券関係損益 (△)	△637	△140
為替差損益 (△は益)	229	△93
固定資産処分損益 (△は益)	590	695
商品有価証券の純増 (△) 減	243	△54
貸出金の純増 (△) 減	△79,310	△36,903
預金の純増減 (△)	58,346	65,582
譲渡性預金の純増減 (△)	△7,717	△29,462
借入金 (劣後特約付借入金を除く) の純増減 (△)	203	△360
有利息預け金の純増 (△) 減	86	50
コールローン等の純増 (△) 減	△27,322	22,116
コールマネー等の純増減 (△)	—	1,000
債券貸借取引受入担保金の純増減 (△)	—	16,096
外国為替 (資産) の純増 (△) 減	755	△593
外国為替 (負債) の純増減 (△)	61	△12
リース債権及びリース投資資産の増減額 (△は増加)	—	165
資金運用による収入	56,113	55,427
資金調達による支出	△7,029	△8,352
その他	△482	1,023
小計	△20,953	64,068
法人税等の支払額	△319	△2,450
営業活動によるキャッシュ・フロー	△21,273	61,618
投資活動によるキャッシュ・フロー		
有価証券の取得による支出	△757,531	△613,840
有価証券の売却による収入	241,965	359,463
有価証券の償還による収入	529,350	191,367
有形固定資産の取得による支出	△3,555	△1,576
有形固定資産の売却による収入	1,495	380
無形固定資産の取得による支出	△1,621	△1,243
無形固定資産の売却による収入	0	—
投資活動によるキャッシュ・フロー	10,101	△65,449
財務活動によるキャッシュ・フロー		
配当金の支払額	△1,639	△1,639
自己株式の取得による支出	△6	△6
財務活動によるキャッシュ・フロー	△1,645	△1,645
現金及び現金同等物に係る換算差額	△12	16
現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)	△12,830	△5,460
現金及び現金同等物の期首残高	61,651	48,821
現金及び現金同等物の期末残高	48,821	43,361 ※1

# 連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項

当連結会計年度(自 平成20年4月1日 至 平成21年3月31日)

## 1. 連結の範囲に関する事項

- (1) 連結子会社 13社  
主要な連結子会社名は、「事業の内容」の「関係会社の状況」に記載しているため省略しました。
- (2) 非連結子会社  
該当なし

## 2. 持分法の適用に関する事項

- (1) 持分法適用の非連結子会社  
該当なし
- (2) 持分法適用の関連会社  
該当なし
- (3) 持分法非適用の非連結子会社  
該当なし
- (4) 持分法非適用の関連会社  
該当なし

## 3. 連結子会社の事業年度等に関する事項

- (1) 連結子会社の決算日は次のとおりであります。  
3月末日 8社 12月末日 5社
- (2) 連結子会社は、それぞれの決算日の財務諸表により連結しております。  
連結決算日と上記の決算日との間に生じた重要な取引については、必要な調整を行っております。

## 4. 会計処理基準に関する事項

- (1) 商品有価証券の評価基準及び評価方法  
商品有価証券の評価は、時価法(売却原価は移動平均法により算定)により行っております。
- (2) 有価証券の評価基準及び評価方法  
有価証券の評価は、その他有価証券のうち時価のあるものについては、連結決算日の市場価格等(時価のある株式については連結決算期末月1ヵ月平均)に基づく時価法(売却原価は移動平均法により算定)、時価のないものについては、移動平均法による原価法又は償却原価法により行っております。  
なお、その他有価証券の評価差額については、全部純資産直入法により処理しております。
- (3) デリバティブ取引の評価基準及び評価方法  
デリバティブ取引の評価は、時価法により行っております。
- (4) 減価償却の方法
  - ①有形固定資産  
当社の有形固定資産は、建物については定額法を、その他については定率法を採用しております。  
また、主な耐用年数は次のとおりであります。  
建 物：8年～50年  
その他：2年～20年  
連結子会社の有形固定資産については、資産の見積耐用年数に基づき、主として定額法により償却しております。
  - ②無形固定資産  
無形固定資産は、定額法により償却しております。なお、自社利用のソフトウェアについては、当行及び連結子会社で定める利用可能期間(主として5年)に基づいて償却しております。
- (5) 貸倒引当金の計上基準  
当社の貸倒引当金は、予め定めている償却・引当基準に則り、次のとおり計上しております。  
破産、特別清算等法的に経営破綻の事実が発生している債務者(以下「破綻先」という。)に係る債権及びそれと同等の状況にある債務者(以下「実質破綻先」という。)に係る債権については、以下のなお書きに記載されている直接減額後の帳簿価額から、担保の処分可能見込額及び保証による回収可能見込額を控除し、その残額を計上しております。また、現在は経営破綻の状況にないが、今後経営破綻に陥る可能性が大きいと認められる債務者に係る債権については、債権額から、担保の処分可能見込額及び保証による回収可能見込額を控除し、その残額のうち、債務者の支払能力を総合的に判断し必要と認める額を計上しております。上記以外の債権については、過去の一定期間における貸倒実績から算出した貸倒実績率等に基づき計上しております。  
すべての債権は、資産の自己査定基準に基づき、営業関連部署が資産査定を実施し、当該部署から独立した資産監査部署が査定結果を監査しており、その査定結果に基づいて上記の引当を行っております。  
連結子会社の貸倒引当金は、一般債権については過去の貸倒実績率等を勘案して必要と認めた額を、貸倒懸念債権等特定の債権については、個別に回収可能性を勘案し、回収不能見込額をそれぞれ引き当てております。  
なお、破綻先及び実質破綻先に対する担保・保証付債権等については、債権額から担保の評価額及び保証による回収が可能と認められる額を控除した残額を取立不能見込額として債権額から直接減額しており、その金額は36,904百万円であります。
- (6) 賞与引当金の計上基準  
賞与引当金は、従業員への賞与の支払いに備えるため、従業員に対する賞与の支給見込額のうち、当連結会計年度に帰属する額を計上しております。
- (7) 退職給付引当金の計上基準  
退職給付引当金は、従業員の退職給付に備えるため、当連結会計年度末における退職給付債務及び年金資産の見込額に基づき、必要額を計上しております。  
また、過去勤務債務及び数理計算上の差異の費用処理方法は以下のとおりで

- あります。  
過去勤務債務：その発生時の従業員の平均残存勤務期間内の一定の年数(9年)による定額法により損益処理  
数理計算上の差異：各連結会計年度の発生時の従業員の平均残存勤務期間内の一定の年数(9年)による定額法により按分した額を、それぞれ発生時の翌連結会計年度から損益処理
- (8) 役員退職慰労引当金の計上基準  
役員退職慰労引当金は、役員(執行役員含む)への退職慰労金の支払いに備えるため、役員に対する退職慰労金の支給見込額のうち、当連結会計年度末までに発生していると認められる額を計上しております。
- (9) 睡眠預金払戻損失引当金の計上基準  
睡眠預金払戻損失引当金は、負債計上を中止し利益計上した預金について、預金者からの請求による払戻に備えるため、当連結会計年度末において過去の払戻実績に基づき算出した将来の払戻見込額を計上しております。
- (10) 外貨建資産・負債の換算基準  
当行の外貨建資産・負債は、連結決算日の為替相場による円換算額を付しております。
- (11) 重要なヘッジ会計の方法  
・金利リスク・ヘッジ  
当行の金融資産・負債から生じる金利リスクに対するヘッジ会計の方法は、「銀行業における金融商品会計基準適用に関する会計上及び監査上の取扱い」(日本公認会計士協会業種別監査委員会報告第24号)に規定する繰延ヘッジによっております。ヘッジ有効性評価の方法については、相場変動を相殺するヘッジについて、ヘッジ対象となる預金・貸出金等とヘッジ手段である金利スワップ取引等を一定の期間毎にグルーピングのうえ特定し評価しております。
- (12) 消費税等の会計処理  
消費税及び地方消費税の会計処理は、税抜方式によっております。

## 5. 連結子会社の資産及び負債の評価に関する事項

連結子会社の資産及び負債の評価については、全面時価評価法を採用しております。

## 6. のれん及び負ののれんの償却に関する事項

該当ありません。

## 7. 連結キャッシュ・フロー計算書における資金の範囲

連結キャッシュ・フロー計算書における資金の範囲は、連結貸借対照表上の「現金預け金」のうち現金及び無利息預け金であります。

## 連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項の変更

- (リース取引に関する会計基準)  
・貸手の会計処理  
所有権移転外ファイナンス・リース取引については、従来、賃貸借取引に係る方法に準じた会計処理によっておりましたが、「リース取引に関する会計基準」(企業会計基準第13号平成19年3月30日)及び「リース取引に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第16号同前)が平成20年4月1日以後開始する連結会計年度から適用されることになったことに伴い、当連結会計年度から同会計基準及び適用指針を適用し、通常の売買取引に係る方法に準じた会計処理に変更しております。また、ファイナンス・リース取引に係る収益の計上基準については、利息相当額の総額をリース期間中の各期に配分する方法によっております。  
なお、リース取引開始日が平成20年4月1日以前に開始する連結会計年度に属する所有権移転外ファイナンス・リース取引については、前連結会計年度末における固定資産の減価償却累計額控除後の額を契約額とし、期首に契約したのれんとしてリース投資資産に計上する方法によっております。  
これにより、従来方法に比べ、リース投資資産が6,572百万円増加しております。また、経常損失及び税金等調整前当期純損失に与える影響は軽微であります。  
なお、当連結会計年度よりリース取引の売上高を計上せず利息相当額を各期へ配分する方法としており、従来方法によった場合に比べて、経常収益及び経常費用が2,604百万円それぞれ減少しております。
- ・借手の会計処理  
該当ありません。

## 追加情報

- (その他有価証券に係る時価の算定方法の一部変更)  
有価証券のうち、その他有価証券として保有する変動利付国債については、従来、連結決算日の市場価格をもって連結貸借対照表価額としておりましたが、「金融資産の時価の算定に関する実務上の取扱い」(実務対応報告第25号 平成20年10月28日)を踏まえ、実際の売買事例が極めて少ない等の理由から市場価格が公正な評価額を示していないと考えられるため、当連結会計年度末においては、合理的に算定された価額をもって連結貸借対照表価額としております。これにより、市場価格をもって連結貸借対照表価額とした場合に比べ「有価証券」が3,503百万円増加、「繰延税金資産」が1,423百万円減少、「その他有価証券評価差額金」が2,079百万円増加しております。  
なお、変動利付国債の合理的に算定された価額は、国債の利回り等から見積もった将来キャッシュ・フローを同利回りに基づく割引率を用いて割り引くことにより算定しており、国債の利回り及び同利回りのボラティリティが主な価格決定変数であります。



# 連結財務諸表

## 注記事項

### 連結貸借対照表関係

当連結会計年度末（平成21年3月31日）

※1. 貸出金のうち、破綻先債権額は16,682百万円、延滞債権額は64,876百万円であります。

なお、破綻先債権とは、元本又は利息の支払の遅延が相当期間継続していることその他の事由により元本又は利息の取立て又は弁済の見込みがないものとして未収利息を計上しなかった貸出金（貸倒償却を行った部分を除く。以下「未収利息不計上貸出金」という。）のうち、法人税法施行令（昭和40年政令第97号）第96条第1項第3号のイからホまでに掲げる事由又は同項第4号に規定する事由が生じている貸出金であります。

また、延滞債権とは、未収利息不計上貸出金であって、破綻先債権及び債務者の経営再建又は支援を図ることを目的として利息の支払を猶予した貸出金以外の貸出金であります。

※2. 貸出金のうち、3カ月以上延滞債権額は498百万円であります。

なお、3カ月以上延滞債権とは、元本又は利息の支払が約定支払日の翌日から3日以上遅延している貸出金で破綻先債権及び延滞債権に該当しないものであります。

※3. 貸出金のうち、貸出条件緩和債権額は4,087百万円であります。

なお、貸出条件緩和債権とは、債務者の経営再建又は支援を図ることを目的として、金利の減免、利息の支払猶予、元本の返済猶予、債権放棄その他の債務者に有利となる取決めを行った貸出金で破綻先債権、延滞債権及び3カ月以上延滞債権に該当しないものであります。

※4. 破綻先債権額、延滞債権額、3カ月以上延滞債権額及び貸出条件緩和債権額の合計額は86,144百万円であります。

なお、上記1から4に掲げた債権額は、貸倒引当金控除前の金額であります。

※5. 手形割引は、「銀行業における金融商品会計基準適用に関する会計上及び監査上の取扱い」（日本公認会計士協会業種別監査委員会報告第24号）に基づき金融取引として処理しております。これにより受け入れた商業手形及び買入外国為替は、売却又は（再）担保という方法で自由に処分できる権利を有しておりますが、その額面金額は37,014百万円であります。

※6. ローン・パーティシパーションで、平成7年6月1日付日本公認会計士協会会計制度委員会報告第3号に基づいて、原債務者に対する貸出金として会計処理し、連結貸借対照表に計上した額は、26,608百万円であります。

※7. 担保に供している資産は次のとおりであります。

担保に供している資産	
有価証券	64,939百万円
預け金	0百万円
その他資産	91百万円

担保資産に対応する債務	
預金	5,468百万円
コールマネー	1,000百万円
債券貸借取引受入担保金	16,096百万円

上記のほか、為替決済及びデリバティブ取引の担保として、有価証券53,447百万円及びその他資産（手形交換所保証金等）57百万円を差し入れております。

また、その他資産のうち保証金は3,818百万円であります。

※8. 当座貸越契約及び貸付金に係るコミットメントライン契約は、顧客からの融資実行の申し出を受けた場合に、契約上規定された条件について違反がない限り、一定の限度額まで資金を貸付けることを約する契約であります。これらの契約に係る融資未実行残高は、487,816百万円であります。このうち原契約期間が1年以内のもの（又は任意の時期に無条件で取消可能なもの）が479,576百万円あります。

なお、これらの契約の多くは、融資実行されずに終了するものであるため、融資未実行残高そのものが必ずしも当行及び連結子会社の将来のキャッシュ・フローに影響を与えるものではありません。これらの契約の多くには、金融情勢の変化、債権の保全及びその他相当の事由があるときは、当行及び連結子会社が実行申し込みを受けた融資の拒絶又は契約極度額の減額をすることができる旨の条項が付けられております。また、契約時において必要に応じて不動産・有価証券等の担保を徴求するほか、契約後も定期的に予め定められている行内（社内）手続きに基づき顧客の業況等を把握し、必要に応じて契約の見直し、与信保全上の措置等を講じております。

※9. 有形固定資産の減価償却累計額 18,771百万円

※10. 有形固定資産の圧縮記帳額 81百万円

※11. 借入金には、他の債務よりも債務の履行が後順位である旨の特約が付された劣後特約付借入金55,000百万円が含まれております。

※12. 社債は、他の債務よりも債務の履行が後順位である旨の特約が付された劣後特約付社債であります。

※13. 有価証券中の社債のうち、有価証券の私募（金融商品取引法第2条第3項）による社債に対する保証債務の額は22,990百万円であります。

### 連結損益計算書関係

当連結会計年度（自平成20年4月1日 至 平成21年3月31日）

※1. その他経常収益には、部分直接償却取立益748百万円を含んでおります。

※2. その他の経常費用には、株式等償却1,502百万円、債権売却損249百万円及び貸出金償却248百万円を含んでおります。

※3. 当行は、固定資産の減損処理にあたり、営業用店舗については営業ブロック（連携して営業を行っている営業店グループ）をグルーピングの単位として取扱っており、連結子会社は各社1つの単位としてグルーピングを行っております。当行では、本部、電算センター、事務集中センター、社宅・寮等は、独立したキャッシュ・フローを生み出さないことから、共用資産としております。また、遊休資産は独立した単位として取扱っております。

上記の固定資産のうち、以下の資産については、店舗廃止及び移転による遊休化により投資額の回収が見込まれないことから、帳簿価額を回収可能価額まで減額し、当該減少額226百万円を減損損失として特別損失に計上しております。

場所	用途	種類	減損損失額 (百万円)
兵庫県明石市	遊休	土地及び建物等	169
兵庫県神戸市兵庫区	遊休	建物等	57
計			226

なお、回収可能価額は正味売却価額により算定しており、主として不動産鑑定評価額より処分費用見込額を控除して算定することを基準としております。

### 連結株主資本等変動計算書関係

当連結会計年度（自平成20年4月1日 至 平成21年3月31日）

1. 発行済株式の種類及び総数並びに自己株式の種類及び株式数に関する事項

(単位：千株)

	前連結会計年度末 株式数	当連結会計年度 増加株式数	当連結会計年度 減少株式数	当連結会計年度末 株式数	摘要
発行済株式					
普通株式	410,940	—	—	410,940	
種類株式	—	—	—	—	
合計	410,940	—	—	410,940	
自己株式					
普通株式	412	37	—	449	(注)
種類株式	—	—	—	—	
合計	412	37	—	449	

(注) 増加の要因は単元未満株式の買取りによるものであります。

2. 配当に関する事項

当連結会計年度中の配当金支払額

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たりの 金額(円)	基準日	効力発生日
平成20年6月27日 定時株主総会	普通株式 種類株式	1,642 —	4 —	平成20年3月31日	平成20年6月30日

### 連結キャッシュ・フロー計算書関係

当連結会計年度（自平成20年4月1日 至 平成21年3月31日）

※1. 現金及び現金同等物の期末残高と連結貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係

平成21年3月31日現在（単位：百万円）

現金預け金勘定	43,514
有利息預け金	△152
現金及び現金同等物	43,361

### 退職給付関係

1. 採用している退職給付制度の概要

当行は確定給付型の制度として、企業年金制度、退職一時金制度を設けております。

また、従業員の退職等に際して、退職給付会計に準拠した数理計算による退職給付債務の対象とされない割増退職金を支払う場合があります。

なお、当行は退職給付信託を設定しております。

連結子会社は、確定給付型の制度として、退職一時金制度を設けております。

2. 退職給付債務に関する事項

(単位：百万円)

区分	当連結会計年度 (平成21年3月31日)
退職給付債務	△20,497
年金資産	10,727
未積立退職給付債務	△9,770
会計基準変更時差異の未処理額	—
未認識数理計算上の差異	8,285
未認識過去勤務債務	57
連結貸借対照表計上額純額	△1,427
前払年金費用	2,414
退職給付引当金	△3,842

(注) 1. 臨時に支払う割増退職金は含めておりません。なお、連結貸借対照表上、翌期に臨時に支払う予定の割増退職金22百万円は、その他負債に含めて計上しております。

2. 連結子会社は、退職給付債務の算定にあたり、簡便法を採用しております。

3. 退職給付費用に関する事項

(単位：百万円)

区分	当連結会計年度 (平成21年3月31日)
勤務費用	600
利息費用	474
期待運用収益	△231
過去勤務債務の費用処理額	△8
数理計算上の差異の費用処理額	920
会計基準変更時差異の費用処理額	—
その他(臨時に支払った割増退職金等)	132
退職給付費用	1,887

(注) 簡便法を採用している連結子会社の退職給付費用(臨時に支払った割増退職金を除く)は、一括して「勤務費用」に含めて計上しております。



## 4. 退職給付債務等の計算の基礎に関する事項

区分	当連結会計年度 (平成21年3月31日)
(1) 割引率	2.0%
(2) 期待運用収益率	0~2.5%
(3) 退職給付見込額の期間配分方法	期間定額基準
(4) 過去勤務債務の額の処理年数	9年(その発生時の従業員の平均残存勤務期間内の一定の年数による定額法による)
(5) 数理計算上の差異の処理年数	9年(各連結会計年度の発生時の従業員の平均残存勤務期間内の一定の年数による定額法により按分した額を、それぞれ発生時の翌連結会計年度から費用処理することとしている)
(6) 会計基準変更時差異の処理年数	—

ストック・オプション等関係 当連結会計年度(自平成20年4月1日至平成21年3月31日) 該当ありません。

## 税効果会計関係 当連結会計年度(自平成20年4月1日至平成21年3月31日)

## 1. 繰延税金資産及び繰延税金負債の発生時の主な原因別の内訳

繰延税金資産		
貸倒引当金	19,267百万円	
退職給付引当金	3,170百万円	
賞与引当金	321百万円	
未払事業税	49百万円	
減価償却額	222百万円	
有価証券償却否認額	1,004百万円	
税務上の繰越欠損金	209百万円	
その他有価証券評価差額金	350百万円	
その他	1,231百万円	
繰延税金資産小計	25,826百万円	
評価性引当額	△4,910百万円	
繰延税金資産合計	20,916百万円	
繰延税金負債		
前払年金費用	△981百万円	
退職給付信託設定益	△685百万円	
繰延ヘッジ損益	△47百万円	
その他	△48百万円	
繰延税金負債合計	△1,762百万円	
繰延税金資産の純額	19,153百万円	

2. 連結財務諸表提出会社の法定実効税率と税効果会計適用後の法人税等の負担率との間に重要な差異があるときの、当該差異の原因となった主な項目別の内訳  
当連結会計年度は税金等調整前当期純損失となったため、記載していません。

企業結合等関係 当連結会計年度(自平成20年4月1日至平成21年3月31日) 該当ありません。

## セグメント情報

## 1. 事業の種類別セグメント情報

前連結会計年度(自平成19年4月1日至平成20年3月31日)

	銀行業	リース業	その他の事業	計	消又は全社	連結
	百万円	百万円	百万円	百万円	百万円	百万円
I 経常収益						
(1) 外部顧客に対する経常収益	74,318	4,816	2,474	81,610	—	81,610
(2) セグメント間の内部経常収益	447	494	203	1,144	(1,144)	—
計	74,765	5,311	2,677	82,754	(1,144)	81,610
経常費用	65,736	5,221	3,026	73,984	(1,144)	72,839
経常利益(△は経常損失)	9,029	89	△348	8,770	—	8,770
II 資産、減価償却費、減損損失及び資本的支出						
資産	2,800,598	17,194	11,769	2,829,561	(19,279)	2,810,282
減価償却費	2,529	488	13	3,031	—	3,031
資本的支出	3,191	1,980	5	5,177	—	5,177

(注) 1. 一般企業の売上高及び営業利益に代えて、それぞれ経常収益及び経常利益を記載しております。

2. 業務区分は、主に連結会社の事業の内容により区分しております。各事業の主な内容は次のとおりであります。

- (1) 銀行業……銀行業  
(2) リース業……リース業  
(3) その他の事業……クレジットカード、ベンチャー・キャピタル、計算受託等

当連結会計年度(自平成20年4月1日至平成21年3月31日)

	銀行業	その他の事業	計	消又は全社	連結
	百万円	百万円	百万円	百万円	百万円
I 経常収益					
(1) 外部顧客に対する経常収益	70,240	4,561	74,801	—	74,801
(2) セグメント間の内部経常収益	400	326	727	(727)	—
計	70,641	4,887	75,529	(727)	74,801
経常費用	79,386	5,094	84,481	(671)	83,809
経常損失(△)	△8,745	△206	△8,951	(55)	△9,007
II 資産、減価償却費、減損損失及び資本的支出					
資産	2,864,593	26,362	2,890,955	(18,038)	2,872,916
減価償却費	2,800	33	2,833	—	2,833
減損損失	226	—	—	—	226
資本的支出	2,935	116	3,051	—	3,051

(注) 1. 一般企業の売上高及び営業利益に代えて、それぞれ経常収益及び経常利益を記載しております。

2. 業務区分は、主に連結会社の事業の内容により区分しております。各事業の主な内容は次のとおりであります。

- (1) 銀行業……銀行業  
(2) その他の事業……リース、クレジットカード、ベンチャー・キャピタル、計算受託等  
3. 事業区分の方法については、従来、「銀行業」「リース業」「その他の事業」の3区分としておりましたが、「リース業」の全セグメントにおける割合が低下したため、当連結会計年度から「リース業」を「その他の事業」に含めて表示しております。なお、「リース業」における経常収益は2,412百万円、経常損失は10百万円、資産は16,247百万円、減価償却費は13百万円、資本的支出は43百万円あります。

## 2. 所在地別セグメント情報

前連結会計年度(自平成19年4月1日至平成20年3月31日)

全セグメントの経常収益の合計及び全セグメントの資産の金額の合計額に占める本邦の割合がいずれも90%を超えているため、所在地別セグメント情報の記載を省略しております。

当連結会計年度(自平成20年4月1日至平成21年3月31日)

全セグメントの経常収益の合計及び全セグメントの資産の金額の合計額に占める本邦の割合がいずれも90%を超えているため、所在地別セグメント情報の記載を省略しております。

## 3. 国際業務経常収益

前連結会計年度(自平成19年4月1日至平成20年3月31日)

国際業務経常収益が連結経常収益の10%未満のため、国際業務経常収益の記載を省略しております。

当連結会計年度(自平成20年4月1日至平成21年3月31日)

国際業務経常収益が連結経常収益の10%未満のため、国際業務経常収益の記載を省略しております。

## 関連当事者情報

当連結会計年度(自平成20年4月1日至平成21年3月31日)

## 1. 関連当事者との取引

(1) 連結財務諸表提出会社と関連当事者との取引

(ア) 連結財務諸表提出会社の親会社及び主要株主(会社等の場合に限る。)等

種類	会社等の名称 又は氏名	所在地	資本金又は 出資金	事業の内容 又は職業	議決権等の所有 (被所有)割合
親会社	株式会社 三井住友銀行	東京都千代田区	664,986 <sup>百万円</sup>	銀行業	直接被所有 45.10% 間接被所有 1.23
		関連当事者との関係	取引の内容	取引金額	科目
		銀行業務 役員の転籍6人	財務取引	—	借入金 37,000 <sup>百万円</sup>

取引条件及び取引条件の決定方針等

1. 一般の取引先と同様に決定しております。  
2. 借入金は他の債務よりも債務の履行が後順位である旨の特約が付された劣後特約借入金であります。

(イ) 連結財務諸表提出会社と同一の親会社を持つ会社等及び連結財務諸表提出会社のその他の関係会社の子会社等

種類	会社等の名称 又は氏名	所在地	資本金又は 出資金	事業の内容 又は職業	議決権等の所有 (被所有)割合
同一の親会社 を持つ 会社	SMBC信用 保証株式会社	東京都港区	187,720 <sup>百万円</sup>	信用保証業	直接被所有 0.44% 間接被所有 —
		関連当事者との関係	取引の内容	取引金額	科目
		銀行業務	営業取引	30,000 <sup>百万円</sup>	譲渡性 預金 — <sup>百万円</sup>

取引条件及び取引条件の決定方針等

1. 一般の取引先と同様に決定しております。  
2. 営業取引の取引金額は、満期による払戻金額であります。

(2) 連結財務諸表提出会社の連結子会社と関連当事者との取引

該当事項なし。

2. 親会社又は重要な関連会社に関する注記

(1) 親会社情報

株式会社三井住友フィナンシャルグループ(東京・大阪・名古屋証券取引所に上場)

株式会社三井住友銀行(非上場)

(2) 重要な関連会社の要約財務情報

該当事項なし。

## 1 株当たり情報

	当連結会計年度 (自平成20年4月1日至平成21年3月31日)
1株当たり純資産額	214.64円
1株当たり当期純損失金額	22.68円
潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額	—

(注) 1. 1株当たり純資産額及び1株当たり当期純損失金額は、次のとおりであります。

(1) 1株当たり純資産額

	当連結会計年度末 (平成21年3月31日)
純資産の部の合計額	88,721百万円
純資産の部の合計額から控除する金額	613百万円
(うち少数株主持分)	613百万円
普通株式に係る期末の純資産額	88,108百万円
1株当たりの純資産額の算定に用いられた期末の普通株式の数	410,491千株

(2) 1株当たり当期純損失金額

	当連結会計年度 (自平成20年4月1日至平成21年3月31日)
当期純損失	9,312百万円
普通株主に帰属しない金額	—
普通株式に係る当期純損失	9,312百万円
普通株式の期中平均株式数	410,510千株

2. なお、潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額については、潜在株式がないので記載していません。

## 重要な後発事象

該当事項なし。

# 連結自己資本比率の状況

自己資本比率は、銀行法第14条の2の規定に基づき、銀行がその保有する資産等に照らし自己資本の充実の状況が適当であるかどうかを判断するための基準（平成18年金融庁告示第19号。以下、「告示」という）に定められた算式に基づき、連結ベースと単体ベース（P80参照）の双方について算出しております。

なお、当行は、国内基準を適用のうえ、信用リスク・アセットの算出においては標準的手法を採用しております。

また、オペレーショナル・リスク相当額に係る額の算出において、銀行は先進的計測手法を、連結子会社は基礎的手法を採用しております。

## 連結自己資本比率（国内基準）

（単位：百万円）

項 目		平成19年度末	平成20年度末
基本的項目 (Tier1)	資 本 金	27,484	<b>27,484</b>
	うち非累積的永久優先株	—	—
	新 株 式 申 込 証 拠 金	—	—
	資 本 剰 余 金	49,483	<b>49,483</b>
	利 益 剰 余 金	22,659	<b>11,704</b>
	自 己 株 式(△)	114	<b>121</b>
	自己株式申込証拠金	—	—
	社外流出予定額(△)	1,642	—
	その他有価証券の評価差損(△)	412	—
	為 替 換 算 調 整 勘 定	—	—
	新 株 予 約 権	—	—
	連結子法人等の少数株主持分	774	<b>612</b>
	うち海外特別目的会社の発行する優先出資証券	—	—
	営 業 権 相 当 額 (△)	—	—
	の れ ん 相 当 額 (△)	—	—
	企業結合等により計上される無形固定資産相当額(△)	—	—
	証券化取引に伴い増加した自己資本相当額(△)	—	—
繰延税金資産の控除前の（基本的項目）計 （上記各項目の合計額）	—	—	
繰延税金資産の控除金額(△)	—	—	
計 (A)	98,231	<b>89,163</b>	
うちステップ・アップ金利条項付の優先出資証券（注1）	—	—	
補完的項目 (Tier2)	土地の再評価額と再評価の直前の帳簿価額の差額の45%相当額	—	—
	一 般 貸 倒 引 当 金	11,466	<b>16,458</b>
	負債性資本調達手段等	60,000	<b>60,000</b>
	うち永久劣後債務（注2）	20,000	<b>20,000</b>
	うち期限付劣後債務及び期限付優先株（注3）	40,000	<b>40,000</b>
	計	71,466	<b>76,458</b>
うち自己資本への算入額（B）	70,861	<b>70,648</b>	
控 除 項 目	控 除 項 目 (注4) (C)	—	—
自 己 資 本 額	(A) + (B) - (C) (D)	169,093	<b>159,812</b>
リ ス ク ・ ア セ ッ ト 等	資産（オン・バランス）項目	1,630,715	<b>1,586,158</b>
	オフ・バランス取引等項目	34,302	<b>36,312</b>
	信用リスク・アセットの額 (E)	1,665,017	<b>1,622,470</b>
	オペレーショナル・リスク相当額に係る額 $\left(\frac{(G)}{8\%}\right)$ (F)	72,891	<b>81,360</b>
	(参考) オペレーショナル・リスク相当額 (G)	5,831	<b>6,508</b>
	計 (E) + (F) (H)	1,737,908	<b>1,703,830</b>
連結自己資本比率（国内基準） = $\frac{(D)}{(H)} \times 100$		9.72%	<b>9.37%</b>
Tier1比率 = $\frac{(A)}{(H)} \times 100$		5.65%	<b>5.23%</b>

- (注) 1.告示第28条第2項に掲げるもの、すなわち、ステップ・アップ金利等の特約を付すなど償還を行う蓋然性を有する株式等（海外特別目的会社の発行する優先出資証券を含む）であります。  
 2.告示第29条第1項第3号に掲げる負債性資本調達手段で次に掲げる性質のすべてを有するものであります。  
 (1) 無担保で、かつ、他の債務に劣後する払込済のものであること  
 (2) 一定の場合を除き、償還されないものであること  
 (3) 業務を継続しながら損失の補てんに充当されるものであること  
 (4) 利払い義務の延期が認められるものであること  
 3.告示第29条第1項第4号及び第5号に掲げるものであります。ただし、期限付劣後債務は契約時における償還期間が5年を超えるものに限定されております。  
 4.告示第31条第1項第1号から第6号に掲げるものであり、他の金融機関の資本調達手段の意図的な保有相当額、及び第2号に規定するものに対する投資に相当する額が含まれております。  
 5.平成20年度末における自己資本額につきましては、平成20年金融庁告示第79号の特例に基づいて算出しております。

# 主要な経営指標等の推移（単体）

## 当行の当事業年度の前4事業年度及び当事業年度に係る主要な経営指標等の推移

回次	第6期	第7期	第8期	第9期	第10期
決算年月	平成17年3月	平成18年3月	平成19年3月	平成20年3月	平成21年3月
経常収益	66,116 百万円	71,215	67,698	73,587	<b>69,349</b>
経常利益 (△は経常損失)	8,118 百万円	9,614	10,368	7,342	<b>△9,182</b>
当期純利益 (△は当期純損失)	3,310 百万円	4,744	5,577	4,229	<b>△8,850</b>
資本金	24,908 百万円	24,908	27,484	27,484	<b>27,484</b>
発行済株式総数	382,940 千株	382,940	410,940	410,940	<b>410,940</b>
純資産額	87,778 百万円	88,609	99,071	97,625	<b>87,200</b>
総資産額	2,720,902 百万円	2,730,721	2,734,648	2,794,620	<b>2,859,400</b>
預金残高	2,517,685 百万円	2,501,430	2,497,261	2,555,795	<b>2,621,453</b>
貸出金残高	2,061,405 百万円	2,116,633	2,179,688	2,236,307	<b>2,249,888</b>
有価証券残高	503,076 百万円	404,159	399,731	383,950	<b>471,184</b>
1株当たり純資産額	229.41 円	231.61	241.31	237.80	<b>212.42</b>
1株当たり配当額 (内1株当たり中間配当額)	3.00 円 ( — )	4.00 円 ( — )	4.00 円 ( — )	4.00 円 ( — )	— ( — )
1株当たり当期純利益金額 (△は1株当たり当期純損失金額)	8.65 円	12.40	14.25	10.30	<b>△21.55</b>
潜在株式調整後 1株当たり当期純利益金額	— 円	—	—	—	—
自己資本比率	— %	—	3.62	3.49	<b>3.04</b>
単体自己資本比率 (国内基準)	9.39 %	9.22	9.49	9.71	<b>9.40</b>
自己資本利益率	3.91 %	5.37	5.96	4.30	<b>△9.57</b>
株価収益率	26.35 倍	34.19	18.24	20.00	—
配当性向	34.67 %	32.25	29.44	38.82	—
従業員数 〔外、平均臨時従業員数〕	1,824 人 〔 668〕	1,764 〔 688〕	1,795 〔 675〕	1,879 〔 690〕	<b>2,020</b> <b>〔 703〕</b>

(注) 1.消費税及び地方消費税の会計処理は、税抜方式によっております。

2.純資産額及び総資産額の算定にあたり、平成19年3月から「貸借対照表の純資産の部の表示に関する会計基準」（企業会計基準第5号）及び「貸借対照表の純資産の部の表示に関する会計基準等の適用指針」（企業会計基準適用指針第8号）を適用しております。

3.1株当たり純資産額は、「1株当たり当期純利益に関する会計基準の適用指針」（企業会計基準適用指針第4号）が改正されたことに伴い、平成19年3月から繰延ヘッジ損益を含めて算出してしております。

4.「1株当たり純資産額」、「1株当たり当期純利益金額（又は当期純損失金額）」及び「潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額」（以下、「1株当たり情報」という。）の算定に当たっては、「1株当たり当期純利益に関する会計基準」（企業会計基準第2号）及び「1株当たり当期純利益に関する会計基準の適用指針」（企業会計基準適用指針第4号）を適用しております。

また、これら1株当たり情報の算定上の基礎は、「財務諸表（単体）」注記事項の「1株当たり情報」に記載しております。

5.自己資本比率は、（期末純資産の部合計－期末新株予約権）を期末資産の部の合計で除して算出してしております。

6.単体自己資本比率は、平成19年3月から、銀行法第14条の2の規定に基づく平成18年金融庁告示第19号に定められた算式に基づき算出してしております。当行は、国内基準を採用しております。

なお、平成18年3月以前は、銀行法第14条の2の規定に基づく平成5年大蔵省告示第55号に定められた算式に基づき算出してしております。

7.第10期（平成21年3月）の株価収益率については、当期純損失となったため記載しておりません。

# 財務諸表（単体）

## 会計監査人の監査の状況

1. 当行の会社法第435条第2項に定める計算書類は、会社法第396条第1項によるあずさ監査法人の監査を受けております。
2. 当行の財務諸表、すなわち、貸借対照表、損益計算書、株主資本等変動計算書につきましては、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、あずさ監査法人の監査証明を受けております。

## 貸借対照表

### 資産の部

（単位：百万円）

科 目	期 別	第 9 期 末 (平成20年3月31日)	第 10 期 末 (平成21年3月31日)
現 金 預 け 金		49,005	<b>43,503</b>
現 金		32,760	<b>29,860</b>
預 け 金		16,244	<b>13,642</b> ※8
コ ー ル コ ー ン		9,947	<b>28,323</b>
債 券 貸 借 取 引 支 払 保 証 金		39,875	—
商 品 有 価 証 券		459	<b>512</b>
商 品 国 債		254	<b>242</b>
商 品 地 方 債		204	<b>270</b>
有 価 証 券		383,950	<b>471,184</b> ※8・14
国 債		130,286	<b>214,272</b>
地 方 債		103,471	<b>105,426</b>
短 期 社 債		—	<b>5,997</b>
社 債		117,095	<b>104,598</b>
株 式		21,833	<b>17,848</b> ※1
そ の 他 の 証 券		11,262	<b>23,041</b> ※1
貸 出 金		2,236,307	<b>2,249,888</b> ※2・3・4・5・7・9
割 引 手 形		52,733	<b>36,315</b> ※6
手 形 貸 付		160,328	<b>134,649</b>
証 書 貸 付		1,801,350	<b>1,863,934</b>
当 座 貸 越		221,894	<b>214,988</b>
外 国 為 替		4,970	<b>5,564</b>
外 国 他 店 預 け		649	<b>1,243</b>
買 入 外 国 為 替		836	<b>698</b> ※6
取 立 外 国 為 替		3,484	<b>3,622</b>
そ の 他 資 産		21,607	<b>21,491</b>
未 決 済 為 替 貸		237	<b>93</b>
前 払 費 用		2,603	<b>2,427</b>
未 収 収 益		2,763	<b>2,761</b>
金 融 派 生 商 品		7,998	<b>8,099</b>
そ の 他 の 資 産		8,004	<b>8,110</b> ※8
有 形 固 定 資 産		35,850	<b>34,936</b> ※10・11
建 物		15,060	<b>14,920</b>
土 地		18,164	<b>17,460</b>
リ ー ス 資 産		—	<b>276</b>
建 設 仮 勘 定		4	<b>3</b>
そ の 他 の 有 形 固 定 資 産		2,620	<b>2,275</b>
無 形 固 定 資 産		3,490	<b>3,835</b>
ソ フ ト ウ ェ ア		2,582	<b>2,805</b>
そ の 他 の 無 形 固 定 資 産		908	<b>1,029</b>
繰 延 税 金 資 産		17,013	<b>18,253</b>
支 払 承 諾 見 返		20,119	<b>17,570</b>
貸 倒 引 当 金		△27,977	<b>△35,664</b>
資 産 の 部 合 計		2,794,620	<b>2,859,400</b>

負債及び純資産の部

(単位：百万円)

科 目	期 別	第 9 期 末 (平成20年3月31日)	第 10 期 末 (平成21年3月31日)
(負債の部)			
預 金		2,555,795	<b>2,621,453</b> ※8
当 座 預 金		119,643	<b>124,043</b>
普 通 預 金		1,289,014	<b>1,282,243</b>
貯 蓄 預 金		30,260	<b>27,097</b>
通 知 預 金		11,716	<b>11,404</b>
定 期 預 金		1,062,559	<b>1,133,216</b>
定 期 積 金		3,578	<b>1,187</b>
そ の 他 の 預 金		39,023	<b>42,260</b>
譲 渡 性 預 金		32,168	<b>2,706</b>
コ ー ル マ ネ ー		—	<b>1,000</b> ※8
債 券 貸 借 取 引 受 入 担 保 金		—	<b>16,096</b> ※8
借 用 金		57,955	<b>57,594</b>
借 入 金		57,955	<b>57,594</b> ※12
外 国 為 替		117	<b>105</b>
外 国 他 店 借		5	<b>85</b>
売 渡 外 国 為 替		93	<b>13</b>
未 払 外 国 為 替		18	<b>6</b>
社 債		5,000	<b>5,000</b> ※13
そ の 他 負 債		20,561	<b>45,452</b>
未 決 済 為 替 借		102	<b>91</b>
未 払 法 人 税 等		1,562	<b>122</b>
未 払 費 用		3,377	<b>3,712</b>
前 受 収 益		2,166	<b>1,769</b>
給 付 補 て ん 備 金		4	<b>2</b>
金 融 派 生 商 品		6,911	<b>6,981</b>
リ ー ス 債 務		—	<b>276</b>
有 価 証 券 未 払 金		—	<b>31,531</b>
そ の 他 の 負 債		6,437	<b>964</b>
賞 与 引 当 金		894	<b>666</b>
退 職 給 付 引 当 金		3,480	<b>3,769</b>
役 員 退 職 慰 労 引 当 金		251	<b>208</b>
睡 眠 預 金 払 戻 損 失 引 当 金		650	<b>576</b>
支 払 承 諾		20,119	<b>17,570</b>
負 債 の 部 合 計		2,696,994	<b>2,772,199</b>
(純資産の部)			
資 本 金		27,484	<b>27,484</b>
資 本 剰 余 金		49,483	<b>49,483</b>
資 本 準 備 金		27,430	<b>27,430</b>
そ の 他 資 本 剰 余 金		22,053	<b>22,053</b>
利 益 剰 余 金		21,291	<b>10,799</b>
利 益 準 備 金		53	<b>53</b>
そ の 他 利 益 剰 余 金		21,238	<b>10,745</b>
別 途 積 立 金		2,325	<b>2,325</b>
繰 越 利 益 剰 余 金		18,913	<b>8,420</b>
自 己 株 式		△114	<b>△121</b>
株 主 資 本 合 計		98,144	<b>87,645</b>
そ の 他 有 価 証 券 評 価 差 額 金		△467	<b>△514</b>
繰 延 ヘ ッ ジ 損 益		△50	<b>69</b>
評 価 ・ 換 算 差 額 等 合 計		△518	<b>△445</b>
純 資 産 の 部 合 計		97,625	<b>87,200</b>
負 債 及 び 純 資 産 の 部 合 計		2,794,620	<b>2,859,400</b>



# 財務諸表（単体）

## 損益計算書

（単位：百万円）

科 目	期 別		
		第9期 （自 平成19年4月1日 至 平成20年3月31日）	第10期 （自 平成20年4月1日 至 平成21年3月31日）
経 常 収 益		73,587	69,349
資 金 運 用 収 益		54,203	54,236
貸 出 金 利 息		49,741	49,039
有価証券利息配当金		3,528	4,564
コ ー ル ロ ー ン 利 息		191	259
買 現 先 利 息		280	85
債券貸借取引受入利息		49	8
買 入 手 形 利 息		0	0
預 け 金 利 息		1	1
その他の受入利息		409	275
役 務 取 引 等 収 益		13,163	10,263
受 入 為 替 手 数 料		3,417	3,272
その他の役務収益		9,745	6,990
そ の 他 業 務 収 益		2,388	3,064
外 国 為 替 売 買 益		1,003	808
商品有価証券売買益		23	12
国債等債券売却益		1,362	2,153
金融派生商品収益		—	89
その他の業務収益		0	0
そ の 他 経 常 収 益		3,831	1,784
株 式 等 売 却 益		1,747	9
その他の経常収益		2,084	1,775 ※1
経 常 費 用		66,244	78,531
資 金 調 達 費 用		8,288	8,662
預 金 利 息		6,259	6,512
譲 渡 性 預 金 利 息		232	122
コ ー ル マ ネ ー 利 息		—	0
債券貸借取引支払利息		1	67
借 用 金 利 息		1,489	1,682
社 債 利 息		125	125
金利スワップ支払利息		177	136
その他の支払利息		1	15
役 務 取 引 等 費 用		3,533	3,753
支 払 為 替 手 数 料		682	675
その他の役務費用		2,851	3,078
そ の 他 業 務 費 用		2,240	508
国債等債券売却損		909	508
国債等債券償還損		236	—
金融派生商品費用		1,095	—
営 業 経 費		33,406	33,666
そ の 他 経 常 費 用		18,775	31,939
貸 倒 引 当 金 繰 入 額		16,885	29,686
貸 出 金 償 却		1	6
株 式 等 売 却 損		746	5
株 式 等 償 却		502	1,385
その他の経常費用		640	855 ※2
経常利益又は経常損失(△)		7,342	△9,182
特 別 利 益		500	20
償 却 債 権 取 立 益		22	20
その他の特別利益		478	—
特 別 損 失		873	918
固 定 資 産 処 分 損		192	691
減 損 損 失		—	226 ※3
その他の特別損失		681	—
税引前当期純利益又は税引前当期純損失(△)		6,969	△10,080
法人税、住民税及び事業税		1,440	61
法 人 税 等 調 整 額		1,299	△1,290
法 人 税 等 合 計			△1,229
当期純利益又は当期純損失(△)		4,229	△8,850

## 株主資本等変動計算書

(単位：百万円)

科 目	期 別	第9期	第10期
		(自 平成19年4月1日 至 平成20年3月31日)	(自 平成20年4月1日 至 平成21年3月31日)
株 主 資 本			
資 本 金			
前 期 末 残 高		27,484	27,484
当 期 変 動 額			
当 期 変 動 額 合 計		—	—
当 期 末 残 高		27,484	27,484
資 本 剰 余 金			
資 本 準 備 金			
前 期 末 残 高		27,430	27,430
当 期 変 動 額			
当 期 変 動 額 合 計		—	—
当 期 末 残 高		27,430	27,430
そ の 他 資 本 剰 余 金			
前 期 末 残 高		22,053	22,053
当 期 変 動 額			
当 期 変 動 額 合 計		—	—
当 期 末 残 高		22,053	22,053
資 本 剰 余 金 合 計			
前 期 末 残 高		49,483	49,483
当 期 変 動 額			
当 期 変 動 額 合 計		—	—
当 期 末 残 高		49,483	49,483
利 益 剰 余 金			
利 益 準 備 金			
前 期 末 残 高		—	53
当 期 変 動 額			
剰 余 金 の 配 当		53	—
当 期 変 動 額 合 計		53	—
当 期 末 残 高		53	53
そ の 他 利 益 剰 余 金			
別 途 積 立 金			
前 期 末 残 高		2,325	2,325
当 期 変 動 額			
当 期 変 動 額 合 計		—	—
当 期 末 残 高		2,325	2,325
繰 越 利 益 剰 余 金			
前 期 末 残 高		16,379	18,913
当 期 変 動 額			
剰 余 金 の 配 当		△1,695	△1,642
当期純利益又は当期純損失(△)		4,229	△8,850
当 期 変 動 額 合 計		2,534	△10,492
当 期 末 残 高		18,913	8,420
利 益 剰 余 金 合 計			
前 期 末 残 高		18,704	21,291
当 期 変 動 額			
剰 余 金 の 配 当		△1,642	△1,642
当期純利益又は当期純損失(△)		4,229	△8,850
当 期 変 動 額 合 計		2,587	△10,492
当 期 末 残 高		21,291	10,799

# 財務諸表（単体）

## 株主資本等変動計算書

（単位：百万円）

科 目	期 別	第9期	第10期
		（自 平成19年4月1日 至 平成20年3月31日）	（自 平成20年4月1日 至 平成21年3月31日）
自 己 株 式			
前 期 末 残 高		△108	△114
当 期 変 動 額			
自己株式の取得		△6	△6
当 期 変 動 額 合 計		△6	△6
当 期 末 残 高		△114	△121
株 主 資 本 合 計			
前 期 末 残 高		95,563	98,144
当 期 変 動 額			
剰余金の配当		△1,642	△1,642
当期純利益又は当期純損失(△)		4,229	△8,850
自己株式の取得		△6	△6
当 期 変 動 額 合 計		2,581	△10,498
当 期 末 残 高		98,144	87,645
評 価 ・ 換 算 差 額 等			
その他有価証券評価差額金			
前 期 末 残 高		3,828	△467
当 期 変 動 額			
株主資本以外の項目の当期変動額(純額)		△4,296	△47
当 期 変 動 額 合 計		△4,296	△47
当 期 末 残 高		△467	△514
繰 延 ヘ ッ ジ 損 益			
前 期 末 残 高		△320	△50
当 期 変 動 額			
株主資本以外の項目の当期変動額(純額)		269	120
当 期 変 動 額 合 計		269	120
当 期 末 残 高		△50	69
評 価 ・ 換 算 差 額 等 合 計			
前 期 末 残 高		3,508	△518
当 期 変 動 額			
株主資本以外の項目の当期変動額(純額)		△4,027	73
当 期 変 動 額 合 計		△4,027	73
当 期 末 残 高		△518	△445
純 資 産 合 計			
前 期 末 残 高		99,071	97,625
当 期 変 動 額			
剰余金の配当		△1,642	△1,642
当期純利益又は当期純損失(△)		4,229	△8,850
自己株式の取得		△6	△6
株主資本以外の項目の当期変動額(純額)		△4,027	73
当 期 変 動 額 合 計		△1,445	△10,425
当 期 末 残 高		97,625	87,200

# 重要な会計方針

第10期(自 平成20年4月1日 至 平成21年3月31日)

## 1. 商品有価証券の評価基準及び評価方法

商品有価証券の評価は、時価法(売却原価は移動平均法により算定)により行っております。

## 2. 有価証券の評価基準及び評価方法

有価証券の評価は、子会社株式については移動平均法による原価法、その他有価証券のうち時価のあるものについては、決算日の市場価格等(時価のある株式については決算期末月1ヵ月平均)に基づく時価法(売却原価は移動平均法により算定)、時価のないものについては、移動平均法による原価法又は償却原価法により行っております。

なお、その他有価証券の評価差額については、全部純資産直入法により処理しております。

## 3. デリバティブ取引の評価基準及び評価方法

デリバティブ取引の評価は、時価法により行っております。

## 4. 固定資産の減価償却の方法

### (1) 有形固定資産(リース資産を除く)

有形固定資産は、建物については定額法を、その他については定率法を採用しております。

なお、主な耐用年数は次のとおりであります。

建物：8年～50年

その他：2年～20年

### (2) 無形固定資産

無形固定資産は、定額法により償却しております。なお、自社利用のソフトウェアについては、行内における利用可能期間(5年)に基づいて償却しております。

### (3) リース資産

所有権移転外ファイナンス・リース取引に係る「有形固定資産」中のリース資産は、リース期間を耐用年数とした定額法により行っております。なお、残存価額については、リース契約上に残価保証の取決めがあるものは当該残価保証額とし、それ以外のものは零としております。

## 5. 外貨建て資産及び負債の本邦通貨への換算基準

外貨建て資産・負債は、決算日の為替相場による円換算額を付しております。

## 6. 引当金の計上基準

### (1) 貸倒引当金

貸倒引当金は、予め定めている償却・引当基準に則り、次のとおり計上しております。

破産、特別清算等法的に経営破綻の事実が発生している債務者(以下「破綻先」という。)に係る債権及びそれと同等の状況にある債務者(以下「実質破綻先」という。)に係る債権については、以下のなお書きに記載されている直接減額後の帳簿価額から、担保の処分可能見込額及び保証による回収可能見込額を控除し、その残額を計上しております。また、現在は経営破綻の状況にないが、今後経営破綻に陥る可能性が大きいと認められる債務者に係る債権については、債権額から、担保の処分可能見込額及び保証による回収可能見込額を控除し、その残額のうち、債務者の支払能力を総合的に判断し必要と認める額を計上しております。上記以外の債権については、過去の一定期間における貸倒実績から算出した貸倒実績率等に基づき計上しております。

すべての債権は、資産の自己査定基準に基づき、営業関連部署が資産査定を実施し、当該部署から独立した資産監査部署が査定結果を監査しており、その査定結果に基づいて上記の引当を行っております。

なお、破綻先及び実質破綻先に対する担保・保証付債権等については、債権額から担保の評価額及び保証による回収が可能と認められる額を控除した残額を取立不能見込額として債権額から直接減額しており、その金額は33,738百万円であります。

### (2) 賞与引当金

賞与引当金は、従業員への賞与の支払いに備えるため、従業員に対する賞与の支給見込額のうち、当事業年度に帰属する額を計上しております。

### (3) 退職給付引当金

退職給付引当金は、従業員の退職給付に備えるため、当事業年度末における退職給付債務及び年金資産の見込額に基づき、必要額を計上しております。

また、過去勤務債務及び数理計算上の差異の費用処理方法は以下のとおりであります。

過去勤務債務：その発生年度の従業員の平均残存勤務期間内の一定の年数(9年)による定額法により損益処理

数理計算上の差異：各発生年度の従業員の平均残存勤務期間内の一定の年数(9年)による定額法により按分した額を、それぞれ発生年度の翌事業年度から損益処理

### (4) 役員退職慰労引当金

役員退職慰労引当金は、役員(執行役員を含む)への退職慰労金の支払に備えるため、役員に対する退職慰労金の支給見込額のうち、当事業年度末までに発生していると認められる額を計上しております。

### (5) 睡眠預金払戻損失引当金

睡眠預金払戻損失引当金は、負債計上を中止し利益計上した預金について、預金者からの請求による払戻に備えるため、当事業年度末において過去の払戻実績に基づき算出した将来の払戻見込額を計上しております。

## 7. ヘッジ会計の方法

### ・金利リスク・ヘッジ

金融資産・負債から生じる金利リスクに対するヘッジ会計の方法は、「銀行業における金融商品会計基準適用に関する会計上及び監査上の取扱い」(日本公認会計士協会業種別監査委員会報告第24号)に規定する繰延ヘッジによっております。ヘッジ有効性評価の方法については、相場変動を相殺するヘッジについて、ヘッジ対象となる預金・貸出金等とヘッジ手段である金利スワップ取引等を一定の期間毎にグルーピングのうえ特定し評価しております。

## 8. 消費税等の会計処理

消費税及び地方消費税(以下、消費税等という。)の会計処理は、税抜方式によっております。ただし、有形固定資産に係る控除対象外消費税等は当事業年度の費用に計上しております。

## 会計方針の変更

(リース取引に関する会計基準)

所有権移転外ファイナンス・リース取引については、従来、賃貸借取引に係る方法に準じた会計処理によっておりましたが、「リース取引に関する会計基準」(企業会計基準第13号平成19年3月30日)及び「リース取引に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第16号同前)が平成20年4月1日以後開始する事業年度から適用されることになったことに伴い、当事業年度から同会計基準及び適用指針を適用しております。なお、リース取引開始日が平成20年4月1日以前に開始する事業年度に属する所有権移転外ファイナンス・リース取引については、平成19年度末における未経過リース料期末残高相当額(利息相当額控除後)を取得価額とし、期首に取得したものとしてリース資産に計上しております。

これにより、従来の方法に比べ、「有形固定資産」中のリース資産は276百万円、「その他負債」中のリース債務は276百万円増加しております。また、経常損失、税引前当期純損失に与える影響はありません。

## 表示方法の変更

「有価証券未払金」は従来、「その他の負債」に含めて表示しておりましたが、資産総額の100分の1を超えたため、区分掲記しております。

なお、前事業年度における「有価証券未払金」の金額は、5,557百万円でありました。

## 追加情報

(その他有価証券に係る時価の算定方法の一部変更)

有価証券のうち、その他有価証券として保有する変動利付国債については、従来、決算日の市場価格をもって貸借対照表価額としておりましたが、「金融資産の時価の算定に関する実務上の取扱い」(実務対応報告第25号 平成20年10月28日)を踏まえ、実際の売買事例が極めて少ない等の理由から市場価格が公正な評価額を示していないと考えられるため、当事業年度末においては、合理的に算定された価額をもって貸借対照表価額としております。これにより、市場価格をもって貸借対照表価額とした場合に比べ「有価証券」が3,503百万円増加、「繰延税金資産」が1,423百万円減少、「その他有価証券評価差額金」が2,079百万円増加しております。

なお、変動利付国債の合理的に算定された価額は、国債の利回り等から見積もった将来キャッシュ・フローを同利回りに基づく割引率を用いて割り引くことにより算定しており、国債の利回り及び同利回りのボラティリティが主な価格決定変数であります。

# 財務諸表（単体）

## 注記事項

### 貸借対照表関係

第10期（平成21年3月31日）

- ※1. 関係会社の株式及び出資総額 4,327百万円
- ※2. 貸出金のうち、破綻先債権額は16,609百万円、延滞債権額は64,680百万円であります。

なお、破綻先債権とは、元本又は利息の支払の遅延が相当期間継続していることその他の事由により元本又は利息の取立て又は弁済の見込みがないものとして未収利息を計上しなかった貸出金（貸倒償却を行った部分を除く。以下「未収利息不計上貸出金」という。）のうち、法人税法施行令（昭和40年政令第97号）第96条第1項第3号のイからホまでに掲げる事由又は同項第4号に規定する事由が生じている貸出金であります。

また、延滞債権とは、未収利息不計上貸出金であって、破綻先債権及び債務者の経営再建又は支援を図ることを目的として利息の支払を猶予した貸出金以外の貸出金であります。

- ※3. 貸出金のうち、3か月以上延滞債権額は498百万円であります。
- なお、3か月以上延滞債権とは、元本又は利息の支払が約定支払日の翌日から3か月以上遅延している貸出金で破綻先債権及び延滞債権に該当しないものであります。

- ※4. 貸出金のうち、貸出条件緩和債権額は4,087百万円であります。
- なお、貸出条件緩和債権とは、債務者の経営再建又は支援を図ることを目的として、金利の減免、利息の支払猶予、元本の返済猶予、債権放棄その他の債務者に有利となる取決めを行った貸出金で破綻先債権、延滞債権及び3か月以上延滞債権に該当しないものであります。

- ※5. 破綻先債権額、延滞債権額、3か月以上延滞債権額及び貸出条件緩和債権額の合計額は85,875百万円であります。

なお、上記2から5に掲げた債権額は、貸倒引当金控除前の金額であります。

- ※6. 手形割引は、「銀行業における金融商品会計基準適用に関する会計上及び監査上の取扱い」（日本公認会計士協会業種別監査委員会報告第24号）に基づき金融取引として処理しております。これにより受け入れた商業手形及び買入外国為替は、売却又は（再）担保という方法で自由に処分できる権利を有しておりますが、その額面金額は37,014百万円であります。

- ※7. ローン・パーティシパシオンで、平成7年6月1日付日本公認会計士協会会計制度委員会報告第3号に基づいて、原債務者に対する貸出金として会計処理し、貸借対照表に計上した額は、26,608百万円であります。

- ※8. 担保に供している資産は次のとおりであります。

担保に供している資産	
有価証券	64,939百万円
預け金	0百万円
その他の資産	91百万円
担保資産に対応する債務	
預金	5,468百万円
コールマネー	1,000百万円
債券貸借取引受入担保金	16,096百万円

上記のほか、為替決済及びデリバティブ取引の担保として、有価証券53,447百万円及びその他の資産（手形交換所保証金等）57百万円を差し入れております。

- ※9. 当座貸越契約及び貸付金に係るコミットメントライン契約は、顧客からの融資実行の申し出を受けた場合に、契約上規定された条件について違反がない限り、一定の限度額まで資金を貸付けることを約する契約であります。これらの契約に係る融資未実行残高は、473,170百万円あります。このうち原契約期間が1年以内のもの（又は任意の時期に無条件で取消可能なもの）が464,930百万円あります。

なお、これらの契約の多くは、融資実行されずに終了するものであるため、融資未実行残高そのものが必ずしも当行の将来のキャッシュ・フローに影響を与えるものではありません。これらの契約の多くには、金融情勢の変化、債権の保全及びその他相当の事由があるときは、当行が実行申し込みを受けた融資の拒絶又は契約極度額の減額をすることができる旨の条項が付けられております。また、契約時において必要に応じて不動産・有価証券等の担保を徴求するほか、契約後も定期的に予め定めている行内手続に基づき顧客の業況等を把握し、必要に応じて契約の見直し、与信保全上の措置等を講じております。

- ※10. 有形固定資産の減価償却累計額 18,636百万円

- ※11. 有形固定資産の圧縮記帳額 81百万円

- ※12. 借入金には、他の債務よりも債務の履行が後順位である旨の特約が付された劣後特約付借入金55,000百万円が含まれております。

- ※13. 社債は、他の債務よりも債務の履行が後順位である旨の特約が付された劣後特約付社債であります。

- ※14. 有価証券中の社債のうち、有価証券の私募（金融商品取引法第2条第3項）による社債に対する当行の保証債務の額は22,990百万円あります。

- 15. 銀行法第18条の定めにより剰余金の配当に制限を受けております。

剰余金の配当をする場合には、会社法第445条第4項（資本金の額及び準備金の額）の規定にかかわらず、当該剰余金の配当により減少する剰余金の額に5分の1を乗じて得た額を資本準備金又は利益準備金として計上しております。

### 損益計算書関係

第10期（自 平成20年4月1日 至 平成21年3月31日）

- ※1. その他の経常収益には、部分直接償却取立益748百万円を含んでおります。

- ※2. その他の経常費用には、債権売却損93百万円を含んでおります。

- ※3. 当行は、固定資産の減損処理にあたり、営業用店舗については営業ブロック（連携して営業を行っている営業店グループ）をグルーピングの単位として取扱っており、本部、電算センター、事務集中センター、社宅・寮等は、独立したキャッシュ・フローを生み出さないことから、共用資産としております。また、遊休資産は独立した単位として取扱っております。

上記の固定資産のうち、以下の資産については、店舗廃止及び移転による遊休化により投資額の回収が見込まれないことから、帳簿価額を回収可能価額まで減額し、当該減少額226百万円を減損損失として特別損失に計上しております。

場所	用途	種類	減損損失額 （百万円）
兵庫県明石市	遊休	土地及び建物等	169
兵庫県神戸市兵庫区	遊休	建物等	57
計			226

なお、回収可能価額は正味売却価額により算定しており、主として不動産鑑定評価額より処分費用見込額を控除して算定することを基準としております。

### 株主資本等変動計算書関係

第10期（自 平成20年4月1日 至 平成21年3月31日）

自己株式の種類及び株式数に関する事項（単位：千株）

	前事業年度末 株式数	当事業年度 増加株式数	当事業年度 減少株式数	当事業年度末 株式数	摘要
自己株式					
普通株式	412	37	—	449	(注)
種類株式	—	—	—	—	
合計	412	37	—	449	

(注) 増加の要因は単元未満株式の買取りによるものであります。

### 税効果会計関係

第10期（自 平成20年4月1日 至 平成21年3月31日）

- 1. 繰延税金資産及び繰延税金負債の発生の主な原因別の内訳

繰延税金資産	
貸倒引当金	17,106百万円
退職給付引当金	3,139百万円
賞与引当金	270百万円
未払事業税	39百万円
減価償却額	190百万円
有価証券償却否認額	1,022百万円
その他有価証券評価差額金	352百万円
繰越欠損金	182百万円
その他	1,093百万円
繰延税金資産小計	23,397百万円
評価性引当額	△3,385百万円
繰延税金資産合計	20,011百万円
繰延税金負債	
前払年金費用	△981百万円
退職給付信託設定益	△685百万円
繰延ヘッジ損益	△47百万円
その他	△44百万円
繰延税金負債合計	△1,758百万円
繰延税金資産の純額	18,253百万円

- 2. 法定実効税率と税効果会計適用後の法人税等の負担率との間に重要な差異があるときの、当該差異の原因となった主な項目別の内訳  
当事業年度は税引前当期純損失となったため、記載しておりません。

### 企業結合等関係

第10期（自 平成20年4月1日 至 平成21年3月31日）

該当ありません。

### 1株当たり情報

	第10期 (自 平成20年4月1日 至 平成21年3月31日)
1株当たり純資産額	212.42円
1株当たり当期純損失金額	21.55円
潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額	—

- (注) 1. 1株当たり純資産額及び1株当たり当期純損失金額の算定上の基礎は、次のとおりであります。

- (1) 1株当たり純資産額

第10期 (平成21年3月31日)	
純資産の部の合計額	87,200百万円
純資産の部の合計額から控除する金額	—
普通株式に係る期末の純資産額	87,200百万円
1株当たり純資産額の算定に用いられた期末の普通株式の数	410,491千株

- (2) 1株当たり当期純損失金額

第10期 (自 平成20年4月1日 至 平成21年3月31日)	
当期純損失	8,850百万円
普通株主に帰属しない金額	—
普通株式に係る当期純損失	8,850百万円
普通株式の期中平均株式数	410,510千株

- 2. なお、潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額については、潜在株式がないので記載しておりません。

### 重要な後発事象

該当事項なし。



# 損益の状況（単体）

## 業務粗利益

（単位：百万円）

種 類	平成19年度			平成20年度		
	国内業務部門	国際業務部門	合 計	国内業務部門	国際業務部門	合 計
資金運用収益	53,436	799	54,235	<b>53,513</b>	<b>775</b>	<b>54,288</b>
資金調達費用	7,980	339	8,319	<b>8,438</b>	<b>276</b>	<b>8,714</b>
資金運用収支	45,455	459	45,914	<b>45,075</b>	<b>498</b>	<b>45,573</b>
役員取引等収益	12,848	314	13,162	<b>9,958</b>	<b>305</b>	<b>10,263</b>
役員取引等費用	3,478	54	3,532	<b>3,697</b>	<b>56</b>	<b>3,753</b>
役員取引等収支	9,370	259	9,629	<b>6,260</b>	<b>248</b>	<b>6,509</b>
その他業務収益	1,385	1,003	2,388	<b>2,256</b>	<b>808</b>	<b>3,064</b>
その他業務費用	2,234	6	2,240	<b>508</b>	—	<b>508</b>
その他業務収支	△848	996	147	<b>1,747</b>	<b>808</b>	<b>2,556</b>
業務粗利益	53,977	1,716	55,693	<b>53,083</b>	<b>1,555</b>	<b>54,639</b>
業務粗利益率	2.04%	8.61%	2.09%	<b>1.96%</b>	<b>5.27%</b>	<b>2.01%</b>

（注）1. 国内業務部門は国内店の円建取引、国際業務部門は国内店の外貨建取引であります。ただし、円建対非居住者取引、特別国際金融取引勘定等は国際業務部門に含めております。

2. 資金運用収益及び資金調達費用の合計欄の上段の計数は、国内業務部門と国際業務部門の間の資金貸借の利息であります。

3. 業務粗利益率＝ $\frac{\text{年換算ベース業務粗利益}}{\text{資金運用勘定平均残高}} \times 100$

## 業務純益

（単位：百万円）

種 類	平成19年度	平成20年度
業 務 純 益	19,540	<b>17,596</b>

（注）業務純益とは、新経理基準の適用（平成元年9月から）により、新たに採用された利益指標で、「業務収益」から「業務費用」を引き、「金銭の信託見合費用」を戻し入れた数値です。

## コア業務純益

（単位：百万円）

種 類	平成19年度	平成20年度
コ ア 業 務 純 益	22,832	<b>20,430</b>

（注）コア業務純益とは、業務純益から一般貸倒引当金繰入額と国債等債券関係損益を控除したもので、銀行本来の収益を表すものであります。

## 資金運用・調達勘定平均残高、利息、利回り

### 国内業務部門

（単位：百万円）

種 類	平成19年度			平成20年度		
	平均残高	利 息	利回り	平均残高	利 息	利回り
資金運用勘定	(9,139) 2,642,263	(31) 53,436	2.02%	(12,924) 2,698,621	(52) 53,513	1.98%
うち貸出金	2,162,374	49,647	2.29	2,217,041	48,925	2.20
うち商品有価証券	642	3	0.51	575	5	0.98
うち有価証券	403,740	3,352	0.83	439,651	4,350	0.98
うちコールローン	8,529	45	0.53	8,631	56	0.66
うち買現先勘定	48,670	280	0.57	16,469	85	0.52
うち債券貸借取引受入利息	8,187	49	0.60	1,811	8	0.44
うち買入手形	8	0	0.70	235	0	0.32
うち預け金	970	1	0.18	1,280	1	0.12
資金調達勘定	2,603,853	7,980	0.30	2,659,389	8,438	0.31
うち預金	2,501,482	5,965	0.23	2,557,154	6,312	0.24
うち譲渡性預金	39,241	232	0.59	19,527	122	0.62
うちコールマネー	—	—	—	309	0	0.13
うち売現先勘定	—	—	—	—	—	—
うち債券貸借取引支払利息	354	1	0.43	19,838	67	0.34
うち売渡手形	—	—	—	—	—	—
うちコマース紙	—	—	—	—	—	—
うち借入金	57,775	1,489	2.57	57,559	1,682	2.92
うち社債	5,000	125	2.51	5,000	125	2.51

（注）1. 資金運用勘定は無利息預け金の平均残高（平成19年度12,350百万円、平成20年度11,351百万円）を控除して表示しております。

2. ( ) 内は、国内業務部門と国際業務部門の間の資金貸借の平均残高及び利息（内書き）であります。

# 損益の状況（単体）

## 資金運用・調達勘定平均残高、利息、利回り

国際業務部門

(単位：百万円)

種 類	平成19年度			平成20年度		
	平均残高	利 息	利回り	平均残高	利 息	利回り
資金運用勘定	19,925	799	4.01 <sup>%</sup>	<b>29,511</b>	<b>775</b>	<b>2.62<sup>%</sup></b>
うち貸出金	3,414	93	2.74	<b>5,272</b>	<b>113</b>	<b>2.16</b>
うち商品有価証券	—	—	—	—	—	—
うち有価証券	7,152	173	2.42	<b>10,864</b>	<b>208</b>	<b>1.92</b>
うちコールローン	3,397	146	4.31	<b>7,588</b>	<b>202</b>	<b>2.67</b>
うち買現先勘定	—	—	—	—	—	—
うち債券貸借取引受入利息	—	—	—	—	—	—
うち買入手形	—	—	—	—	—	—
うち預け金	0	0	0.70	<b>0</b>	<b>0</b>	<b>0.70</b>
資金調達勘定	(9,139) 19,918	(31) 339	1.70	<b>(12,924)</b> <b>29,340</b>	<b>(52)</b> <b>276</b>	<b>0.94</b>
うち預金	10,700	294	2.75	<b>16,334</b>	<b>199</b>	<b>1.22</b>
うち譲渡性預金	—	—	—	—	—	—
うちコールマネー	—	—	—	<b>0</b>	<b>0</b>	<b>2.14</b>
うち売現先勘定	—	—	—	—	—	—
うち債券貸借取引支払利息	—	—	—	—	—	—
うち売渡手形	—	—	—	—	—	—
うちコマースシャルペーパー	—	—	—	—	—	—
うち借入金	—	—	—	—	—	—
うち社債	—	—	—	—	—	—

(注) 1. ( ) 内は、国内業務部門と国際業務部門の間の資金貸借の平均残高及び利息（内書き）であります。

2. 国際業務部門の国内店外貨建取引の平均残高は、月次カレント方式（前月末TT仲値を当該月のノンエクスチェンジ取引に適用する方式）により算出しております。

## 合計

(単位：百万円)

種 類	平成19年度			平成20年度		
	平均残高	利 息	利回り	平均残高	利 息	利回り
資金運用勘定	2,653,050	54,203	2.04 <sup>%</sup>	<b>2,715,209</b>	<b>54,236</b>	<b>1.99<sup>%</sup></b>
うち貸出金	2,165,789	49,741	2.29	<b>2,222,313</b>	<b>49,039</b>	<b>2.20</b>
うち商品有価証券	642	3	0.51	<b>575</b>	<b>5</b>	<b>0.98</b>
うち有価証券	410,893	3,525	0.85	<b>450,515</b>	<b>4,559</b>	<b>1.01</b>
うちコールローン	11,927	191	1.60	<b>16,220</b>	<b>259</b>	<b>1.60</b>
うち買現先勘定	48,670	280	0.57	<b>16,469</b>	<b>85</b>	<b>0.52</b>
うち債券貸借取引受入利息	8,187	49	0.60	<b>1,811</b>	<b>8</b>	<b>0.44</b>
うち買入手形	8	0	0.70	<b>235</b>	<b>0</b>	<b>0.32</b>
うち預け金	971	1	0.18	<b>1,281</b>	<b>1</b>	<b>0.12</b>
資金調達勘定	2,614,632	8,288	0.31	<b>2,676,203</b>	<b>8,662</b>	<b>0.32</b>
うち預金	2,512,182	6,259	0.24	<b>2,573,488</b>	<b>6,512</b>	<b>0.25</b>
うち譲渡性預金	39,241	232	0.59	<b>19,527</b>	<b>122</b>	<b>0.62</b>
うちコールマネー	—	—	—	<b>310</b>	<b>0</b>	<b>0.13</b>
うち売現先勘定	—	—	—	—	—	—
うち債券貸借取引支払利息	354	1	0.43	<b>19,838</b>	<b>67</b>	<b>0.34</b>
うち売渡手形	—	—	—	—	—	—
うちコマースシャルペーパー	—	—	—	—	—	—
うち借入金	57,775	1,489	2.57	<b>57,559</b>	<b>1,682</b>	<b>2.92</b>
うち社債	5,000	125	2.51	<b>5,000</b>	<b>125</b>	<b>2.51</b>

(注) 1. 資金運用勘定は無利息預け金の平均残高（平成19年度12,350百万円、平成20年度11,351百万円）を控除して表示しております。

2. 国内業務部門と国際業務部門の間の資金貸借の平均残高及び利息は、相殺して記載しております。

## 受取・支払利息の分析

### 国内業務部門

(単位：百万円)

種 類	平成19年度			平成20年度		
	残高による増減	利率による増減	純増減	残高による増減	利率による増減	純増減
受取利息	1,769	3,387	5,156	1,117	△1,039	77
うち貸出金	1,128	3,777	4,906	1,206	△1,928	△721
うち商品有価証券	0	△0	△0	△0	2	2
うち有価証券	99	△142	△43	355	642	998
うちコールローン	△0	31	30	0	11	11
うち買現先勘定	112	89	201	△185	△9	△195
うち債券貸借取引受入利息	39	4	43	△38	△2	△41
うち買入手形	△0	0	△0	0	△0	0
うち預け金	△0	1	0	0	△0	△0
支払利息	207	3,642	3,849	177	280	458
うち預金	115	3,308	3,423	137	209	347
うち譲渡性預金	134	48	182	△116	6	△109
うちコールマネー	—	—	—	0	—	0
うち売現先勘定	—	—	—	—	—	—
うち債券貸借取引支払利息	△21	0	△20	66	△0	66
うち売渡手形	—	—	—	—	—	—
うちコマースシャルペーパー	—	—	—	—	—	—
うち借入金	67	398	465	△5	198	192
うち社債	57	△0	56	—	—	—

(注) 残高及び利率の増減要因が重なる部分については、残高による増減に含めて記載しております。

### 国際業務部門

(単位：百万円)

種 類	平成19年度			平成20年度		
	残高による増減	利率による増減	純増減	残高による増減	利率による増減	純増減
受取利息	△58	56	△2	251	△276	△24
うち貸出金	26	10	37	40	△20	20
うち商品有価証券	—	—	—	—	—	—
うち有価証券	△99	△3	△102	71	△35	35
うちコールローン	47	△6	40	112	△55	56
うち買現先勘定	—	—	—	—	—	—
うち債券貸借取引受入利息	—	—	—	—	—	—
うち買入手形	—	—	—	—	—	—
うち預け金	0	—	0	△0	△0	△0
支払利息	△31	△56	△87	88	△152	△63
うち預金	△78	△26	△105	68	△163	△94
うち譲渡性預金	—	—	—	—	—	—
うちコールマネー	—	—	—	0	—	0
うち売現先勘定	—	—	—	—	—	—
うち債券貸借取引支払利息	—	—	—	—	—	—
うち売渡手形	—	—	—	—	—	—
うちコマースシャルペーパー	—	—	—	—	—	—
うち借入金	—	—	—	—	—	—
うち社債	—	—	—	—	—	—

(注) 残高及び利率の増減要因が重なる部分については、残高による増減に含めて記載しております。

### 合計

(単位：百万円)

種 類	平成19年度			平成20年度		
	残高による増減	利率による増減	純増減	残高による増減	利率による増減	純増減
受取利息	1,733	3,401	5,135	1,241	△1,209	32
うち貸出金	1,151	3,792	4,943	1,247	△1,949	△701
うち商品有価証券	0	△0	△0	△0	2	2
うち有価証券	68	△214	△145	400	632	1,033
うちコールローン	11	60	71	68	△0	68
うち買現先勘定	112	89	201	△185	△9	△195
うち債券貸借取引受入利息	39	4	43	△38	△2	△41
うち買入手形	△0	0	△0	0	△0	0
うち預け金	△0	1	0	0	△0	△0
支払利息	206	3,536	3,742	199	174	373
うち預金	113	3,204	3,318	155	97	252
うち譲渡性預金	134	48	182	△116	6	△109
うちコールマネー	—	—	—	0	—	0
うち売現先勘定	—	—	—	—	—	—
うち債券貸借取引支払利息	△21	0	△20	66	△0	66
うち売渡手形	—	—	—	—	—	—
うちコマースシャルペーパー	—	—	—	—	—	—
うち借入金	67	398	465	△5	198	192
うち社債	57	△0	56	—	—	—

(注) 残高及び利率の増減要因が重なる部分については、残高による増減に含めて記載しております。

# 損益の状況（単体）

## 役務取引の状況

（単位：百万円）

種 類	平成19年度			平成20年度		
	国内業務部門	国際業務部門	合 計	国内業務部門	国際業務部門	合 計
役務取引等収益	12,848	314	13,163	<b>9,958</b>	<b>305</b>	<b>10,263</b>
うち預金・貸出業務	2,796	13	2,810	<b>2,546</b>	<b>14</b>	<b>2,560</b>
うち為替業務	3,122	295	3,417	<b>2,986</b>	<b>286</b>	<b>3,272</b>
うち証券関連業務	331	—	331	<b>192</b>	—	<b>192</b>
うち代理業務	1,843	—	1,843	<b>1,729</b>	—	<b>1,729</b>
うち保護預り・貸金庫業務	381	—	381	<b>369</b>	—	<b>369</b>
うち保証業務	235	5	241	<b>199</b>	<b>4</b>	<b>204</b>
うち投資信託関係業務	4,137	—	4,137	<b>1,934</b>	—	<b>1,934</b>
役務取引等費用	3,478	54	3,533	<b>3,697</b>	<b>56</b>	<b>3,753</b>
うち為替業務	627	54	682	<b>619</b>	<b>56</b>	<b>675</b>

## その他業務利益

（単位：百万円）

種 類	平成19年度			平成20年度		
	国内業務部門	国際業務部門	合 計	国内業務部門	国際業務部門	合 計
外国為替売買益	—	1,003	1,003	—	<b>808</b>	<b>808</b>
商品有価証券売買益	23	—	23	<b>12</b>	—	<b>12</b>
国債等債券売却損益	459	△6	453	<b>1,645</b>	—	<b>1,645</b>
国債等債券償還損益	△236	—	△236	—	—	—
国債等債券償却	—	—	—	—	—	—
金融派生商品収益	△1,095	—	△1,095	<b>89</b>	—	<b>89</b>
その他	0	—	0	<b>0</b>	—	<b>0</b>
合計	△848	996	147	<b>1,747</b>	<b>808</b>	<b>2,556</b>

## 営業経費

（単位：百万円）

科 目	平成19年度	平成20年度
給料・手当	15,012	<b>15,558</b>
退職給付費用	1,345	<b>1,862</b>
福利厚生費	57	<b>66</b>
減価償却費	2,381	<b>2,850</b>
土地建物機械賃借料	2,780	<b>1,783</b>
宮繕費	52	<b>40</b>
消耗品費	458	<b>499</b>
給水光熱費	344	<b>327</b>
旅費	31	<b>24</b>
通信費	657	<b>673</b>
広告宣伝費	425	<b>393</b>
諸会費・寄付金・交際費	139	<b>161</b>
租税公課	1,815	<b>1,790</b>
その他	7,904	<b>7,633</b>
合計	33,406	<b>33,666</b>

（注）損益計算書中の「営業経費」の内訳であります。

# 預金業務（単体）

## 預金科目別残高

（単位：百万円）

種 類	平成19年度末				平成20年度末			
	国内業務部門	国際業務部門	合 計	構成比 (%)	国内業務部門	国際業務部門	合 計	構成比 (%)
流動性預金	1,450,634	—	1,450,634	56.1	<b>1,444,789</b>	—	<b>1,444,789</b>	<b>55.1</b>
うち有利利息預金	1,208,161	—	1,208,161	46.6	<b>1,200,584</b>	—	<b>1,200,584</b>	<b>45.7</b>
定期性預金	1,066,137	—	1,066,137	41.2	<b>1,134,403</b>	—	<b>1,134,403</b>	<b>43.2</b>
うち固定自由金利	1,062,460	—	1,062,460	41.0	<b>1,133,128</b>	—	<b>1,133,128</b>	<b>43.1</b>
うち変動自由金利	44	—	44	0.0	<b>34</b>	—	<b>34</b>	<b>0.0</b>
その他	25,549	13,473	39,023	1.5	<b>23,346</b>	<b>18,913</b>	<b>42,260</b>	<b>1.6</b>
小計	2,542,321	13,473	2,555,795	98.8	<b>2,602,539</b>	<b>18,913</b>	<b>2,621,453</b>	<b>99.9</b>
譲渡性預金	32,168	—	32,168	1.2	<b>2,706</b>	—	<b>2,706</b>	<b>0.1</b>
合計	2,574,489	13,473	2,587,963	100.0	<b>2,605,246</b>	<b>18,913</b>	<b>2,624,159</b>	<b>100.0</b>

(注) 1. 流動性預金＝当座預金＋普通預金＋貯蓄預金＋通知預金  
 2. 定期性預金＝定期預金＋定期積金  
 固定自由金利定期預金：預入時に満期迄の利率が確定する定期預金  
 変動自由金利定期預金：預入期間中の市場金利の変化に応じて金利が変動する定期預金

## 預金科目別平均残高

（単位：百万円）

種 類	平成19年度				平成20年度			
	国内業務部門	国際業務部門	合 計	構成比 (%)	国内業務部門	国際業務部門	合 計	構成比 (%)
流動性預金	1,451,820	—	1,451,820	56.9	<b>1,437,350</b>	—	<b>1,437,350</b>	<b>55.4</b>
うち有利利息預金	1,197,239	—	1,197,239	46.9	<b>1,199,091</b>	—	<b>1,199,091</b>	<b>46.2</b>
定期性預金	1,033,955	—	1,033,955	40.5	<b>1,106,160</b>	—	<b>1,106,160</b>	<b>42.7</b>
うち固定自由金利	1,029,672	—	1,029,672	40.3	<b>1,103,855</b>	—	<b>1,103,855</b>	<b>42.5</b>
うち変動自由金利	53	—	53	0.0	<b>40</b>	—	<b>40</b>	<b>0.0</b>
その他	15,706	10,700	26,406	1.0	<b>13,643</b>	<b>16,334</b>	<b>29,977</b>	<b>1.2</b>
小計	2,501,482	10,700	2,512,182	98.5	<b>2,557,154</b>	<b>16,334</b>	<b>2,573,488</b>	<b>99.3</b>
譲渡性預金	39,241	—	39,241	1.6	<b>19,527</b>	—	<b>19,527</b>	<b>0.7</b>
合計	2,540,723	10,700	2,551,423	100.0	<b>2,576,681</b>	<b>16,334</b>	<b>2,593,015</b>	<b>100.0</b>

(注) 国際業務部門の国内店外貨建取引の平均残高は、月次カレント方式により算出しております。

## 預金者別預金残高（国内）

（単位：百万円）

種 類	平成19年度末		平成20年度末	
	預金残高	構成比 (%)	預金残高	構成比 (%)
個人	2,031,678	79.9	<b>2,092,935</b>	<b>80.4</b>
一般法人	466,491	18.4	<b>469,654</b>	<b>18.1</b>
金融機関他	44,151	1.7	<b>39,949</b>	<b>1.5</b>
合計	2,542,321	100.0	<b>2,602,539</b>	<b>100.0</b>

(注) 譲渡性預金及び特別国際金融取引勘定分を除いております。

## 1店舗当たり・従業員1人当たり預金残高

（単位：百万円）

種 類	平成19年度		平成20年度	
	期末残高	平均残高	期末残高	平均残高
営業店舗数（店）	109	108	<b>108</b>	<b>108</b>
従業員（人）	1,879	1,881	<b>2,010</b>	<b>2,029</b>
1店舗当たり預金	23,742	23,624	<b>24,297</b>	<b>24,009</b>
従業員1人当たり預金	1,377	1,356	<b>1,305</b>	<b>1,277</b>

(注) 1. 預金額には譲渡性預金を含んでおります。  
 2. 店舗数には出張所を含んでおります。  
 3. 従業員数は出向者を除いております。なお、従業員数には取締役を兼務しない執行役員を含んでおります。



# 貸出業務（単体）

## 貸出金科目別残高

（単位：百万円）

種 類	平成19年度末				平成20年度末			
	国内業務部門	国際業務部門	合 計	構成比 (%)	国内業務部門	国際業務部門	合 計	構成比 (%)
手形貸付	159,527	801	160,328	7.2	<b>134,335</b>	<b>314</b>	<b>134,649</b>	<b>6.0</b>
証書貸付	1,797,835	3,514	1,801,350	80.5	<b>1,858,861</b>	<b>5,072</b>	<b>1,863,934</b>	<b>82.8</b>
当座貸越	221,894	—	221,894	9.9	<b>214,988</b>	—	<b>214,988</b>	<b>9.6</b>
割引手形	52,733	—	52,733	2.4	<b>36,315</b>	—	<b>36,315</b>	<b>1.6</b>
合計	2,231,991	4,316	2,236,307	100.0	<b>2,244,501</b>	<b>5,387</b>	<b>2,249,888</b>	<b>100.0</b>

## 貸出金科目別平均残高

（単位：百万円）

種 類	平成19年度				平成20年度			
	国内業務部門	国際業務部門	合 計	構成比 (%)	国内業務部門	国際業務部門	合 計	構成比 (%)
手形貸付	153,958	174	154,133	7.1	<b>136,797</b>	<b>617</b>	<b>137,415</b>	<b>6.2</b>
証書貸付	1,762,542	3,239	1,765,782	81.5	<b>1,826,126</b>	<b>4,654</b>	<b>1,830,780</b>	<b>82.4</b>
当座貸越	195,116	—	195,116	9.0	<b>209,925</b>	—	<b>209,925</b>	<b>9.4</b>
割引手形	50,756	—	50,756	2.4	<b>44,191</b>	—	<b>44,191</b>	<b>2.0</b>
合計	2,162,374	3,414	2,165,789	100.0	<b>2,217,041</b>	<b>5,272</b>	<b>2,222,313</b>	<b>100.0</b>

（注）国際業務部門の国内店外貸建取引の平均残高は、月次カレント方式により算出しております。

## 中小企業等に対する貸出金

（単位：先、百万円）

種 類	平成19年度末		平成20年度末	
	貸出先数	金額	貸出先数	金額
中小企業等貸出金残高(A)	112,948	1,875,346	<b>107,746</b>	<b>1,836,143</b>
総貸出金残高(B)	113,374	2,235,288	<b>108,171</b>	<b>2,248,994</b>
(A) / (B)	99.62%	83.89%	<b>99.60%</b>	<b>81.64%</b>

（注）1.貸出金残高には、特別国際金融取引勘定分は含まれておりません。

2.中小企業等とは、資本金3億円（ただし、卸売業は1億円、小売業、サービス業は5千万円）以下の会社又は常用する従業員が300人（ただし、卸売業は100人、小売業は50人、サービス業は100人）以下の会社及び個人であります。

## 貸出金使途別残高

（単位：百万円）

区 分	平成19年度末		平成20年度末	
	貸出金残高	構成比 (%)	貸出金残高	構成比 (%)
設備資金	1,087,088	48.61	<b>1,104,271</b>	<b>49.08</b>
運転資金	1,149,219	51.39	<b>1,145,616</b>	<b>50.92</b>
合計	2,236,307	100.00	<b>2,249,888</b>	<b>100.00</b>

## 個人向けローン残高

（単位：百万円）

種 類	平成19年度末	平成20年度末
消費者ローン残高	736,134	<b>752,120</b>
住宅ローン残高	710,342	<b>730,246</b>
その他ローン残高	25,792	<b>21,873</b>

## 1店舗当たり・従業員1人当たり貸出金等残高

（単位：百万円）

種 類	平成19年度		平成20年度	
	期末残高	平均残高	期末残高	平均残高
営業店舗数(店)	109	108	<b>108</b>	<b>108</b>
従業員(人)	1,879	1,881	<b>2,010</b>	<b>2,029</b>
1店舗当たり貸出金	20,516	20,053	<b>20,832</b>	<b>20,576</b>
従業員1人当たり貸出金	1,190	1,151	<b>1,119</b>	<b>1,095</b>

（注）1.店舗数には出張所を含んでおります。

2.従業員数は出向者を除いております。なお、従業員数には取締役を兼務しない執行役員を含んでおります。

## 貸出金業種別残高

(単位：百万円)

業種別	平成19年度末			平成20年度末		
	貸出先数	貸出金残高	構成比 (%)	貸出先数	貸出金残高	構成比 (%)
国内店分 (除く特別国際金融取引勘定分)	113,374	2,235,288	100.00	<b>108,171</b>	<b>2,248,994</b>	<b>100.00</b>
製造業	3,215	248,955	11.14	<b>2,938</b>	<b>262,477</b>	<b>11.67</b>
農業	104	1,623	0.07	<b>85</b>	<b>1,174</b>	<b>0.05</b>
林業	4	27	0.00	<b>4</b>	<b>22</b>	<b>0.00</b>
漁業	83	392	0.02	<b>77</b>	<b>393</b>	<b>0.02</b>
鉱業	3	1,143	0.05	<b>4</b>	<b>1,313</b>	<b>0.06</b>
建設業	3,554	129,128	5.78	<b>3,270</b>	<b>118,010</b>	<b>5.25</b>
電気・ガス・熱供給・水道業	23	2,119	0.10	<b>20</b>	<b>3,951</b>	<b>0.18</b>
情報通信業	237	15,893	0.71	<b>212</b>	<b>16,010</b>	<b>0.71</b>
運輸業	779	84,074	3.76	<b>735</b>	<b>93,136</b>	<b>4.14</b>
卸売・小売業	5,093	266,532	11.92	<b>4,763</b>	<b>266,750</b>	<b>11.86</b>
金融・保険業	105	53,035	2.37	<b>92</b>	<b>49,656</b>	<b>2.21</b>
不動産業	3,068	426,348	19.07	<b>3,244</b>	<b>422,945</b>	<b>18.81</b>
各種サービス業	5,418	290,544	13.00	<b>5,050</b>	<b>290,170</b>	<b>12.90</b>
地方公共団体	55	65,360	2.93	<b>48</b>	<b>82,182</b>	<b>3.65</b>
その他	91,633	650,108	29.08	<b>87,629</b>	<b>640,800</b>	<b>28.49</b>
特別国際金融取引勘定分	4	1,018	100.00	<b>4</b>	<b>893</b>	<b>100.00</b>
政府等	—	—	—	—	—	—
金融機関	—	—	—	—	—	—
その他	4	1,018	100.00	<b>4</b>	<b>893</b>	<b>100.00</b>
合計	113,378	2,236,307		<b>108,175</b>	<b>2,249,888</b>	

## 貸出金の担保別内訳

(単位：百万円)

種 類	平成19年度末	平成20年度末
有価証券	9,171	<b>5,398</b>
債権	40,814	<b>34,885</b>
商品	—	—
不動産	617,851	<b>615,344</b>
その他	3,604	<b>4,019</b>
計	671,441	<b>659,647</b>
保証	813,155	<b>832,935</b>
信用	751,709	<b>757,305</b>
合計	2,236,307	<b>2,249,888</b>
(うち劣後特約付貸出金)	(—)	<b>(1,500)</b>

## 支払承諾見返の担保別内訳

(単位：百万円)

種 類	平成19年度末	平成20年度末
有価証券	100	<b>84</b>
債権	709	<b>703</b>
商品	—	—
不動産	1,302	<b>1,118</b>
その他	—	—
計	2,111	<b>1,907</b>
保証	9,068	<b>7,816</b>
信用	8,939	<b>7,846</b>
合計	20,119	<b>17,570</b>

# 貸出業務（単体）

## 貸倒引当金内訳

（単位：百万円）

種 類	平成19年度					平成20年度				
	期首残高	当期増加高	当期減少額		期末残高	期首残高	当期増加高	当期減少額		期末残高
			目的使用	その他				目的使用	その他	
一般貸倒引当金	7,029	10,538	—	7,029	10,538	<b>10,538</b>	<b>15,016</b>	—	<b>10,538</b>	<b>15,016</b>
個別貸倒引当金	17,068	15,154	12,853	1,929	17,439	<b>17,439</b>	<b>29,974</b>	<b>22,067</b>	<b>4,698</b>	<b>20,647</b>
特定海外債権引当勘定	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
合計	24,098	25,692	12,853	8,959	27,977	<b>27,977</b>	<b>44,990</b>	<b>22,067</b>	<b>15,236</b>	<b>35,664</b>

## 貸出金償却額

（単位：百万円）

種 類	平成19年度	平成20年度
貸出金償却額	1	6

## 金融再生法に基づく資産査定状況

（単位：百万円）

種 類	平成19年度末	平成20年度末
破産更生債権及びこれらに準ずる債権	20,720	<b>35,366</b>
危険債権	26,268	<b>47,577</b>
要管理債権	17,368	<b>4,585</b>
小計	64,357	<b>87,529</b>
正常債権	2,228,553	<b>2,209,267</b>
合計	2,292,911	<b>2,296,797</b>

## 特定海外債権残高（当該年度末）

該当ありません。

# 内国為替・国際業務・証券業務（単体）

## 内国為替取扱高

（単位：千口、百万円）

区 分		平成19年度		平成20年度	
		口 数	金 額	口 数	金 額
送金 為替	各地へ向けた分	8,223	5,335,573	<b>7,297</b>	<b>5,214,634</b>
	各地より受けた分	10,954	5,268,428	<b>10,424</b>	<b>5,314,047</b>
代金 取立	各地へ向けた分	203	390,971	<b>187</b>	<b>376,806</b>
	各地より受けた分	239	454,036	<b>199</b>	<b>383,382</b>

## 外国為替取扱高

（単位：百万米ドル）

区 分		平成19年度	平成20年度
仕向 為替	売渡為替	972	<b>1,123</b>
	買入為替	242	<b>314</b>
被仕向 為替	支払為替	390	<b>407</b>
	取立為替	206	<b>212</b>
合計		1,811	<b>2,058</b>

## 外貨建資産残高

（単位：千米ドル）

種 類	平成19年度末	平成20年度末
コールローン	68,732	<b>84,556</b>
外国為替	38,467	<b>48,258</b>
貸付金	13,053	<b>11,625</b>
有価証券	15,413	<b>50,476</b>
その他	2,112	<b>2,281</b>
合計	137,779	<b>197,196</b>

## 保有有価証券残高

（単位：百万円）

種 類		平成19年度				平成20年度			
		期末残高	構成比 (%)	平均残高	構成比 (%)	期末残高	構成比 (%)	平均残高	構成比 (%)
国内部門	国債	130,286	33.9	223,631	54.4	<b>214,272</b>	<b>45.5</b>	<b>190,344</b>	<b>42.3</b>
	地方債	103,471	27.0	68,044	16.6	<b>105,426</b>	<b>22.4</b>	<b>115,358</b>	<b>25.6</b>
	短期社債	—	—	—	—	<b>5,997</b>	<b>1.3</b>	<b>2,345</b>	<b>0.5</b>
	社債	117,095	30.5	85,762	20.9	<b>104,598</b>	<b>22.2</b>	<b>109,028</b>	<b>24.2</b>
	株式	21,833	5.7	20,452	5.0	<b>17,848</b>	<b>3.8</b>	<b>19,403</b>	<b>4.3</b>
	その他の証券	3,456	0.9	5,850	1.4	<b>3,015</b>	<b>0.6</b>	<b>3,172</b>	<b>0.7</b>
国際部門	その他の証券	7,806	2.0	7,152	1.7	<b>20,025</b>	<b>4.2</b>	<b>10,864</b>	<b>2.4</b>
	うち外国債券	7,806	2.0	7,152	1.7	<b>20,025</b>	<b>4.2</b>	<b>10,864</b>	<b>2.4</b>
	うち外国株式	0	0.0	0	0.0	<b>0</b>	<b>0.0</b>	<b>0</b>	<b>0.0</b>
合計		383,950	100.0	410,893	100.0	<b>471,184</b>	<b>100.0</b>	<b>450,515</b>	<b>100.0</b>

（注）国際業務部門の国内店外貨建取引の平均残高は、月次カレント方式により算出しております。

# 証券業務（単体）

## 公共債引受額

（単位：百万円）

種 類	平成19年度	平成20年度
国債	—	—
地方債・政府保証債	16,630	<b>14,376</b>
合計	16,630	<b>14,376</b>

（注）国債引受額には直接入札による中期利付国債の落札額は含んでおりません。

## 国債等公共債及び証券投資信託窓口販売実績

（単位：百万円）

種 類	平成19年度	平成20年度
国債	18,131	<b>12,714</b>
地方債・政府保証債	10,339	<b>8,759</b>
合計	28,471	<b>21,473</b>
証券投資信託	89,314	<b>24,497</b>

（注）国債窓口販売額には募入決定後3週間以内の中期利付国債の販売額は含んでおりません。

## 商品有価証券売買高

（単位：百万円）

種 類	平成19年度	平成20年度
商品国債	15,076	<b>5,786</b>
商品地方債	2,191	<b>1,349</b>
商品政府保証債	—	—
その他の商品有価証券	—	—
合計	17,267	<b>7,136</b>

## 商品有価証券平均残高

（単位：百万円）

種 類	平成19年度	平成20年度
商品国債	282	<b>279</b>
商品地方債	359	<b>295</b>
商品政府保証債	—	—
その他の商品有価証券	—	—
合計	642	<b>575</b>



# 有価証券（単体）

## 売買目的有価証券

（単位：百万円）

期 別 種 類	平成19年度末		平成20年度末	
	貸借対照表計上額	前年度の損益 に含まれた評価差額	貸借対照表計上額	当年度の損益 に含まれた評価差額
売買目的有価証券	459	7	512	6

## 満期保有目的の債券で時価のあるもの（当該年度末）

該当ありません。

## 子会社株式及び関連会社株式で時価のあるもの（当該年度末）

該当ありません。

## その他有価証券で時価のあるもの

（単位：百万円）

期 別 種 類	平成19年度末					平成20年度末				
	取得原価	貸借対照表 計上額	評価差額	うち益	うち損	取得原価	貸借対照表 計上額	評価差額	うち益	うち損
株式	13,107	16,692	3,585	4,476	890	14,439	12,636	△ 1,803	857	2,660
債券	324,769	320,593	△ 4,176	353	4,529	405,847	407,304	1,456	2,290	833
国債	134,407	130,286	△ 4,120	237	4,358	213,354	214,272	917	1,515	597
地方債	103,505	103,471	△ 34	77	111	105,167	105,426	258	384	125
短期社債	—	—	—	—	—	5,993	5,997	3	3	—
社債	86,856	86,834	△ 21	37	59	81,331	81,608	276	387	110
その他	9,625	9,429	△ 196	89	286	21,710	21,189	△ 520	21	542
合計	347,502	346,715	△ 787	4,919	5,706	441,997	441,130	△ 867	3,168	4,035

（注）1.貸借対照表計上額は、株式については当事業年度末前1カ月の市場価格の平均に基づいて算定された額により、またそれ以外については、当事業年度末における市場価格等に基づく時価により、それぞれ計上したものであります。

2.「うち益」「うち損」はそれぞれ「評価差額」の内訳であります。

3.その他有価証券で時価のあるもののうち、当該有価証券の時価が取得原価に比べて著しく下落しており、時価が取得原価まで回復する見込みがあると認められないものについては、当該時価をもって貸借対照表価額とするとともに、評価差額を当事業年度の損失として処理（以下、「減損処理」という。）しております。

平成20年3月31日現在における減損処理額は368百万円であります。

平成21年3月31日現在における減損処理額は1,108百万円であります。

また、時価が「著しく下落した」と判断するための基準は、資産の自己査定基準において、有価証券の発行会社の区分毎に次のとおり定めております。

破綻先、実質破綻先、破綻懸念先 時価が取得原価に比べて下落  
 要注意先 時価が取得原価に比べて30%以上下落  
 正常先 時価が取得原価に比べて50%以上下落

上記自己査定基準に該当する正常先のうち、時価が取得原価に比べて30%以上50%未満下落した銘柄については、個別に時価の回復可能性を判定し、取得原価まで回復する可能性があると思われる場合を除き、減損処理を実施しております。

なお、破綻先とは破産、特別清算等法的に経営破綻の事実が発生している発行会社、実質破綻先とは破綻先と同等の状況にある発行会社、破綻懸念先とは現在は経営破綻の状況にないが今後経営破綻に陥る可能性が大きいと認められる発行会社、要注意先とは今後の管理に注意を要する発行会社であります。また、正常先とは破綻先、実質破綻先、破綻懸念先及び要注意先以外の発行会社であります。

（追加情報）

有価証券のうち、その他有価証券として保有する変動利付国債については、従来、決算日の市場価格をもって貸借対照表価額としておりましたが、「金融資産の時価の算定に関する実務上の取扱い」（実務対応報告第25号 平成20年10月28日）を踏まえ、実際の売買事例が極めて少ない等の理由から市場価格が公正な評価額を示していないと考えられるため、当事業年度においては、合理的に算定された価額をもって貸借対照表価額としております。これにより、市場価格をもって貸借対照表価額とした場合に比べ「有価証券」が3,503百万円増加、「繰延税金資産」が1,423百万円減少、「その他有価証券評価差額金」が2,079百万円増加しております。

なお、変動利付国債の合理的に算定された価額は、国債の利回り等から見積もった将来キャッシュ・フローを同利回りに基づく割引率を用いて割り引くことにより算定しており、国債の利回り及び同利回りのボラティリティが主な価格決定変数であります。

## 当該年度中に売却した満期保有目的の債券

該当ありません。

# 有価証券（単体）

## 当該年度中に売却したその他有価証券

（単位：百万円）

種 類	期 別	平成19年度			平成20年度		
		売却額	売却益の合計額	売却損の合計額	売却額	売却益の合計額	売却損の合計額
その他有価証券		241,810	3,109	1,655	<b>359,448</b>	<b>2,163</b>	<b>514</b>

## 時価評価されていない主な有価証券の内容及び貸借対照表計上額

（単位：百万円）

		平成19年度末	平成20年度末
子会社・子法人等株式		3,613	<b>3,728</b>
子法人等投資事業有限責任組合への出資持分		736	<b>598</b>
その他有価証券	社債	30,261	<b>22,990</b>
	非上場株式	1,526	<b>1,483</b>
	投資事業有限責任組合等への出資持分	1,096	<b>1,253</b>

## 当該年度中に保有目的を変更した有価証券

該当ありません。

## その他有価証券のうち満期があるものの償還予定額

（単位：百万円）

種 類	期 別	平成19年度末				平成20年度末			
		1年以内	1年超 5年以内	5年超 10年以内	10年超	1年以内	1年超 5年以内	5年超 10年以内	10年超
債券		224,833	62,092	22,159	41,618	<b>52,777</b>	<b>254,179</b>	<b>86,764</b>	<b>36,572</b>
	国債	58,030	10,026	20,611	41,618	—	<b>104,532</b>	<b>73,167</b>	<b>36,572</b>
	地方債	76,058	26,940	472	—	<b>24,502</b>	<b>75,315</b>	<b>5,608</b>	—
	短期社債	—	—	—	—	<b>5,997</b>	—	—	—
	社債	90,744	25,126	1,075	—	<b>22,278</b>	<b>74,330</b>	<b>7,989</b>	—
その他		1,495	7,659	1,471	—	<b>2,829</b>	<b>18,496</b>	<b>1,121</b>	—
合計		226,328	69,752	23,631	41,618	<b>55,607</b>	<b>272,675</b>	<b>87,886</b>	<b>36,572</b>

## 金銭の信託関係（当該年度末）

### 運用目的の金銭の信託

該当ありません。

### 満期保有目的の金銭の信託

該当ありません。

### その他の金銭の信託（運用目的及び満期保有目的以外）

該当ありません。

## その他有価証券評価差額金

貸借対照表に計上されているその他有価証券評価差額金の内訳は次のとおりであります。

（単位：百万円）

		平成19年度末	平成20年度末
評価差額金		△ 787	△ <b>867</b>
	その他有価証券	△ 787	△ <b>867</b>
	その他の金銭の信託	—	—
(+)	繰延税金資産	319	<b>352</b>
(△)	繰延税金負債	—	—
その他有価証券評価差額金		△ 467	△ <b>514</b>

# デリバティブ取引情報・オフ・バランス取引情報（単体）

## 取引の状況に関する事項 平成19年度（自 平成19年4月1日 至 平成20年3月31日）

- 取引の内容と利用目的  
 当行の行っておりますデリバティブ取引の内容と利用目的は以下のとおりであります。  
 ・当行の資産・負債総合管理（ALM）における金利変動リスクを回避する目的で利用する金利スワップ取引。  
 ・顧客の依頼により行う為替予約取引、通貨オプション取引。  
 ・顧客との取引により発生する為替変動リスクや金利変動リスクを回避する目的で行う為替予約取引、金利スワップ取引、通貨オプション取引。  
 ・当行の保有している債券に対するヘッジの目的で行う債券先物取引、金利スワップ取引。
- 取引に対する取組方針  
 当行では、デリバティブ取引を為替や金利等の変動のリスクを回避し、効率的な運用・調達を行うための手段として位置付けて取組んでおります。
- 取引に係るリスクの内容  
 デリバティブ取引によって発生するリスクとして、取引先の契約不履行等によって損失が発生する信用リスク、為替や金利等の変動によって損失が発生する市場リスク等があります。これらのリスクを把握・管理していくことが重要であります。
- 取引に係るリスク管理体制  
 デリバティブ取引の取引及び管理は、証券国際部において、取引権限・取組限度等を定めた行内管理規程を制定し、この規程に従って相互牽制の機能した体制にて取引を行っております。また、定期的にポジションやリスクの状況を把握・検証しております。
- 取引の契約額・時価等に関する事項についての補足説明  
 デリバティブ取引における想定元本とは、取引において受取・支払利息等を決定するために用いられる名目上の元本であり、想定元本額自体は必ずしもリスクの大きさを示すものではありません。
- デリバティブ取引のヘッジ会計適用について  
 金融資産・負債から生じる金利リスクに対するヘッジ会計の方法は、「銀行業における金融商品会計基準適用に関する会計上及び監査上の取扱い」（日本公認会計士協会業種別監査委員会報告第24号）に規定する繰延ヘッジによっております。  
 なお、ヘッジ有効性評価の方法については、相場変動を相殺するヘッジについて、ヘッジ対象となる預金・貸出金等とヘッジ手段である金利スワップ取引等を一定の期間毎にグルーピングのうえ特定し評価しております。

## 取引の時価等に関する事項（平成20年3月31日現在）

### 金利関連取引

「銀行業における金融商品会計基準適用に関する会計上及び監査上の取扱い」（日本公認会計士協会業種別監査委員会報告第24号）等に基づき、ヘッジ会計を適用している金利関連取引は注記の対象から除いておりますので、該当ありません。

## 通貨関連取引

（単位：百万円）

区分	種類	平成19年度末				
		契約額等	うち1年超	時価	評価損益	
取引所	通貨先物	売建	—	—	—	—
		買建	—	—	—	—
	通貨オプション	売建	—	—	—	—
		買建	—	—	—	—
店頭	通貨スワップ		—	—	—	—
	為替予約	売建	12,102	1,294	755	755
		買建	11,746	1,475	△659	△659
	通貨オプション	売建	74,956	55,629	4,603	△684
		買建	74,956	55,629	5,457	1,537
	その他	売建	—	—	—	—
買建		—	—	—	—	
合計		—	—	10,156	949	

(注) 1.上記取引については時価評価を行い、評価損益を損益計算書に計上しております。  
 なお、外貨建金銭債権債務等に付されたもので当該外貨建金銭債権債務等の貸借対照表表示に反映されているものについては、上記記載から除いております。  
 2.時価の算定  
 割引現在価値等により算定しております。

### 株式関連取引

該当ありません。

### 債券関連取引

該当ありません。

### 商品関連取引

該当ありません。

### クレジット・デリバティブ取引

該当ありません。

# デリバティブ取引情報・オフ・バランス取引情報（単体）

## 取引の状況に関する事項 平成20年度（自 平成20年4月1日 至 平成21年3月31日）

- (1) 取引の内容と利用目的  
 当行の行っておりますデリバティブ取引の内容と利用目的は以下のとおりであります。  
 ・ 当行の資産・負債総合管理（ALM）における金利変動リスクを回避する目的で利用する金利スワップ取引。  
 ・ 顧客の依頼により行う為替予約取引、金利スワップ取引、金利キャップ取引、通貨オプション取引。  
 ・ 顧客との取引により発生する為替変動リスクや金利変動リスクを回避する目的で行う為替予約取引、金利スワップ取引、金利キャップ取引、通貨オプション取引。  
 ・ 当行の保有している債券に対するヘッジの目的で行う債券先物取引、金利スワップ取引。
- (2) 取引に対する取組方針  
 当行では、デリバティブ取引を為替や金利等の変動のリスクを回避し、効率的な運用・調達を行うための手段として位置付けて取組んでおります。
- (3) 取引に係るリスクの内容  
 デリバティブ取引によって発生するリスクとして、取引先の契約不履行等によって損失が発生する信用リスク、為替や金利等の変動によって損失が発生する市場リスク等があります。これらのリスクを把握・管理していくことが重要であります。
- (4) 取引に係るリスク管理体制  
 デリバティブ取引の取引及び管理は、市場金融部・証券国際事務部において、取引権限・取組限度等を定めた行内管理規程を制定し、この規程に従って相互牽制の機能した体制にて取引を行っております。また、定期的にポジションやリスクの状況を把握・検証しております。
- (5) 取引の契約額・時価等に関する事項についての補足説明  
 デリバティブ取引における想定元本とは、取引において受取・支払利息等を決定するために用いられる名目上の元本であり、想定元本額自体は必ずしもリスクの大きさを示すものではありません。
- (6) デリバティブ取引のヘッジ会計適用について  
 金融資産・負債から生じる金利リスクに対するヘッジ会計の方法は、「銀行業における金融商品会計基準適用に関する会計上及び監査上の取扱い」（日本公認会計士協会業種別監査委員会報告第24号）に規定する繰延ヘッジによっております。  
 なお、ヘッジ有効性評価の方法については、相場変動を相殺するヘッジについて、ヘッジ対象となる預金・貸出金等とヘッジ手段である金利スワップ取引等を一定の期間毎にグルーピングのうえ特定し評価しております。

## 取引の時価等に関する事項（平成21年3月31日現在）

### 金利関連取引

（単位：百万円）

区分	種類	平成20年度末				
		契約額等	うち1年超	時価	評価損益	
金融商品取引所	金利先物	売建	—	—	—	
		買建	—	—	—	
	金利オプション	売建	—	—	—	
		買建	—	—	—	
店頭	金利先渡契約	売建	—	—	—	
		買建	—	—	—	
	金利スワップ	受取固定・支払変動	2,906	2,906	22	22
		受取変動・支払固定	2,906	2,906	△6	△6
		受取変動・支払変動	—	—	—	—
	金利オプション	売建	—	—	—	—
買建		—	—	—	—	
その他	売建	3,959	3,959	△22	49	
	買建	3,959	3,959	22	△25	
合計		—	—	16	40	

- (注) 1. 上記取引については時価評価を行い、評価損益を損益計算書に計上しております。  
 なお、「銀行業における金融商品会計基準適用に関する会計上及び監査上の取扱い」（日本公認会計士協会業種別監査委員会報告第24号）等に基づき、ヘッジ会計を適用しているデリバティブ取引は、上記記載から除いております。
2. 時価の算定  
 割引現在価値等により算定しております。

## 通貨関連取引

（単位：百万円）

区分	種類	平成20年度末				
		契約額等	うち1年超	時価	評価損益	
金融商品取引所	通貨先物	売建	—	—	—	
		買建	—	—	—	
	通貨オプション	売建	—	—	—	
		買建	—	—	—	
店頭	通貨スワップ	—	—	—	—	
	為替予約	売建	6,581	300	△79	△79
		買建	5,933	413	105	105
	通貨オプション	売建	74,136	51,290	△4,980	△496
		買建	74,136	51,290	5,867	1,383
	その他	売建	—	—	—	—
買建		—	—	—	—	
合計		—	—	912	912	

- (注) 1. 上記取引については時価評価を行い、評価損益を損益計算書に計上しております。  
 なお、外貨建金銭債権債務等に付されたもので当該外貨建金銭債権債務等の貸借対照表表示に反映されているものについては、上記記載から除いております。
2. 時価の算定  
 割引現在価値等により算定しております。

## 株式関連取引

該当ありません。

## 債券関連取引

該当ありません。

## 商品関連取引

該当ありません。

## クレジット・デリバティブ取引

該当ありません。

# ALM (単体)

## 定期預金の残存期間別残高

(単位：百万円)

種 類	3か月未満	3か月以上 6か月未満	6か月以上 1年未満	1年以上 2年未満	2年以上 3年未満	3年以上	合計
平成19年度末							
定期預金	214,033	227,219	463,872	74,244	48,907	34,281	1,062,559
うち固定自由金利定期預金	213,969	227,213	463,860	74,231	48,903	34,281	1,062,460
うち変動自由金利定期預金	9	6	12	13	4	0	44
うちその他	55	—	—	—	—	—	55
平成20年度末							
定期預金	<b>241,123</b>	<b>242,664</b>	<b>513,706</b>	<b>52,831</b>	<b>56,380</b>	<b>26,509</b>	<b>1,133,215</b>
うち固定自由金利定期預金	<b>241,058</b>	<b>242,654</b>	<b>513,696</b>	<b>52,828</b>	<b>56,379</b>	<b>26,509</b>	<b>1,133,128</b>
うち変動自由金利定期預金	<b>11</b>	<b>10</b>	<b>9</b>	<b>3</b>	<b>0</b>	—	<b>34</b>
うちその他	<b>53</b>	—	—	—	—	—	<b>53</b>

(注) 本表の預金残高には、積立定期預金を含んでおりません。

## 貸出金の残存期間別残高

(単位：百万円)

種 類	1年以下	1年超 3年以下	3年超 5年以下	5年超 7年以下	7年超	期間の定め のないもの	合計
平成19年度末							
貸出金残高	321,397	231,450	252,810	170,614	1,038,050	221,983	2,236,307
うち変動金利		151,070	145,040	103,643	727,360	126,075	
うち固定金利		80,379	107,769	66,971	310,690	95,907	
平成20年度末							
貸出金残高	<b>302,866</b>	<b>213,600</b>	<b>279,599</b>	<b>194,117</b>	<b>1,044,716</b>	<b>214,988</b>	<b>2,249,888</b>
うち変動金利		<b>124,287</b>	<b>158,602</b>	<b>97,475</b>	<b>770,425</b>	<b>123,533</b>	
うち固定金利		<b>89,312</b>	<b>120,996</b>	<b>96,641</b>	<b>274,291</b>	<b>91,454</b>	

(注) 残存期間1年以下の貸出金については、変動金利、固定金利の区別をしておりません。

## 有価証券の残存期間別残高

(単位：百万円)

種 類	1年以下	1年超 3年以下	3年超 5年以下	5年超 7年以下	7年超 10年以下	10年超	期間の定め のないもの	合計
平成19年度末								
国債	58,030	10,026	—	—	20,611	41,618	—	130,286
地方債	76,058	20,387	6,553	408	64	—	—	103,471
短期社債	—	—	—	—	—	—	—	—
社債	90,744	19,131	5,995	432	642	—	150	117,095
株式	—	—	—	—	—	—	21,833	21,833
その他の証券	1,495	3,642	4,016	1,279	192	—	636	11,262
うち外国債券	1,495	3,212	3,098	—	—	—	—	7,806
うち外国株式	—	—	—	—	—	—	0	0
合計	226,328	53,186	16,565	2,120	21,510	41,618	22,619	383,950
平成20年度末								
国債	<b>0</b>	<b>50,803</b>	<b>53,729</b>	<b>3,098</b>	<b>70,068</b>	<b>36,572</b>	—	<b>214,272</b>
地方債	<b>24,502</b>	<b>25,829</b>	<b>49,486</b>	<b>5,475</b>	<b>132</b>	—	—	<b>105,426</b>
短期社債	<b>5,997</b>	—	—	—	—	—	—	<b>5,997</b>
社債	<b>22,278</b>	<b>46,131</b>	<b>28,198</b>	<b>4,223</b>	<b>3,765</b>	—	—	<b>104,598</b>
株式	—	—	—	—	—	—	<b>17,848</b>	<b>17,848</b>
その他の証券	<b>2,829</b>	<b>8,940</b>	<b>9,556</b>	<b>682</b>	<b>439</b>	—	<b>593</b>	<b>23,041</b>
うち外国債券	<b>2,829</b>	<b>8,620</b>	<b>8,575</b>	—	—	—	—	<b>20,025</b>
うち外国株式	—	—	—	—	—	—	<b>0</b>	<b>0</b>
合計	<b>55,607</b>	<b>131,705</b>	<b>140,970</b>	<b>13,480</b>	<b>74,406</b>	<b>36,572</b>	<b>18,441</b>	<b>471,184</b>



# 単体自己資本比率の状況

自己資本比率は、銀行法第14条の2の規定に基づき、銀行がその保有する資産等に照らし自己資本の充実の状況が適当であるかどうかを判断するための基準（平成18年金融庁告示第19号。以下「告示」という）に定められた算式に基づき、単体ベースと連結ベース（P56参照）の双方について算出しております。

なお、当行は、国内基準を適用のうえ、信用リスク・アセットの算出においては標準的手法を採用しております。また、オペレーショナル・リスク相当額に係る額の算出においては、先進的計測手法を採用しております。

## 単体自己資本比率（国内基準）

（単位：百万円）

項 目		平成19年度末	平成20年度末
基本的項目 (Tier1)	資 本 金	27,484	<b>27,484</b>
	うち非累積的永久優先株	—	—
	新 株 式 申 込 証 拠 金	—	—
	資 本 準 備 金	27,430	<b>27,430</b>
	そ の 他 資 本 剰 余 金	22,053	<b>22,053</b>
	利 益 準 備 金	53	<b>53</b>
	そ の 他 利 益 剰 余 金	21,238	<b>10,745</b>
	そ の 他	—	—
	自 己 株 式(△)	114	<b>121</b>
	自 己 株 式 申 込 証 拠 金	—	—
	社 外 流 出 予 定 額(△)	1,642	—
	その他有価証券の評価差損(△)	497	—
	新 株 予 約 権	—	—
	営 業 権 相 当 額(△)	—	—
	の れ ん 相 当 額(△)	—	—
	企業結合により計上される無形固定資産相当額(△)	—	—
	証券化取引に伴い増加した自己資本相当額(△)	—	—
	繰延税金資産の控除前の〔基本的項目〕計 (上記各項目の合計額)	—	—
	繰延税金資産の控除金額(△)	—	—
	計 (A)	96,004	<b>87,645</b>
うちステップ・アップ金利条項付の優先出資証券 (注1)	—	—	
うち海外特別目的会社の発行する優先出資証券	—	—	
補完的項目 (Tier2)	土地の再評価額と再評価の直前の帳簿価額の差額の45%相当額	—	—
	一 般 貸 倒 引 当 金	10,538	<b>15,016</b>
	負 債 性 資 本 調 達 手 段 等	60,000	<b>60,000</b>
	うち永久劣後債務 (注2)	20,000	<b>20,000</b>
	うち期限付劣後債務及び期限付優先株 (注3)	40,000	<b>40,000</b>
	計	70,538	<b>75,016</b>
うち自己資本への算入額 (B)	70,538	<b>70,509</b>	
控 除 項 目	控 除 項 目 (注4) (C)	—	—
自 己 資 本 額	(A) + (B) - (C) (D)	166,543	<b>158,155</b>
リ ス ク ・ ア セ ッ ト 等	資 産 (オ ン ・ バ ラ ン ス) 項 目	1,614,734	<b>1,571,857</b>
	オ フ ・ バ ラ ン ス 取 引 等 項 目	33,616	<b>35,778</b>
	信 用 リ ス ク ・ ア セ ッ ト の 額 (E)	1,648,351	<b>1,607,636</b>
	オペレーショナル・リスク相当額に係る額 $\left(\frac{(G)}{8\%}\right)$ (F)	65,106	<b>73,912</b>
	(参考) オペレーショナル・リスク相当額 (G)	5,208	<b>5,913</b>
	計(E)+(F) (H)	1,713,458	<b>1,681,549</b>
単体自己資本比率（国内基準） = $\frac{(D)}{(H)} \times 100$		9.71%	<b>9.40%</b>
Tier1比率 = $\frac{(A)}{(H)} \times 100$		5.60%	<b>5.21%</b>

(注) 1. 告示第40条第2項に掲げるもの、すなわち、ステップ・アップ金利等の特約を付すなど償還を行う蓋然性を有する株式等（海外特別目的会社の発行する優先出資証券を含む）であります。

2. 告示第41条第1項第3号に掲げる負債性資本調達手段で次に掲げる性質のすべてを有するものであります。

- (1) 無担保で、かつ、他の債務に劣後する払込済のものであること
- (2) 一定の場合を除き、償還されないものであること
- (3) 業務を継続しながら損失の補てんに充当されるものであること
- (4) 利払い義務の延期が認められるものであること

3. 告示第41条第1項第4号及び第5号に掲げるものであります。ただし、期限付劣後債務は契約時における償還期間が5年を超えるものに限定されております。

4. 告示第43条第1項第1号から第5号に掲げるものであり、他の金融機関の資本調達手段の意図的な保有相当額が含まれております。

5. 平成20年度末における自己資本額につきましては、平成20年金融庁告示第79号の特例に基づいて算出しております。

# 諸比率 (単体)

## 利益率

(単位：%)

種 類	平成19年度	平成20年度
総資産経常利益率	0.26	—
純資産経常利益率	7.80	—
総資産当期純利益率	0.15	—
純資産当期純利益率	4.49	—

- (注) 1. 総資産経常(当期純)利益率 =  $\frac{\text{経常(当期純)利益}}{\text{総資産(除く支払承諾見返)平均残高}} \times 100$   
 2. 純資産経常(当期純)利益率 =  $\frac{\text{経常(当期純)利益}}{\text{純資産勘定平均残高}} \times 100$   
 3. 平成20年度については、経常損失、当期純損失となったため記載しておりません。

## ROE

(単位：%)

種 類	平成19年度	平成20年度
業務純益(一般貸倒引当金繰入前)ベース	23.43	<b>23.88</b>
業務純益ベース	19.86	<b>19.04</b>
コア業務純益ベース	23.21	<b>22.10</b>
当期純利益ベース	4.30	—

- (注) 1. ROE =  $\frac{\text{(コア)業務純益(当期純利益)}}{\text{(期首純資産勘定+期末純資産勘定)} \div 2} \times 100$   
 2. 平成20年度の当期純利益ベースのROEについては、当期純損失となったため記載しておりません。

## 利鞘

(単位：%)

種 類	平成19年度			平成20年度		
	国内業務部門	国際業務部門	合 計	国内業務部門	国際業務部門	合 計
資金運用利回 (A)	2.02	4.01	2.04	<b>1.98</b>	<b>2.62</b>	<b>1.99</b>
貸出金利回 (B)	2.29	2.74	2.29	<b>2.20</b>	<b>2.16</b>	<b>2.20</b>
有価証券利回	0.83	2.42	0.85	<b>0.98</b>	<b>1.92</b>	<b>1.01</b>
資金調達原価 (C)	1.54	3.83	1.56	<b>1.52</b>	<b>2.33</b>	<b>1.54</b>
資金調達利回	0.30	1.70	0.31	<b>0.31</b>	<b>0.94</b>	<b>0.32</b>
預金債券等原価 (D)	1.51	6.72	1.53	<b>1.49</b>	<b>3.72</b>	<b>1.51</b>
預金債券等利回	0.24	2.75	0.25	<b>0.24</b>	<b>1.22</b>	<b>0.25</b>
外部負債利回	2.57	—	2.57	<b>2.90</b>	<b>2.14</b>	<b>2.90</b>
経費率	1.26	3.97	1.27	<b>1.24</b>	<b>2.50</b>	<b>1.25</b>
総資金利鞘 (A) - (C)	0.48	0.18	0.48	<b>0.46</b>	<b>0.29</b>	<b>0.45</b>
預貸金利鞘 (B) - (D)	0.78	△ 3.98	0.76	<b>0.71</b>	△ <b>1.56</b>	<b>0.69</b>

- (注) 1. 「国内業務部門」とは国内店の円建取引であります。  
 2. 「外部負債」 = コールマネー + 売渡手形 + 借入金

## 預貸率 (貸出金の預金に対する比率)

(単位：百万円)

種 類	平成19年度末				平成20年度末			
	貸出金 (A)	預金 (B)	預貸率		貸出金 (A)	預金 (B)	預貸率	
			(A) / (B) (%)	期中平均 (%)			(A) / (B) (%)	期中平均 (%)
国内業務部門	2,231,991	2,574,489	86.69	85.10	<b>2,244,501</b>	<b>2,605,246</b>	<b>86.15</b>	<b>86.04</b>
国際業務部門	4,316	13,473	32.03	31.91	<b>5,387</b>	<b>18,913</b>	<b>28.48</b>	<b>32.27</b>
合計	2,236,307	2,587,963	86.41	84.88	<b>2,249,888</b>	<b>2,624,159</b>	<b>85.73</b>	<b>85.70</b>

(注) 預金には譲渡性預金を含んでおります。

## 預証率 (有価証券の預金に対する比率)

(単位：百万円)

種 類	平成19年度末				平成20年度末			
	有価証券 (A)	預金 (B)	預証率		有価証券 (A)	預金 (B)	預証率	
			(A) / (B) (%)	期中平均 (%)			(A) / (B) (%)	期中平均 (%)
国内業務部門	376,143	2,574,489	14.61	15.89	<b>451,158</b>	<b>2,605,246</b>	<b>17.31</b>	<b>17.06</b>
国際業務部門	7,806	13,473	57.93	66.84	<b>20,025</b>	<b>18,913</b>	<b>105.88</b>	<b>66.51</b>
合計	383,950	2,587,963	14.83	16.10	<b>471,184</b>	<b>2,624,159</b>	<b>17.95</b>	<b>17.37</b>

(注) 預金には譲渡性預金を含んでおります。

# 従業員の状況（単体）

## 従業員の状況

		平成19年度末			
		従業員数	平均年齢	平均勤続年数	平均給与月額
事務員	男性	1,209 人	44 歳 1 ヶ月	19 年 4 ヶ月	482,244 円
	女性	638	35 4	8 6	243,572
	計	1,847	41 1	15 7	399,171
庶務行員等	男性	27	58 5	13 7	226,851
	女性	5	61 4	8 9	162,960
	計	32	58 10	12 10	216,868
合計又は平均		1,879	41 4	15 6	396,043

- (注) 1.従業員数は、嘱託及び臨時従業員703人を含んでおりません。なお、取締役を兼務しない執行役員14人及び出向者は従業員数に含んでおりません。  
 2.平均年齢、平均勤続年数、平均給与月額の算出には、他社から当行への出向者を含んでおりません。  
 3.平均給与月額は、3月の時間外手当を含む平均給与月額であり、賞与を除くものであります。  
 4.従業員の定年は、満60歳に達した時としております。ただし、当行が必要と認めたときは嘱託として期限を定めて再雇用する場合があります。

		平成20年度末			
		従業員数	平均年齢	平均勤続年数	平均給与月額
事務員	男性	1,258 人	44 歳 2 ヶ月	19 年 4 ヶ月	482,758 円
	女性	731	35 2	8 0	256,017
	計	1,989	40 10	15 2	398,823
庶務行員等	男性	26	58 2	14 10	220,116
	女性	5	62 4	9 9	164,663
	計	31	58 10	14 0	211,172
合計又は平均		2,020	41 1	15 1	395,918

- (注) 1.従業員数は、嘱託及び臨時従業員669人を含んでおりません。なお、取締役を兼務しない執行役員7人及び出向者は従業員数に含んでおりません。  
 2.平均年齢、平均勤続年数、平均給与月額の算出には、他社から当行への出向者を含んでおりません。  
 3.平均給与月額は、3月の時間外手当を含む平均給与月額であり、賞与を除くものであります。  
 4.従業員の定年は、満60歳に達した時としております。ただし、当行が必要と認めたときは嘱託として期限を定めて再雇用する場合があります。

## バーゼルⅡ 追加開示事項

---

定性的な開示事項 .....	84
定量的な開示事項 .....	84
自己資本の充実度に関する事項 .....	85
信用リスクに関する事項 .....	86
信用リスク削減手法に関する事項 .....	91
派生商品取引及び長期決済期間取引の 取引相手のリスクに関する事項 .....	91
証券化エクスポージャーに関する事項 .....	92
オペレーショナル・リスクに関する事項 .....	92
銀行勘定における出資等又は 株式等エクスポージャーに関する事項 .....	94
銀行勘定における金利リスクに関する事項 .....	94

# バーゼルⅡ 追加開示事項

銀行法施行規則（昭和57年大蔵省令第10号）第19条の2第1項第5号二等の規定に基づき、自己資本の充実の状況等について金融庁長官が別に定める事項（平成19年3月23日金融庁告示第15号）として、事業年度に係る説明書類に記載すべき事項について開示しております。

## 定性的な開示事項

### 連結の範囲に関する事項

- イ. 自己資本比率告示第3条又は第26条に定める連結自己資本比率を算出する対象となる会社の集団に属する会社と連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則（昭和51年大蔵省令第28号）に基づき連結の範囲に含まれる会社に相違点はございません。
- ロ. 連結子会社の数並びに主な連結子会社の名称及び主な業務の内容につきましては、本誌P.46に記載しております。
- ハ. 自己資本比率告示第9条又は第32条が適用される金融業務を営む関連法人等はありません。
- ニ. 自己資本比率告示第8条第1項第2号イからハマまで又は第31条第1項第2号イからハマまでに掲げる控除項目の対象となる会社はありません。
- ホ. 銀行法（昭和56年法律第59号）第16条の2第1項第11号に掲げる会社のうち従属業務を専ら営むもの又は同項第12号に掲げる会社であって、連結グループに属していない会社はありません。
- ヘ. 連結グループ内の資金及び自己資本の移動にかかる制限等はありません。

### 自己資本調達手段の概要

当行グループは、自己資本調達手段としては、普通株式・期限付劣後債・永久劣後ローン・期限付劣後ローンにより資本調達を行っております。各々の残高については、連結P.56、単体P.80をご参照ください。

### 自己資本の充実度に関する評価方法の概要

現在の自己資本の充実度につきましては、国内基準で必要とされる4%を大幅に上回る水準を確保しており、経営の健全性・安全性においては十分な水準にあるものと認識しております。

なお、今後の自己資本充実策につきましては、内部留保の積上げを第一義的な施策としつつ、その時々々の経営環境・経営戦略等を踏まえた機動的な資本調達も検討してまいりたいと考えております。

### 各種リスクに関する事項

各種リスクの管理方針及び手続の概要等、定性的な開示事項につきましては、本誌P.10からP.13及びP.91からP.93に記載しております。

## 定量的な開示事項

### 連結自己資本比率の控除項目の対象となる非連結子会社のうち、規制上の所要自己資本を下回った会社の名称と所要自己資本を下回った額の総額

該当する会社はありません。

### 自己資本の構成に関する事項

自己資本の構成に関する事項につきましては、連結P.56、単体P.80にそれぞれ記載しております。

なお、平成20年度末時点において、ステップ・アップ金利等の特約を付すなど償還を行う蓋然性を有する株式等は発行していません。



## 自己資本の充実度に関する事項

### 信用リスク及びオペレーショナル・リスクに対する所要自己資本額

連結

(単位：百万円)

項目	告示で定める リスク・ウェイト(%)	平成19年度		平成20年度	
		リスク・アセット	所要自己資本額	リスク・アセット	所要自己資本額
現金	0	0	0	0	0
我が国の中央政府及び中央銀行向け	0	0	0	0	0
外国の中央政府及び中央銀行向け	0~100	—	—	0	0
国際決済銀行等向け	0	—	—	—	—
我が国の地方公共団体向け	0	0	0	0	0
外国の中央政府等以外の公共部門向け	20~100	—	—	—	—
国際開発銀行向け	0~100	—	—	—	—
地方公営企業等金融機構向け	10~20	—	—	475	19
我が国の政府関係機関向け	10~20	6,706	268	5,002	200
地方三公社向け	20	6	0	4	0
金融機関及び第一種金融商品取引業者向け	20~100	15,202	608	17,781	711
法人等向け	20~100	823,846	32,953	785,606	31,424
中小企業等向け及び個人向け	75	232,590	9,303	248,922	9,956
抵当権付住宅ローン	35	169,321	6,772	163,453	6,538
不動産取得等事業向け	100	252,186	10,087	229,579	9,183
3月以上延滞等	50~150	9,357	374	24,420	976
取立未済手形	20	47	1	18	0
信用保証協会等による保証付	10	21,462	858	23,366	934
株式会社産業再生機構による保証付	10	—	—	—	—
出資等	100	15,432	617	14,654	586
上記以外	100	116,286	4,651	106,602	4,264
証券化（オリジネーターの場合）	20~100	—	—	—	—
証券化（オリジネーター以外の場合）	20~350	—	—	—	—
複数の資産を裏付とする資産（所謂 ファンド）のうち、個々の資産の把握が困難な資産	100	2,570	102	2,581	103
信用リスク（標準的手法）		1,665,017	66,600	1,622,470	64,898
オペレーショナル・リスク		72,891	2,915	81,360	3,254
総所要自己資本額			69,516		68,153

単体

(単位：百万円)

項目	告示で定める リスク・ウェイト(%)	平成19年度		平成20年度	
		リスク・アセット	所要自己資本額	リスク・アセット	所要自己資本額
現金	0	0	0	0	0
我が国の中央政府及び中央銀行向け	0	0	0	0	0
外国の中央政府及び中央銀行向け	0~100	—	—	0	0
国際決済銀行等向け	0	—	—	—	—
我が国の地方公共団体向け	0	0	0	0	0
外国の中央政府等以外の公共部門向け	20~100	—	—	—	—
国際開発銀行向け	0~100	—	—	—	—
地方公営企業等金融機構向け	10~20	—	—	475	19
我が国の政府関係機関向け	10~20	6,706	268	5,002	200
地方三公社向け	20	6	0	4	0
金融機関及び第一種金融商品取引業者向け	20~100	15,198	607	17,779	711
法人等向け	20~100	825,201	33,008	786,909	31,476
中小企業等向け及び個人向け	75	233,510	9,340	249,812	9,992
抵当権付住宅ローン	35	169,330	6,773	163,459	6,538
不動産取得等事業向け	100	252,186	10,087	229,579	9,183
3月以上延滞等	50~150	8,730	349	23,793	951
取立未済手形	20	47	1	18	0
信用保証協会等による保証付	10	21,462	858	23,366	934
株式会社産業再生機構による保証付	10	—	—	—	—
出資等	100	17,993	719	17,584	703
上記以外	100	94,669	3,786	86,669	3,466
証券化（オリジネーターの場合）	20~100	—	—	—	—
証券化（オリジネーター以外の場合）	20~350	—	—	—	—
複数の資産を裏付とする資産（所謂 ファンド）のうち、個々の資産の把握が困難な資産	100	3,307	132	3,180	127
信用リスク（標準的手法）		1,648,351	65,934	1,607,636	64,305
オペレーショナル・リスク		65,106	2,604	73,912	2,956
総所要自己資本額			68,538		67,261

(注) 1. 所要自己資本額=リスク・アセット×4%

2. 信用リスク・アセットの算出においては、標準的手法を採用しております。

3. 信用リスク・アセットの額は、信用リスク削減手法勘案後の額としております。

4. オペレーショナル・リスク・アセットの算出について、銀行は先進的計測手法、連結子会社は基礎的手法を採用しております。

5. 各項目のリスク・アセットの額にはオフ・バランス項目を含んでおります。

# バーゼルⅡ 追加開示事項

## リスク・ウェイトの判定に使用する適格格付機関等の名称

エクスポージャーの種類	リスク・ウェイトの判定に使用する適格格付機関等
中央政府及び中央銀行向け	OECDのカントリー・リスク・スコア
我が国の地方公共団体向け	
外国の中央政府等以外の公共部門向け	
地方公営企業等金融機構向け	
我が国の政府関係機関向け	
地方三公社向け	
金融機関向け	
第一種金融商品取引業者向け	
国際開発銀行向け	R&I, JCR, Moody's, S&P, Fitch
法人等向け	リスク・ウェイト一律100%【特例（告示第67条）適用】
証券化	R&I, JCR, Moody's, S&P, Fitch

## 信用リスクに関する事項

### 信用リスクに関するエクスポージャーの期末残高及び期中平均残高

連結

(単位：百万円)

	平成19年度					平成20年度				
	合計	うち貸出金	うち債券	うちコミットメント及びデリバティブ以外のオフ・バランス取引	うちデリバティブ(派生商品)取引	合計	うち貸出金	うち債券	うちコミットメント及びデリバティブ以外のオフ・バランス取引	うちデリバティブ(派生商品)取引
期末残高	2,891,157	2,232,653	358,347	74,058	9,883	<b>2,995,814</b>	<b>2,246,432</b>	<b>448,046</b>	<b>103,877</b>	<b>9,688</b>
期中平均残高	2,849,649	2,147,362	384,737	71,172	7,084	<b>2,949,824</b>	<b>2,218,921</b>	<b>428,006</b>	<b>99,381</b>	<b>9,798</b>

(注) 1. 債券の平均残高の算出につきましては、評価差額益の控除前残高を用いております。

2. オフ・バランス項目のうち、一部の科目の期中平均残高につきましては、月末残高、四半期残高の平均値を用いております。

### 単体

(単位：百万円)

	平成19年度					平成20年度				
	合計	うち貸出金	うち債券	うちコミットメント及びデリバティブ以外のオフ・バランス取引	うちデリバティブ(派生商品)取引	合計	うち貸出金	うち債券	うちコミットメント及びデリバティブ以外のオフ・バランス取引	うちデリバティブ(派生商品)取引
期末残高	2,872,816	2,236,307	358,263	73,373	9,883	<b>2,979,258</b>	<b>2,249,888</b>	<b>448,008</b>	<b>103,344</b>	<b>9,688</b>
期中平均残高	2,837,926	2,165,789	384,591	70,393	7,084	<b>2,934,226</b>	<b>2,222,313</b>	<b>427,940</b>	<b>98,190</b>	<b>9,798</b>

(注) 1. 債券の平均残高の算出につきましては、評価差額益の控除前残高を用いております。

2. オフ・バランス項目のうち、一部の科目の期中平均残高につきましては、月末残高、四半期残高の平均値を用いております。

### 信用リスクに関するエクスポージャーの期末残高

地域別（連結）

(単位：百万円)

	平成19年度					平成20年度				
	合計	うち貸出金	うち債券	うちコミットメント及びデリバティブ以外のオフ・バランス取引	うちデリバティブ(派生商品)取引	合計	うち貸出金	うち債券	うちコミットメント及びデリバティブ以外のオフ・バランス取引	うちデリバティブ(派生商品)取引
国内	2,882,376	2,231,634	350,585	74,058	9,883	<b>2,974,916</b>	<b>2,245,538</b>	<b>428,041</b>	<b>103,877</b>	<b>9,688</b>
国外	8,781	1,018	7,762	—	—	<b>20,898</b>	<b>893</b>	<b>20,004</b>	—	—
合計	2,891,157	2,232,653	358,347	74,058	9,883	<b>2,995,814</b>	<b>2,246,432</b>	<b>448,046</b>	<b>103,877</b>	<b>9,688</b>

### 地域別（単体）

(単位：百万円)

	平成19年度					平成20年度				
	合計	うち貸出金	うち債券	うちコミットメント及びデリバティブ以外のオフ・バランス取引	うちデリバティブ(派生商品)取引	合計	うち貸出金	うち債券	うちコミットメント及びデリバティブ以外のオフ・バランス取引	うちデリバティブ(派生商品)取引
国内	2,864,035	2,235,288	350,501	73,373	9,883	<b>2,958,360</b>	<b>2,248,994</b>	<b>428,004</b>	<b>103,344</b>	<b>9,688</b>
国外	8,781	1,018	7,762	—	—	<b>20,898</b>	<b>893</b>	<b>20,004</b>	—	—
合計	2,872,816	2,236,307	358,263	73,373	9,883	<b>2,979,258</b>	<b>2,249,888</b>	<b>448,008</b>	<b>103,344</b>	<b>9,688</b>

## 業種別（連結）

（単位：百万円）

	平成19年度					平成20年度				
	合計	うち貸出金	うち債券	うちコミットメント及び デリバティブ以外の オフ・バランス取引	うちデリバティブ (派生商品) 取引	合計	うち貸出金	うち債券	うちコミットメント及び デリバティブ以外の オフ・バランス取引	うちデリバティブ (派生商品) 取引
国内店分	2,890,138	2,231,634	358,347	74,058	9,883	2,994,920	2,245,538	448,046	103,877	9,688
製造業	277,375	248,955	7,129	4,057	1,972	288,800	262,477	7,456	3,288	1,635
農業	1,752	1,623	80	47	—	1,277	1,174	60	42	—
林業	27	27	—	—	—	22	22	—	—	—
漁業	393	392	—	—	—	393	393	—	—	—
鉱業	1,144	1,143	—	—	—	1,313	1,313	—	—	—
建設業	137,144	129,128	5,835	1,440	5	123,942	118,010	4,454	796	7
電気・ガス・熱供給・水道業	4,221	2,119	2,093	—	—	3,958	3,951	—	—	—
情報通信業	16,717	15,853	345	68	12	16,806	15,980	250	235	9
運輸業	92,153	84,074	5,785	851	3	102,677	93,136	7,157	958	13
卸売・小売業	285,672	266,532	6,813	3,034	4,200	283,263	266,750	5,119	2,671	4,033
金融・保険業	253,437	49,688	76,784	48,504	3,596	273,416	47,792	87,751	82,704	3,812
不動産業	439,486	429,663	5,406	1,038	44	436,506	426,105	6,176	889	0
各種サービス業	302,179	280,980	14,632	4,585	46	297,941	280,929	11,821	3,343	175
地方公共団体	170,153	65,360	103,394	0	—	188,798	82,182	105,041	0	—
その他	908,280	656,090	130,048	10,431	—	975,801	645,318	212,756	8,945	—
特別国際金融取引勘定分	1,018	1,018	—	—	—	893	893	—	—	—
政府等	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
金融機関	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
その他	1,018	1,018	—	—	—	893	893	—	—	—
合計	2,891,157	2,232,653	358,347	74,058	9,883	2,995,814	2,246,432	448,046	103,877	9,688

## 業種別（単体）

（単位：百万円）

	平成19年度					平成20年度				
	合計	うち貸出金	うち債券	うちコミットメント及び デリバティブ以外の オフ・バランス取引	うちデリバティブ (派生商品) 取引	合計	うち貸出金	うち債券	うちコミットメント及び デリバティブ以外の オフ・バランス取引	うちデリバティブ (派生商品) 取引
国内店分	2,871,797	2,235,288	358,263	73,373	9,883	2,978,364	2,248,994	448,008	103,444	9,688
製造業	270,236	248,955	7,089	4,057	1,972	282,308	262,477	7,438	3,288	1,635
農業	1,752	1,623	80	47	—	1,277	1,174	60	42	—
林業	27	27	—	—	—	22	22	—	—	—
漁業	393	392	—	—	—	393	393	—	—	—
鉱業	1,144	1,143	—	—	—	1,313	1,313	—	—	—
建設業	137,144	129,128	5,835	1,440	5	123,930	118,010	4,454	796	7
電気・ガス・熱供給・水道業	4,221	2,119	2,093	—	—	3,958	3,951	—	—	—
情報通信業	16,497	15,893	320	68	12	16,720	16,010	250	235	9
運輸業	92,148	84,074	5,785	851	3	102,646	93,136	7,157	958	13
卸売・小売業	285,439	266,532	6,813	3,034	4,200	283,078	266,750	5,119	2,671	4,033
金融・保険業	260,194	52,235	76,784	48,504	3,596	279,483	49,656	87,751	82,704	3,812
不動産業	436,095	426,348	5,406	1,038	44	433,274	422,945	6,176	889	0
各種サービス業	311,465	290,544	14,612	4,585	46	307,060	290,170	11,801	3,343	175
地方公共団体	170,153	65,360	103,394	0	—	188,798	82,182	105,041	0	—
その他	884,883	650,908	130,048	9,745	—	954,097	640,800	212,756	8,412	—
特別国際金融取引勘定分	1,018	1,018	—	—	—	893	893	—	—	—
政府等	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
金融機関	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
その他	1,018	1,018	—	—	—	893	893	—	—	—
合計	2,872,816	2,236,307	358,263	73,373	9,883	2,979,258	2,249,888	448,008	103,344	9,688

# バーゼルⅡ 追加開示事項

## 残存期間別（連結）

（単位：百万円）

	平成19年度					平成20年度				
	合計	うち貸出金	うち債券	うちコミットメント及びデリバティブ以外のオフ・バランス取引	うちデリバティブ（派生商品）取引	合計	うち貸出金	うち債券	うちコミットメント及びデリバティブ以外のオフ・バランス取引	うちデリバティブ（派生商品）取引
1年以下	647,971	318,518	226,280	38,654	2,119	406,446	295,292	55,594	13,107	2,073
1年超、3年以下	288,652	227,065	52,697	3,907	4,843	369,031	213,670	130,842	18,610	5,771
3年超、5年以下	275,347	253,433	15,626	3,296	2,920	451,620	280,221	139,080	30,507	1,719
5年超、7年以下	174,617	172,084	832	1,657	—	210,234	195,236	12,695	2,149	78
7年超	1,116,380	1,037,493	62,760	16,065	—	1,186,444	1,046,402	109,832	30,145	45
期間の定めのないもの	388,188	224,057	150	10,477	—	372,037	215,610	—	9,357	—
合計	2,891,157	2,232,653	358,347	74,058	9,883	2,995,814	2,246,432	448,046	103,877	9,688

（注）期間の定めのないものには、期間の不明なものを含んでおります。

## 残存期間別（単体）

（単位：百万円）

	平成19年度					平成20年度				
	合計	うち貸出金	うち債券	うちコミットメント及びデリバティブ以外のオフ・バランス取引	うちデリバティブ（派生商品）取引	合計	うち貸出金	うち債券	うちコミットメント及びデリバティブ以外のオフ・バランス取引	うちデリバティブ（派生商品）取引
1年以下	640,340	317,743	226,230	38,603	2,119	403,835	298,842	55,576	13,102	2,073
1年超、3年以下	293,101	231,566	52,662	3,890	4,843	368,998	213,669	130,823	18,597	5,771
3年超、5年以下	275,327	253,440	15,626	3,269	2,920	451,562	280,189	139,080	30,481	1,719
5年超、7年以下	174,505	172,015	832	1,614	—	210,131	195,175	12,695	2,107	78
7年超	1,113,126	1,034,640	62,760	15,665	—	1,183,550	1,043,821	109,832	29,831	45
期間の定めのないもの	376,415	226,901	150	10,329	—	361,180	218,190	—	9,223	—
合計	2,872,816	2,236,307	358,263	73,373	9,883	2,979,258	2,249,888	448,008	103,344	9,688

（注）期間の定めのないものには、期間の不明なものを含んでおります。

## 3月以上延滞エクスポージャーの期末残高地域別

（単位：百万円）

	連結		単体	
	平成19年度	平成20年度	平成19年度	平成20年度
国内	16,195	29,854	14,244	28,016
国外	—	—	—	—
合計	16,195	29,854	14,244	28,016

（注）「3月以上延滞エクスポージャー」とは、元本又は利息の支払いが、約定支払日の翌日から3ヵ月以上延滞しているエクスポージャー、又は、引当金勘案前でリスク・ウェイトが150%となるエクスポージャーであります。

## 業種別

（単位：百万円）

	連結		単体	
	平成19年度	平成20年度	平成19年度	平成20年度
国内店分	16,195	29,854	14,244	28,016
製造業	1,514	2,002	1,466	1,918
農業	34	16	34	16
林業	—	—	—	—
漁業	14	4	14	4
鉱業	—	—	—	—
建設業	1,140	2,184	1,140	2,172
電気・ガス・熱供給・水道業	—	—	—	—
情報通信業	171	991	169	991
運輸業	111	492	106	462
卸売・小売業	2,593	1,792	2,547	1,757
金融・保険業	329	—	329	—
不動産業	2,267	13,838	2,267	13,833
各種サービス業	4,343	4,593	4,180	4,550
地方公共団体	—	—	—	—
その他	3,676	3,937	1,988	2,309
特別国際金融取引勘定分	—	—	—	—
政府等	—	—	—	—
金融機関	—	—	—	—
その他	—	—	—	—
合計	16,195	29,854	14,244	28,016

（注）「3月以上延滞エクスポージャー」とは、元本又は利息の支払いが、約定支払日の翌日から3ヵ月以上延滞しているエクスポージャー、又は、引当金勘案前でリスク・ウェイトが150%となるエクスポージャーであります。

一般貸倒引当金、個別貸倒引当金及び特定海外債権引当勘定の期末残高及び期中の増減額  
地域別（連結）

（単位：百万円）

	平成19年度			平成20年度		
	期首残高	期中増減	期末残高	期首残高	期中増減	期末残高
一般貸倒引当金	8,093	3,373	11,466	<b>11,466</b>	<b>4,991</b>	<b>16,458</b>
国内	8,053	3,353	11,406	<b>11,406</b>	<b>4,960</b>	<b>16,366</b>
国外	40	20	60	<b>60</b>	<b>30</b>	<b>91</b>
個別貸倒引当金	17,051	2,231	19,282	<b>19,282</b>	<b>2,985</b>	<b>22,268</b>
国内	17,051	2,231	19,282	<b>19,282</b>	<b>2,985</b>	<b>22,268</b>
国外	—	—	—	—	—	—
特定海外債権引当勘定	—	—	—	—	—	—
国内	—	—	—	—	—	—
国外	—	—	—	—	—	—

地域別（単体）

（単位：百万円）

	平成19年度			平成20年度		
	期首残高	期中増減	期末残高	期首残高	期中増減	期末残高
一般貸倒引当金	7,029	3,508	10,538	<b>10,538</b>	<b>4,478</b>	<b>15,016</b>
国内	6,989	3,488	10,477	<b>10,477</b>	<b>4,447</b>	<b>14,925</b>
国外	40	20	60	<b>60</b>	<b>30</b>	<b>91</b>
個別貸倒引当金	17,068	370	17,439	<b>17,439</b>	<b>3,208</b>	<b>20,647</b>
国内	17,068	370	17,439	<b>17,439</b>	<b>3,208</b>	<b>20,647</b>
国外	—	—	—	—	—	—
特定海外債権引当勘定	—	—	—	—	—	—
国内	—	—	—	—	—	—
国外	—	—	—	—	—	—

業種別（連結）

< 個別貸倒引当金 >

（単位：百万円）

	平成19年度			平成20年度		
	期首残高	期中増減	期末残高	期首残高	期中増減	期末残高
国内店分	17,051	2,231	19,282	<b>19,282</b>	<b>2,985</b>	<b>22,268</b>
製造業	1,597	1,159	2,757	<b>2,757</b>	$\triangle 530$	<b>2,227</b>
農業	6	$\triangle 5$	0	<b>0</b>	$\triangle 0$	—
林業	—	—	—	—	—	—
漁業	3	$\triangle 2$	1	<b>1</b>	$\triangle 0$	<b>0</b>
鉱業	—	—	—	—	—	—
建設業	370	350	720	<b>720</b>	<b>388</b>	<b>1,109</b>
電気・ガス・熱供給・水道業	—	—	—	—	—	—
情報通信業	—	37	37	<b>37</b>	<b>954</b>	<b>992</b>
運輸業	1,534	$\triangle 355$	1,179	<b>1,179</b>	$\triangle 28$	<b>1,150</b>
卸売・小売業	1,941	2,499	4,441	<b>4,441</b>	$\triangle 925$	<b>3,515</b>
金融・保険業	—	996	996	<b>996</b>	$\triangle 462$	<b>534</b>
不動産業	2,687	$\triangle 1,083$	1,604	<b>1,604</b>	<b>4,971</b>	<b>6,575</b>
各種サービス業	6,267	$\triangle 1,559$	4,708	<b>4,708</b>	$\triangle 1,280$	<b>3,427</b>
地方公共団体	—	—	—	—	—	—
その他	2,641	193	2,835	<b>2,835</b>	$\triangle 101$	<b>2,734</b>
特別国際金融取引勘定分	—	—	—	—	—	—
政府等	—	—	—	—	—	—
金融機関	—	—	—	—	—	—
その他	—	—	—	—	—	—
合計	17,051	2,231	19,282	<b>19,282</b>	<b>2,985</b>	<b>22,268</b>

（注）一般貸倒引当金については、業種別の区分は行っておりません。



# バーゼルⅡ 追加開示事項

## 業種別（単体）

### <個別貸倒引当金>

（単位：百万円）

	平成19年度			平成20年度		
	期首残高	期中増減	期末残高	期首残高	期中増減	期末残高
国内店分	17,068	370	17,439	<b>17,439</b>	<b>3,208</b>	<b>20,647</b>
製造業	1,556	1,184	2,741	<b>2,741</b>	△ 526	<b>2,214</b>
農業	6	△ 5	0	<b>0</b>	△ 0	—
林業	—	—	—	—	—	—
漁業	3	△ 2	1	<b>1</b>	△ 0	<b>0</b>
鉱業	—	—	—	—	—	—
建設業	370	350	720	<b>720</b>	<b>386</b>	<b>1,107</b>
電気・ガス・熱供給・水道業	—	—	—	—	—	—
情報通信業	—	35	35	<b>35</b>	<b>956</b>	<b>992</b>
運輸業	1,534	△ 356	1,177	<b>1,177</b>	△ 32	<b>1,145</b>
卸売・小売業	1,916	2,483	4,400	<b>4,400</b>	△ 890	<b>3,509</b>
金融・保険業	—	996	996	<b>996</b>	△ 462	<b>534</b>
不動産業	4,187	△ 2,583	1,604	<b>1,604</b>	<b>4,970</b>	<b>6,575</b>
各種サービス業	6,221	△ 1,634	4,586	<b>4,586</b>	△ 1,162	<b>3,423</b>
地方公共団体	—	—	—	—	—	—
その他	1,272	△ 97	1,175	<b>1,175</b>	△ 30	<b>1,144</b>
特別国際金融取引勘定分	—	—	—	—	—	—
政府等	—	—	—	—	—	—
金融機関	—	—	—	—	—	—
その他	—	—	—	—	—	—
合計	17,068	370	17,439	<b>17,439</b>	<b>3,208</b>	<b>20,647</b>

（注）一般貸倒引当金については、業種別の区分は行っておりません。

## 業種別の貸出金償却額

（単位：百万円）

	連結		単体	
	平成19年度	平成20年度	平成19年度	平成20年度
国内店分	524	<b>248</b>	1	<b>6</b>
製造業	—	<b>1</b>	—	<b>1</b>
農業	—	—	—	—
林業	—	—	—	—
漁業	—	—	—	—
鉱業	—	—	—	—
建設業	0	<b>0</b>	0	<b>0</b>
電気・ガス・熱供給・水道業	—	—	—	—
情報通信業	—	—	—	—
運輸業	—	<b>0</b>	—	<b>0</b>
卸売・小売業	0	<b>4</b>	0	<b>4</b>
金融・保険業	—	—	—	—
不動産業	—	<b>0</b>	—	<b>0</b>
各種サービス業	0	<b>0</b>	0	<b>0</b>
地方公共団体	—	—	—	—
その他	523	<b>242</b>	0	<b>0</b>
特別国際金融取引勘定分	—	—	—	—
政府等	—	—	—	—
金融機関	—	—	—	—
その他	—	—	—	—
合計	524	<b>248</b>	1	<b>6</b>

## リスク・ウェイトの区分ごとの信用リスク削減手法の効果勘案後の残高

信用リスク削減手法勘案後のエクスポージャー

(単位：百万円)

	連結		単体	
	平成19年度	平成20年度	平成19年度	平成20年度
0%	522,948	<b>669,685</b>	522,945	<b>669,505</b>
10%	263,558	<b>275,713</b>	263,558	<b>275,713</b>
20%	73,898	<b>68,966</b>	73,880	<b>68,959</b>
35%	483,818	<b>467,039</b>	483,825	<b>467,039</b>
50%	9,883	<b>10,836</b>	8,346	<b>9,559</b>
75%	312,057	<b>333,960</b>	312,709	<b>334,563</b>
100%	1,222,619	<b>1,160,211</b>	1,205,314	<b>1,144,496</b>
150%	2,372	<b>9,401</b>	2,236	<b>9,419</b>
合計	2,891,157	<b>2,995,814</b>	2,872,816	<b>2,979,258</b>

(注) 1.平成19年度及び平成20年度に、適格格付機関の格付を使用しているものではありません。法人等向けエクスポージャーについては、告示第67条の特例を適用しております。  
2.平成19年度及び平成20年度に、自己資本控除に該当しているものではありません。

### 信用リスク削減手法に関する事項

信用リスク・アセット算出にあたり、当行では告示第80条に基づき信用リスク削減手法を適用しております。適格金融資産担保は簡便手法を用いており、現金、自行預金、日本国政府若しくは我が国の地方公共団体が発行する円建ての債券等を適格金融資産担保として取扱っております。保証としては、日本国政府、我が国の地方公共団体、我が国の政府関係機関、金融機関等による保証を勘案しており、信用度の評価については、告示の要件に基づき行っております。また、貸出金と自行預金の相殺は、担保取得していない自行の定期預金を相殺対象としております。

### 信用リスク削減手法が適用されたエクスポージャー

(単位：百万円)

	連結		単体	
	平成19年度	平成20年度	平成19年度	平成20年度
適格金融資産担保が適用されたエクスポージャー	73,236	<b>62,821</b>	73,236	<b>62,821</b>
保証が適用されたエクスポージャー	70,057	<b>103,157</b>	70,057	<b>103,157</b>
クレジット・デリバティブが適用されたエクスポージャー	—	—	—	—
合計	143,293	<b>165,978</b>	143,293	<b>165,978</b>

(注) 信用リスク削減手法の効果が勘案された部分のみを算出しております。

### 派生商品取引及び長期決済期間取引の取引相手のリスクに関する事項

資金放出取引、為替取引、デリバティブ取引については、管理所管部が個々に取引先に対する信用力に応じた取引枠を定めて管理しております。また、その取引枠については、原則、半年毎に見直すこととしております。

### 与信相当額の算出に用いる方式

カレント・エクスポージャー方式を採用しております。

### 派生商品取引のグロス再構築コストの額及び与信相当額

(単位：百万円)

	連結		単体	
	平成19年度	平成20年度	平成19年度	平成20年度
①グロス再構築コストの額（零を下回らないものに限る）	6,483	<b>6,538</b>	6,483	<b>6,538</b>
②与信相当額（担保による信用リスク削減効果勘案前）	9,883	<b>9,688</b>	9,883	<b>9,688</b>
うち外国為替関連取引	9,580	<b>9,205</b>	9,580	<b>9,205</b>
うち金利関連取引	302	<b>483</b>	302	<b>483</b>
③①及びグロスのアドオンの合計額から②を差し引いた額	—	—	—	—
④担保の種類別の額	—	—	—	—
⑤与信相当額（担保による信用リスク削減効果勘案後）	9,883	<b>9,688</b>	9,883	<b>9,688</b>

(注) 1.平成19年度及び平成20年度に、クレジット・デリバティブの取組みはありません。  
2.原契約が5営業日以内の外為関連取引の与信相当額は除いております。

# バーゼルⅡ 追加開示事項

## 証券化エクスポージャーに関する事項

### 対応方針等について

当行では、現在のところ証券化商品の取組みについては、お客様のニーズに合った商品を提供する場合等、限定的に取組みを行うこととしております。従いまして、リスク管理手法等につきましては、個々のケースに応じて、その都度対応方針を決定しております。

平成19年度末及び平成20年度末現在、証券化エクスポージャーに該当する残高はございません。

## オペレーショナル・リスクに関する事項

### オペレーショナル・リスク管理の方針及び手続の概要

(基本方針)

当行ではオペレーショナル・リスク管理の基本方針を以下のように定めております。

「オペレーショナル・リスクを業務とリスクの特性に応じて識別、評価、コントロール、モニタリングするための効果的なフレームワークを整備する。」

(手続の概要)

P.11のリスク管理体制におけるオペレーショナル・リスク管理をご参照ください。

### オペレーショナル・リスク相当額の算出に使用する手法の名称

銀行（単体）は先進的計測手法における配分手法、子会社は基礎的手法を採用しております。

### 先進的計測手法を使用する場合における事項

(1) 手法の概要

[概要：配分手法について]

先進的計測手法とは自行開発したオペレーショナル・リスクの計量モデルを用いて、99.9%の確率でその値以下となる理論上の1年間に予想される最大の損失額を算出する計量手法です。先進的計測手法における配分手法とは、銀行の規模が小さい等の理由によりデータが少なく計量モデルによるスタンド・アローン（単独）での対応が困難な場合、グループでの計量に基づいて自行のオペレーショナル・リスク相当額を求めるものです。

当行の親銀行である三井住友銀行は、自行のデータから損失における「頻度」と「規模」の確率分布を推計し、それらを用いてリスク量を導く統計的計測手法を自行開発いたしました。当行が採用する配分手法は、三井住友銀行の計量化モデルを近似する統計的な枠組みであり、当行のような損失データの少ない銀行でも適用できる手法となっております。

配分手法の特徴としましては、安定的な計量の手法であることに加え、当行のオペレーショナル・リスクに関するプロファイルを適切に捉えられる算出式であることが挙げられます。具体的には、当行のリスクプロファイルは、親銀行である三井住友銀行と比較して規模等からも高額なリスク・シナリオがなく、また、シナリオの低頻度高額損失の影響度合いに関する分布状況も異なっていることが挙げられますが、それらの特徴を配分手法の枠組みの中に取り入れており、同手法が適切なリスク感応度を持っていることを確認しております。そして、配分手法はオペレーショナル・リスクの潜在的リスクの評価であるリスクコントロールアセスメントによるシナリオデータを入力する計量データの一つとしていることに加え、内部損失の発生状況も同手法には織り込んでおり、計量結果を活用したリスク削減活動について分かり易く取り組むことが可能な枠組みとなっております。

損失の発生状況は、その損失事象の種類によって異なる状況にあることから、配分手法においても損失発生事象をバーゼルⅡで定める「①内部の不正、②外部からの不正、③労務慣行及び職場の安全、④顧客、商品及び取引慣行、⑤有形資産に対する損傷、⑥事業活動の中断及びシステム障害、⑦注文等の執行、送達及びプロセスの管理」の7つの損失事象の種類毎に区分し、各損失事象毎に計測し、それらを合算して所要自己資本の額を算出しております。

[定量データ]

当行では以下の定量データを用いオペレーショナル・リスクの計量を行っております。

① 内部損失データ

内部損失データは平成15年度より6年間分を蓄積しております。当行では、原則1円以上の内部損失を収集対象とし、グロス損失金額、回収金額、ネット損失金額、発生日、その他事態の詳細などの情報を収集しております。

② リスクコントロールアセスメントによるシナリオデータ

事務取扱手続等を基にリスクコントロールアセスメントを実施する対象商品・業務を特定し、それぞれの業務プロセス毎に個別に想定されるリスクについてシナリオを導出します。導出した各シナリオについては、リスク評価とコントロール評価を行い、過去の内部損失実績や、各業務に応じた取扱金額等を踏まえ、シナリオの損失発生の頻度と損失規模を推計し、それらのデータに基づき客観性のある評価を実施しております。そして、リスクの影響度の高いシナリオについては、リスク削減計画を策定する等、シナリオデータを活用したリスク削減に取り組んでおります。

③ その他のデータ

外部損失データは、報道等で公開されたパブリックデータを情報ソースとし、平成13年度から8年間分を蓄積しております。また、業務環境や内部統制要因等のデータとして、法令等の制改定、行内規程等の改定、新種商品情報等を収集しております。

なお、シナリオデータに関しては内部損失データや外部損失データに基づいてシナリオの網羅性・適切性を検証するとともに、収集した法令等の制改定・行内規程等の改定・新種商品情報等を定期的にシナリオに反映させることによって業務環境等の変化に適切に対応しております。

[検証]

当行では、オペレーショナル・リスクの計量に用いる配分手法が適切であることを確認するために、様々な検証を三井住友銀行と連携して定期的実施しております。

配分手法の検証については、計測する前の事前検証として当該年度開始時に今後1年間使用する配分手法の妥当性を確認し、必要な場合には配分手法の枠組み（式の係数）等の見直しを行うこととしております。また、計量結果については事後検証（バックテスト）として当該年度終了時に実際に顕在化したリスクとの比較によりオペレーショナル・リスク相当額の充分性を検証し、必要に応じて保守的な対応を行う枠組みとしております。

シナリオデータの検証については、シナリオ評価の感応度と安定性を確認するために、スタビリティ・テストとして各シナリオに種々のストレスを賦課してその影響を分析することとしており、更に、シナリオ評価の適切性と妥当性を検証することを目的に、コンパリソン・テストとして主要なシナリオについて親銀行のシナリオと比較検証する枠組みを構築しております。

これまでの検証において問題点は発生しておらず、当行では以上の検証を継続的に実施することによってオペレーショナル・リスクの適切な計量を行ってまいります。

(2) 保険によるリスク削減の有無

平成20年度末基準において、保険によるオペレーショナル・リスクの削減は実施しておりません。

**オペレーショナル・リスクに対する所要自己資本の額及び手法ごとの額**

平成20年度末基準において、オペレーショナル・リスクに対する所要自己資本の額は以下の通りです。

(単位：百万円)

計測手法	適用先	平成19年度末		平成20年度末	
		オペレーショナル・リスク相当額	所要自己資本額	オペレーショナル・リスク相当額	所要自己資本額
先進的計測手法	みなと銀行（単体）	5,208	2,604	<b>5,913</b>	<b>2,956</b>
基礎的手法	連結子会社	622	311	<b>595</b>	<b>297</b>
合計（連結）		5,831	2,915	<b>6,508</b>	<b>3,254</b>

(注) 所要自己資本額は、オペレーショナル・リスク相当額を8%で除して得た額に4%を乗じて算定しております。

# バーゼルⅡ 追加開示事項

## 銀行勘定における出資等又は株式等エクスポージャーに関する事項

### 貸借対照表計上額、時価

(単位：百万円)

	連結		単体	
	平成19年度	平成20年度	平成19年度	平成20年度
上場株式等エクスポージャー	17,033	<b>12,816</b>	16,692	<b>12,636</b>
上場株式等エクスポージャーに該当しない出資等又は株式等エクスポージャー	3,019	<b>2,717</b>	5,776	<b>5,804</b>
合計	20,052	<b>15,534</b>	22,469	<b>18,441</b>

(注) 出資等の評価は、子会社株式については移動平均法による原価法、時価のあるものについては決算日の市場価格等(時価のある株式については決算期末1ヶ月平均)に基づく時価法(売却原価は移動平均法により算出)、時価のないものについては、移動平均法による原価法又は償却原価法により行っております。

### 出資等又は株式等エクスポージャーの売却及び償却に伴う損益の額

(単位：百万円)

	連結		単体	
	平成19年度	平成20年度	平成19年度	平成20年度
売却損益額	949	<b>△1</b>	876	<b>3</b>
償却額	△653	<b>△1,502</b>	△502	<b>△1,385</b>

### 貸借対照表で認識され、かつ、損益計算書で認識されない評価損益の額

(単位：百万円)

	連結		単体	
	平成19年度	平成20年度	平成19年度	平成20年度
評価損益	3,727	<b>△1,798</b>	3,585	<b>△1,803</b>

### 貸借対照表及び損益計算書で認識されない評価損益の額

該当ありません。

## 銀行勘定における金利リスクに関する事項

当行が内部管理において計測しております銀行勘定の金利リスクは、以下の通りです。

### (単体)

(単位：百万円)

	平成19年度	平成20年度
VaR(保有期間1日、観測期間1年、信頼確率99%)注1	417	<b>1,581</b>
GPS(10BP)注2	△115	<b>△1,299</b>

(注) 1.VaR:過去の市場金利変動をもとに、現在保有する資産・負債から将来発生し得る最大損失額を確率的に算出したもの。  
 2.GPS(10BP):金利が0.1%上昇した場合に価値が変動する額。  
 3.計測に当たり、定期預金の中途解約並びに貸出金の期限前償還については考慮しておりません。  
 4.コア預金(流動性預金のうち引出されることなく長期間滞留する預金)は、翌月から5年(60ヶ月間)まで毎月均等に期日が到来するものとして計測しております。  
 5.連結子会社の金利リスク量は算出しておりません。



# 法定開示項目

## ■銀行法施行規則（第19条の2、3）

1. 銀行の概況及び組織に関する事項	
イ. 経営の組織	39
ロ. 大株主一覧	37
ハ. 取締役及び監査役一覧	38
ニ. 営業所の名称及び所在地	40～44
2. 主要な業務の内容	
イ. 主要な業務の内容	26～35
3. 主要な業務に関する事項	
イ. 直近事業年度の事業の概況	4、5
ロ. 直近5事業年度の主要業務の状況	57
ハ. 直近2事業年度の業務の状況	
（1）主要業務の状況	
①業務粗利益、業務粗利益率	65
②資金運用収支、役務取引等収支、特定取引収支、 その他業務収支	65、68
③資金運用勘定、資金調達勘定の平均残高、利息、 利回り、資金利鞘	65、66、81
④受取利息、支払利息の増減	67
⑤総資産経常利益率、純資産経常利益率	81
⑥総資産当期純利益率、純資産当期純利益率	81
（2）預金に関する指標	
①流動性預金、定期性預金、譲渡性預金、 その他の預金の平均残高	69
②固定・変動自由金利定期預金、 その他の定期預金の残存期間別残高	79
（3）貸出金等に関する指標	
①手形貸付、証書貸付、当座貸越、割引手形の平均残高	70
②固定金利、変動金利貸出金の残存期間別残高	79
③担保種類別の貸出金残高、支払承諾見返額	71
④用途別貸出金残高	70
⑤業種別貸出金残高及び貸出金総額に占める割合	71
⑥中小企業等に対する貸出金残高及び貸出金総額に占める割合	70
⑦特定海外債権残高	72
⑧預貸率	81
（4）有価証券に関する指標	
①商品有価証券の種類別平均残高	74
②有価証券の種類別残存期間別残高	79
③有価証券の種類別平均残高	73
④預証率	81
4. 業務の運営	
イ. リスク管理の体制	10～13
ロ. 法令遵守の体制	14
5. 直近の2事業年度の財産の状況	
イ. 貸借対照表、損益計算書、株主資本等変動計算書	58～62
ロ. 貸出金のうち次の額及び合計額	
①破綻先債権	7
②延滞債権	7
③3ヵ月以上延滞債権	7
④貸出条件緩和債権	7
ハ. 自己資本の充実の状況	80
ニ. 次の取得価額又は契約価額、時価、評価損益	
①有価証券	75、76
②金銭の信託	76
③デリバティブ取引	77、78
ホ. 貸倒引当金の期末残高、期中増減額	72
ヘ. 貸出金償却額	72
ト. 会社法に基づく会計監査人の監査	58
チ. 金融商品取引法に基づく監査法人の監査証明	58
6. 銀行及びその子会社等の概況	
イ. 銀行及びその子会社等の主要な事業内容、組織構成	46
ロ. 銀行の子会社等に関する事項	46
7. 銀行及びその子会社等の主要業務	
イ. 直近事業年度の事業の概況	47
ロ. 直近5連結会計年度の主要業務の状況	47
8. 銀行及び子会社等の直近2連結会計年度の財産の状況	
イ. 連結貸借対照表、連結損益計算書、連結株主資本等変動計算書	48～51
ロ. 貸出金のうち次の額及び合計額	
①破綻先債権	7
②延滞債権	7
③3ヵ月以上延滞債権	7
④貸出条件緩和債権	7
ハ. 自己資本の充実の状況	56
ニ. 銀行及びその子法人等の事業の種類別セグメント情報	55
ホ. 会社法に基づく会計監査人の監査	48
ヘ. 金融商品取引法に基づく監査法人の監査証明	48
■金融機能の再生のための緊急措置に関する法律（第7条）	
資産査定公表	6、7、72

# 法定開示項目

## バーゼルⅡ 追加開示事項

### [定性的な開示事項]

#### 1. 連結の範囲に関する事項

- (1) 「連結グループ」に属する会社と「連結財務諸表規則」に基づき連結の範囲に含まれる会社との相違点…………… 84
- (2) 連結子会社の数、主要な連結子会社の名称、主要な業務の内容 46
- (3) 金融業務を営む関連法人の数、主要な金融業務を営む関連法人等の名称、主要な業務の内容…………… 84
- (4) 控除項目の対象となる会社の数、主要な会社の名称、主要な業務の内容…………… 84
- (5) 連結グループに属していない会社の数、主要な会社の名称、主要な業務の内容…………… 84
- (6) 連結グループ内の資金・自己資本の移動に係る制限等の概要 84

#### 2. 自己資本調達手段の概要…………… 84

#### 3. 自己資本の充実度に関する評価方法の概要…………… 84

#### 4. 信用リスクに関する事項

- (1) リスク管理の方針、手続の概要…………… 10～13
- (2) 標準的手法が適用されるポートフォリオに関する事項 85

#### 5. 信用リスク削減手法に関するリスク管理の方針、手続の概要 10～13、91

#### 6. 派生商品取引、長期決済期間取引の取引相手のリスクに関するリスク管理の方針、手続の概要…………… 91

#### 7. 証券化エクスポージャーに関する事項

- (1) リスク管理の方針、手続の概要…………… 92
- (2) 信用リスク・アセットの額の算出に使用する方式の名称 85
- (3) 証券化取引に関する会計方針…………… 92
- (4) 種類ごとのリスク・ウェイトの判定に使用する適格格付機関の名称…………… 86

#### 8. オペレーショナル・リスクに関する事項

- (1) リスク管理の方針、手続の概要…………… 92
- (2) オペレーショナル・リスク相当額の算出に使用する手法の名称 85
- (3) 先進的計測手法を使用する場合における事項…………… 92、93

#### 9. 銀行勘定における出資等又は株式等エクスポージャーに関するリスク管理の方針、手続の概要…………… 10～13

#### 10. 銀行勘定における金利リスクに関する事項

- (1) リスク管理の方針、手続の概要…………… 10～13
- (2) 内部管理上使用した銀行勘定における金利リスクの算定手法の概要…………… 10～13

### [定量的な開示事項]

#### 1. 控除項目の対象となる会社のうち、規制上の所要自己資本を下回った会社の名称、所要自己資本を下回った額の総額…………… 84

#### 2. 自己資本の構成に関する事項

- (1) 基本的項目の額等…………… 56、80
- (2) 補完的項目の額、準補完的項目の額の合計額…………… 56、80
- (3) 控除項目の額…………… 56、80

- (4) 自己資本の額…………… 56、80

#### 3. 自己資本の充実度に関する事項

- (1) 信用リスクに対する所要自己資本の額、ポートフォリオごとの額 85
- (2) オペレーショナル・リスクに対する所要自己資本の額、使用する手法ごとの額…………… 85、93
- (3) 自己資本比率、基本的項目比率…………… 56、80
- (4) 総所要自己資本額…………… 85

#### 4. 信用リスクに関する事項

- (1) エクスポージャーの期末残高、主な種類別の内訳…………… 86
- (2) エクスポージャーの期末残高のうち、区分ごとの額、主な種類別の内訳…………… 86～88
- (3) 三月以上延滞エクスポージャーの期末残高、区分ごとの内訳 88
- (4) 一般貸倒引当金、個別貸倒引当金、特定海外債権引当勘定の期末残高、期中の増減額（個別貸倒引当金については、区分ごとの期末残高、期中の増減額を含む）…………… 89、90
- (5) 業種別の貸出金償却の額…………… 90
- (6) リスク・ウェイトの区分ごとの信用リスク削減手法の効果勘案後の残高、自己資本比率告示の規定により資本控除した額 91

#### 5. 信用リスク削減手法に関する事項

- (1) 適格金融資産担保が適用されたエクスポージャーの額 91
- (2) 保証又はクレジット・デリバティブが適用されたエクスポージャーの額…………… 91

#### 6. 派生商品取引、長期決済期間取引の取引相手のリスクに関する事項

- (1) 与信相当額の算出に用いる方式…………… 91
- (2) グロス再構築コストの額の合計額…………… 91
- (3) 担保による信用リスク削減手法の効果勘案前の与信相当額 91
- (4) 上記(2)、グロスのアドオンの合計額から(3)を差し引いた額…………… 91
- (5) 担保の種類別の額…………… 91
- (6) 担保による信用リスク削減手法の効果勘案後の与信相当額 91
- (7) クレジット・デリバティブの想定元本額を種類別、プロテクションの購入又は提供の別に区分した額…………… 91
- (8) 信用リスク削減手法の効果勘案のため用いているクレジット・デリバティブの想定元本額…………… 91

#### 7. 証券化エクスポージャーに関する事項

- (1) オリジネーターである証券化エクスポージャーに関する事項 92
- (2) 投資家である証券化エクスポージャーに関する事項…………… 92

#### 8. 銀行勘定における出資等又は株式等エクスポージャーに関する事項

- (1) 貸借対照表計上額、時価…………… 94
- (2) 出資等又は株式等エクスポージャーの売却、償却に伴う損益の額 94
- (3) 貸借対照表で認識され、損益計算書で認識されない評価損益の額 94
- (4) 貸借対照表、損益計算書で認識されない評価損益の額 94

#### 9. 銀行勘定における金利リスクに関して内部管理上使用した金利ショックに対する損益又は経済的価値の増減額…………… 94

---

「MINATO BANK 2009」は、銀行法第21条に基づいて作成したディスクロージャー資料(業務および財産の状況に関する説明書)です。本資料に掲載の計数は、原則として単位未満を切り捨てのうえ表示しております。

発行 平成21年7月  
株式会社みなと銀行 企画部 調査広報室  
〒651-0193 神戸市中央区三宮町2丁目1番1号  
TEL.078(331)8141(代表)  
ホームページ: <http://www.minatobk.co.jp>



みなと銀行



この印刷物は環境保護を目的とし、再生紙と大豆油インキを使用しております。